

平成16年度

小学校・中学校基礎学力調査  
研究報告書

宮崎県教育研修センター

## はじめに

平成16年12月、「経済協力開発機構」や「国際教育到達度評価学会」の学力調査に関する調査結果が公表されました。これらの調査結果を受けて、文部科学省は、「日本の学力は国際的にみて上位にあるものの、読解力などの低下がみられ、世界トップレベルとは言えない状況である。」、「読解力が低下したこと、数学や理科の学力も低下傾向にあることについては、背景や原因をしっかりと分析する必要がある。」としています。

このような中、本県では、「宮崎の教育創造プラン」のもと、「宮崎ならではの教育」が推進されているところです。このプランの推進基盤となる施策の一つに、「学力の向上を図る指導の充実」があります。具体的には、基礎的・基本的な内容の確実な定着、「読むこと」「書くこと」「話すこと・聞くこと」「計算すること」の力を高める指導の推進、家庭学習や読書活動の推進等が掲げられています。

本研修センターでは、基礎的・基本的な内容の確実な定着を目指し、教育課程や指導方法の改善を図るための調査研究として、平成14年度から「基礎学力調査」を実施してきました。

平成16年度も小学校第3学年は国語、算数の2教科、第5学年は社会、理科を加え4教科、中学校第2学年は国語、社会、数学、理科、英語の5教科で行いました。昨年度に引き続き県内すべての公立小・中学校の参加があり、学力向上に対する関心の高さを感じます。

本報告書は、この調査の結果を基に、学習状況の分析・考察を行い、今後の指導上の留意点をまとめたものです。各学校におきましては、この資料を十分に活用していただき、基礎学力の向上につながる実践の方向性を明確にし、学習指導方法の工夫改善に役立てていただきたいと思います。

最後に、本調査の実施・分析等の際し、御協力いただいた県内の公立小・中学校及び関係諸機関に対しまして、心より御礼申し上げます。

平成17年3月

宮崎県教育研修センター  
所 長 山本 寛幸

# 小学校基礎学力調査結果分析

# 目 次

<b>平成16年度 小学校基礎学力調査</b>	
1 目的	3
2 調査対象及び実施教科	3
3 実施期日	3
4 調査問題作成の基準及び方針	3
5 調査集計の方法	3
6 調査結果の分析	3
7 調査結果の概要	4
<b>各教科の分析結果</b>	
1 小学校第3学年	
(1) 国語	
調査問題の構成とねらい	7
平均点	7
小問ごとのねらいと正答率	7
標準解答，正答率，誤答例，考察	8
(2) 算数	
調査問題の構成とねらい	15
平均点	15
小問ごとのねらいと正答率	15
標準解答，正答率，誤答例，考察	16
2 小学校第5学年	
(1) 国語	
調査問題の構成とねらい	23
平均点	23
小問ごとのねらいと正答率	23
標準解答，正答率，誤答例，考察	24
(2) 社会	
調査問題の構成とねらい	31
平均点	31
小問ごとのねらいと正答率	31
標準解答，正答率，誤答例，考察	32
(3) 算数	
調査問題の構成とねらい	41
平均点	41
小問ごとのねらいと正答率	41
標準解答，正答率，誤答例，考察	42
(4) 理科	
調査問題の構成とねらい	49
平均点	49
小問ごとのねらいと正答率	49
標準解答，正答率，誤答例，考察	50
<b>学習状況実態調査</b>	
1 調査内容	59
2 調査結果及び結果分析	61

# 平成16年度 小学校基礎学力調査

## 1 目的

本県小学生の基礎学力の定着状況について総合的に調査研究を行い、その実態を把握、分析するとともに、学習指導上の問題点を明らかにし、今後の教育課程の編成・実施及び指導方法の改善に資する。

## 2 調査対象及び実施教科

### (1) 調査対象

県内の公立小学校の中で本調査を希望するすべての小学校を対象とし、第3学年及び第5学年で実施する。

### (2) 実施教科

第3学年は、国語、算数の2教科、第5学年は、国語、算数、社会、理科の4教科を実施する。実施時間は、各教科45分とする。国語は聞き取り問題を含む。

## 3 実施期日

調査の実施期日は、原則として平成16年10月27日（水）、28日（木）とする。

## 4 調査問題作成の基準及び方針

### (1) 調査問題作成の基準

小学校学習指導要領に示されている各教科の目標に即し、県内で使用されている教科書に準拠して、問題を作成する。

### (2) 調査問題作成の方針

ア 小学校学習指導要領に示されている各教科の目標及び内容に基づき、基礎的・基本的な内容について出題する。

イ 出題に当たっては、理解力、思考力、判断力、表現力を総合的にみることができるようにし、単に知識のみを問う内容とならないよう配慮する。

ウ 特定の分野や内容に偏ることなく、広い範囲から出題し、小学校学習指導要領に示された内容について取扱いの趣旨を十分考慮する。

エ 調査結果が、今後比較検討できるような内容にする。

## 5 調査集計の方法

(1) 調査実施校より、調査集計表、各教科小問別集計表を回収し、調査人数、平均点、小問別正答率、誤答例等を集約する。

(2) 学習の実態を把握するため、「学習や生活についてのアンケート」も併せて実施する。

(3) 各教科小問別集計表と「学習や生活についてのアンケート」のサンプル数は、いずれも各学校1学級当たり5名分とする。その抽出にあたっては、男女合わせた無作為抽出とする。なお、在籍数が5名以下の場合は、全員分とする。

## 6 調査結果の分析

(1) 各小問別の正答率や主な誤答例を中心に分析し、調査結果に関する考察や指導上の留意点をまとめる。

(2) 調査対象学年について、調査結果の収集・分析を行い、学習の定着状況を把握し今後の指導に役立てる。

(3) 基礎学力の定着状況を把握し、今後の教育施策に生かす。

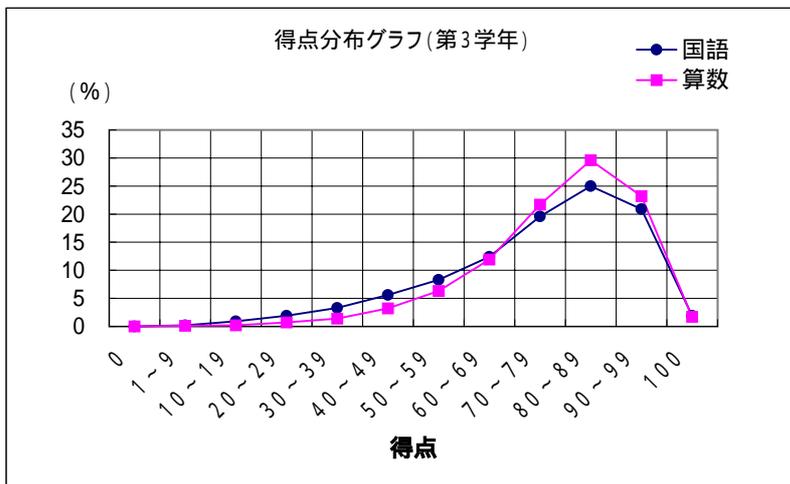
7 調査結果の概要

(1) 調査実施校 269校(宮崎大学教育文化学部附属小学校を含む)

(2) 平成16年度 小学校基礎学力調査結果 得点分布表(県全体)

	第3学年				第5学年							
	国語		算数		国語		社会		算数		理科	
	人数	%										
100	220	1.9	196	1.7	67	0.6	9	0.1	364	3.1	92	0.8
90~99	2430	20.9	2700	23.2	2777	23.8	943	8.1	2590	22.2	2642	23.1
80~89	2913	25.0	3451	29.6	3459	29.6	2653	22.7	2819	24.1	4149	36.2
70~79	2287	19.6	2533	21.7	2353	20.1	2916	25.0	2005	17.2	2584	22.5
60~69	1449	12.4	1382	11.9	1332	11.4	2261	19.4	1403	12.0	1200	10.5
50~59	964	8.3	736	6.3	800	6.8	1405	12.0	999	8.5	489	4.3
40~49	656	5.6	374	3.2	458	3.9	767	6.6	702	6.0	168	1.5
30~39	387	3.3	162	1.4	228	2.0	400	3.4	421	3.6	77	0.7
20~29	222	1.9	82	0.7	130	1.1	195	1.7	241	2.1	35	0.3
10~19	101	0.9	29	0.2	65	0.6	101	0.9	105	0.9	22	0.2
1~9	18	0.2	12	0.1	16	0.1	21	0.2	36	0.3	6	0.1
0	3	0.0	1	0.0	2	0.0	1	0.0	4	0.0	1	0.0
受検者数	11650		11658		11687		11672		11689		11459	
総得点	858775		899275		898581		806105		870089		912682	
最高点	100		100		100		100		100		100	
最低点	0		0		0		0		0		0	
平均点	73.7		77.1		76.9		69.1		74.4		79.6	

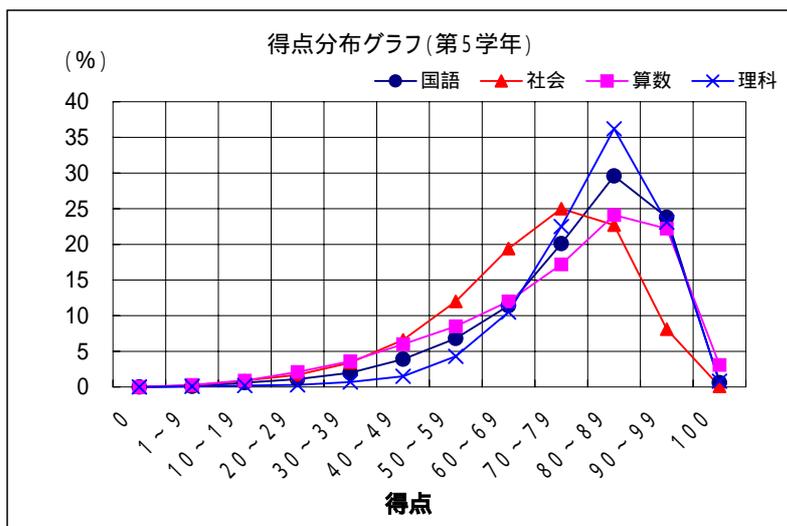
(3) 得点分布グラフ 第3学年



各教育事務所調査人数

事務所	国語	算数
宮崎	4214	4215
南那珂	774	774
北諸県	2071	2074
西諸県	772	773
児湯	1098	1099
東白杵	2412	2414
西白杵	206	206

第5学年



各教育事務所調査人数

事務所	国語	社会	算数	理科
宮崎	4213	4220	4213	4171
南那珂	762	761	761	756
北諸県	2112	2109	2109	2106
西諸県	827	823	824	819
児湯	1136	1136	1133	1135
東白杵	2292	2277	2303	2134
西白杵	241	241	241	233

# 各教科の分析結果

## 1 小学校第3学年

### (1) 国語

#### 分析結果の表記について

「小問ごとのねらいと正答率」の評価の欄の については、県正答率と予想正答率との差を記号化して示している。

- 1 県正答率が予想正答率よりも5ポイント以上高いもの.....
- 2 県正答率が予想正答率よりも5ポイント以上低いもの.....
- 3 1と2の間にあるもの .....

「小問ごとのねらいと正答率」の比較の欄の「H15」「全国」については、過去の基礎学力調査問題や全国教育課程実施状況調査問題と同一問題、類似問題であることを示している。

- 1 H15 ~平成15年度基礎学力調査問題と同一または類似問題
- 2 全国~平成13年度全国教育課程実施状況調査問題と同一または類似問題  
正答率と誤答率は、抽出調査した全人数に対する割合を表している。

誤答例については、抽出調査した中で、割合の高かったものを中心に記載している。



# (1) 国語

調査問題の構成とねらい

- ・ 「A 話すこと・聞くこと」、「B 書くこと」、「C 読むこと」及び〔言語事項〕に関する基礎的・基本的な知識や能力をみる問題とした。
- ・ 問題は、「聞き取り」、「物語文」、「説明文」、「ことば」、「話すこと」の5部構成とし、基礎的・基本的な内容について、特定の分野や内容に偏ることのないように、広い範囲から出題した。

平均点 73.7点

小問ごとのねらいと正答率

大問	分野	小問	内容・ねらい		主な領域・事項	大問別正答率	小問別正答率	予想正答率	評価	比較
一	聞き取り	1	内容の把握	文脈を踏まえて話の内容を聞き取ることができる。	話聞	88.5	80.7	70		
		2	内容の把握	文脈を踏まえて話の内容を聞き取ることができる。	話聞		96.4	75		H15
		3	内容の把握	文脈を踏まえて話の内容を聞き取ることができる。	話聞		88.3	75		H15
二	物語文	1	適語挿入	文脈を踏まえて適語を選択することができる。	読	68.9	89.8	80		H15
		2	適語抽出	文脈を踏まえ該当表現を指摘することができる。	読		72.6	75		H15
		3	内容把握	文脈を踏まえて場面の様子を理解することができる。	読		58.6	70		
		4	内容把握	文脈を踏まえて場面の様子を想像することができる。	読		54.6	65		
三	説明文	1	内容把握	文脈を踏まえて、問題提示の段落を指摘することができる。	読	67.3	62.6	80		H15
			内容把握	文脈を踏まえて、問題提示の段落を指摘することができる。	読		47.8	70		
		2	内容把握	文脈を踏まえて、叙述の細部を読み取ることができる。	読		63.5	70		
		3	適語抽出	文脈を踏まえて、該当表現を指摘することができる。	読		82.9	80		
		4	適語抽出	文脈を踏まえて、該当表現を指摘することができる。	読		72.1	75		
			適語抽出	文脈を踏まえて、該当表現を指摘することができる。	読		74.6	75		
四	ことば	1	(1) 筆順(書写)	正しい筆順で書くことができる。	言語	76.4	64.0	60		H15
			(2) 筆順(書写)	正しい筆順で書くことができる。	言語		66.9	60		
		2	(1) 漢字の読み	小学校3年生までに学習した漢字を読むことができる。	言語		55.2	65		H15
			(2) 漢字の読み	小学校3年生までに学習した漢字を読むことができる。	言語		98.0	75		
			(3) 漢字の読み	小学校3年生までに学習した漢字を読むことができる。	言語		79.3	70		
			(4) 漢字の読み	小学校3年生までに学習した漢字を読むことができる。	言語		83.6	70		
		3	(1) 漢字の書き	小学校2年生までに学習した漢字を書くことができる。	言語		77.8	80		
			(2) 漢字の書き	小学校2年生までに学習した漢字を書くことができる。	言語		82.9	80		
			(3) 漢字の書き	小学校2年生までに学習した漢字を書くことができる。	言語		60.3	80		
			(4) 漢字の書き	小学校2年生までに学習した漢字を書くことができる。	言語		80.1	80		
		4	(1) 形のかわる	動作を表すことばが、使い方で形がかわることを理解できる。	言語		94.6	80		
			(2) ことば	動作を表すことばが、使い方で形がかわることを理解できる。	言語		86.7	80		
			(3) ことば	動作を表すことばが、使い方で形がかわることを理解できる。	言語		79.3	80		
		5	国語辞典の使い方	国語辞典に配列されている語の順番が理解できる。	言語		77.1	70		
6	(1) 表記の仕方	正しい文章の表記の仕方が理解できる。	言語	63.2	90		H15			
	(2) 表記の仕方	正しい文章の表記の仕方が理解できる。	言語	73.8	90					
五	話すこと	1	筋道を立てて話すこと	物事の順序や伝えたいことの内容を意識して適切に話すことができる。	話聞	89.6	92.3	70		
			筋道を立てて話すこと	物事の順序や伝えたいことの内容を意識して適切に話すことができる。	話聞		93.5	70		
			筋道を立てて話すこと	物事の順序や伝えたいことの内容を意識して適切に話すことができる。	話聞		88.6	70		
		2	話し方	相手やその場に応じた分かりやすい話し方に気を付けることができる。	言語		79.9	80		
話し方	相手やその場に応じた分かりやすい話し方に気を付けることができる。		言語	93.6	70					

主な領域・事項は、話聞...「話すこと・聞くこと」、読...「読むこと」、言...「言語事項」を示している。

一 正答率 ( 88.5% )

問題番号	標準解答	正答率(%)	比較(%)	誤答例(%)
1	おかあさんが、 かぜをひいた(ひ いている)から	80.7		おかあさんが病気だから(3.6) おかあさんが熱を出したから(2.4)
2	イ	96.4	H15 97.2 類似	ア(2.0) ウ(0.4)
3	ア	88.3	H15 91.1 類似	ウ(9.6) イ(2.0)

< 考察 >

話の中心に気を付けて、大事な事を聞き取る力をみる問題である。

全体の結果から、聞く力はおおむね身に付いていると考えられる。問2、問3は、H15の類似問題であるが、正答率はほぼ同じである。問2、問3に比べて問1の正答率が低いのは、話の中心的内容については大まかにつかむことができるものの、中心的内容にかかわる細かいところまでは、正確に聞き取ることができていないためと思われる。誤答の中では、風邪を引いたことを「病気」や「熱」と答えている例が多い。お母さんに事情があったからということまでは理解できていても、どのような理由でという部分に注意を払って聞き取ることができなかつたためと思われる。

そこで、指導に当たっては、学年の発達段階に応じた聞き方(基本聴型)を整理し、事柄の順序や要点、中心など、話の組立て方を意識しながら、大事な事を聞き取ることができるよう指導することが大切である。その際、接続語や文末表現を意識しながら文のまとまりに着目するといった具体的な観点を示し、メモの取り方についても具体的に分かりやすく指導を行う必要がある。

二 正答率 ( 68.9% )

問題番号	標準解答	正答率(%)	比較(%)	誤答例(%)
1	イ	89.8	H15 88.1 類似	ア(4.4) ウ(3.0)
2	生まれたばかりの、小さな白い馬	72.6	H15 78.5 類似	生まれたばかりの白い馬でした。(3.6) 読点なし(6.4) 誤字,脱字(2.6)
3	体は雪のように白く、きりっと引きしまって、だれでも、思わず見とれるほどでした。	58.6		すすくと育ちました。(1.8) 句読点なし(6.4) 誤字,脱字(2.6)
4	(例)馬やひつじはだいじょうぶかなという気持ち	54.6		おおかみがひつじにとびかかろうとしていたから(3.2) 本文の書き抜き(1.8) 無解答(3.8)

< 考察 >

物語文を素材に、場面の移り変わりや情景を、叙述を基に想像しながら読み取る力をみる問題である。

問1は、文脈を踏まえて適語を選択する問題で、H15の類似問題であるが、昨年度同様、正答率は高い。問2は、文脈を踏まえて叙述に即した言葉の意味を問う問題で、これもH15の類似問題であるが、正答率が約6ポイント低下している。誤答の原因としては、正しく書き抜くことができずいたり、白いものが何かを読み取れていなかったりしていることが考えられる。問3は、すすくと育った状態がどのようなものを問う問題である。誤答の原因としては、すすくと育つという意味が理解できなかったり、正確に書き抜くことができずいたりしていることが考えられる。問4は、文脈に即して主人公の気持ちを考える問題であるが、正答率が特に低い。誤答の原因としては、駆けつけているときの気持ちを問う問題であるが、駆けつけた後の状況や気持ちを書いたり、本文を書き抜いたりしており、本文や問題文を正しく理解していないことが考えられる。

そこで、指導に当たっては、言葉への気付きを大切に、文脈における言葉の意味、語感などの幅のある理解や読み取りを通して、表現の役割や価値をとらえられるようにする必要がある。そのためには、日頃から、文章を読むこと(音読・朗読)を丁寧に指導したい。授業では、声に出して文章を読むことを指導過程の中に取り入れ、叙述に即して心情や場面の様子などを想像しながら読み取らせることが大切である。話し合いにおいても、単に印象のみを発表し合うのではなく、叙述を基に考えを深め合うことが大切である。

三 正答率 (67.3%)

問題番号	標準解答	正答率(%)		比較(%)	誤答例(%)
1		62.6	55.2	H15 37.0 類似	(15.4)
		47.8			(5.9)
2	はじめの一ぴきのみつばちが、すばこに帰って、なかまに教えたのではないか。	63.5			花のみつのかわりにさとう水を入れた皿をおいた(2.2) みつをすうため(1.6) 誤字, 脱字(1.8) 無解答(3.6)
3	さとう水	82.9			はなのみつ(2.2) みつばち(1.2) 無解答(2.8)
4	(1) 円のダンス (円をえがくようなダンス)	72.1			左回りや右回りをする(2.6) 円のダンスを教える(2.4) 無解答(3.0)
	(2) 8の字のダンス (8の字を書くようなダンス)	74.6			8の字ダンスを教えている(2.8) 字のダンス(2.2) 無解答(3.6)

<考察>

説明文を素材に、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係を考え、文章を正しく読む力をみる問題である。

問1は、文脈を踏まえて問題提示の段落を指摘する問題で、H15の類似問題であるが、昨年度に比べて正答率が伸びているものの、高いとは言えない。問題文に、「読み手にたずねている」とあるにもかかわらず、「～でしょう。」や「～のでしょうか。」のような文末表現に注目することができていない。問2は、大問三の中で正答率が最も低かった問題で、文脈を踏まえて、叙述の細部を読み取ることを問う問題である。学者の考えを聞いているのに、実験方法やみつばちが花畑に来る理由などを答えている誤答が多く、問題文を細かく読み取ることができていないことが分かる。問3、問4は、文脈を踏まえて、該当表現を指摘する問題であるが、中心となる語や文をとらえて読む力は、ついていると考えられる。問4の誤答例を見ると、文章全体の流れや要旨を的確にとらえることができていないために、問いかけ・実験・結果などの段落の構成が読み取れていないことが分かる。

そこで、指導に当たっては、説明文の特徴や段落の構成などを的確に押さえていく必要がある。そのためには、段落の要点を抜き出したり、意味のまとまりごとに小見出しを付けたりするなど、内容を整理することが大切である。その際、接続語や文末表現などにも注目させながら、内容と形式の両面から、段落や文章構成について理解できるように指導することが大切である。

四 正答率 ( 76.4% )

問題番号	標準解答	正答率(%)	比較(%)	誤答例(%)
1	(1) 六	64.0	H15 62.5 類似	八(22.4) 七(3.2)
	(2) 十三	66.9		十四(7.4) 十五(4.8)
2	(1) さいじつ	55.2	H15 74.4 同一	まつりび(4.0) まつり(3.2)
	(2) あ	98.0		あける(0.2) か(0.2)
	(3) そそ	79.3		およ(3.4) つ(2.8) 無解答(3.0)
	(4) どうさ	83.6		どうさく(4.2) 無解答(2.4)
3	(1) 黄色	77.8		黄ろ(3.2) 黄(3.0)
	(2) 午後	82.9		午後(2.0) 後午(1.8)
	(3) 通じる	60.3		通(1.4) 無解答(4.2)
	(4) 強まる	80.1		強丸(4.6) 無解答(2.6)
4	(1) 走ら	94.6		走(0.2) 走し(0.2) 無解答(0.8)
	(2) 走れ	86.7		走しれ(1.0) いけ(1.0) 無解答(2.4)
	(3) 走ろ	79.3		いこ(1.2) 走りあ(1.0) 無解答(3.0)
5	(3) (1) (2) あ あ あ き か き か い か ん ぜ	77.1		あかい あきかん あきかぜ(11.4) あきかぜ あきかん あかい(11.0)
6	(1) え へ	63.2	H15 87.2 類似	え に(2.6) 無解答(13.0)
	(2) 「わあ、にじだ。 きれいだね。」	73.8	H15 73.3 類似	「わあ、にじだ。」(2.2) 無解答(5.6)

< 考察 >

第3学年(教科書上巻)までに学習した漢字の読みと筆順,第2学年までの漢字の書きなど言語事項に関する力をみる問題である。

問1の漢字の筆順を問う問題は,H15の類似問題であり,正答率は昨年度同様,やや低い。問2,問3の漢字の読み書きについては,正答率からみると,その力が向上していることがうかがえる。しかし,問2(1)や問3(3)の正答率が極端に低くなっている。日常生活であまり使わない漢字の定着が十分でない。問4は,動詞の活用についての問いであるが,正答率は低くはないものの,全く違う言葉を答えている例もある。問題の意味を理解できていないためと考えられる。問6は,正しい文章表記の仕方を問うもので,第1学年で指導する内容であるが,昨年度と比べて正答率が極めて低くなっており,定着が十分でない。

そこで指導に当たっては,筆順や漢字の読み書き,活用と送り仮名などについて,重点的な指導を行い,文や文章を書く際に,漢字のもつ意味を考えながら正しく使う習慣を付けさせることが大切である。助詞の「は,へ,を」やかぎ(「」)の使い方については,視写や聴写の指導や,さまざまな書く機会をとらえた指導の中で,繰り返し指導して意識させることが必要である。さらに,語彙力を高めるために,国語辞典や漢字辞典などの使い方を理解させるために,必要なときにはいつでも辞書が手元にあり,使えるようにすることも大切である。

五 正答率 ( 89.6% )

問題番号	標準解答	正答率( % )	誤答例 ( % )
1	イ	92.3	ウ(5.2)
	ア	93.5	ウ(2.2)
	ウ	88.6	イ(3.0) ア(2.4)
2	イ	79.9	ウ(7.0) ア(3.2)
	エ	93.6	ウ(1.8)

< 考察 >

相手や目的に応じ、調べたことなどについて、筋道を立てて話す力をみる問題である。

問1は、伝えたいことを選び、自分の考えが分かるように筋道を立てて話す力をみる問題である。問2は、伝えたいことを選び、自分の考えが分かるように筋道を立てて話すこと、及び言語事項(1)(ア)「その場の状況や目的に応じた適切な音量や速さで話すこと」にかかわる問題である。いずれも正答率が高く、物事の順序や自分の思いなどが、分かりやすく伝わるように筋道を立てて話す力は、おおむね身に付いていると考えられる。

このような力を一層伸ばすためには、具体的な相手や目的を設定し、知りたい、分かりたいと思う相手に対して、知らせたい、伝えたいと思う事柄を話すという言語活動を展開することが大切である。その中で、行動の順序、時間の順序、場面の移り変わりの順序などを考えながら相手に分かりやすく話そうとすること、話の中心をはっきり決めて話そうとすること、話の要点が伝わるように工夫して話そうとすることなどを大切に指導する必要がある。また、場面や条件の違いに応じて、聞き手が聞き取りやすい音量や速さで話すという指導も必要である。

# 1 小学校第3学年

## (2) 算数

### 分析結果の表記について

「小問ごとのねらいと正答率」の評価の欄の については、県正答率と予想正答率との差を記号化して示している。

- 1 県正答率が予想正答率よりも5ポイント以上高いもの………
- 2 県正答率が予想正答率よりも5ポイント以上低いもの………
- 3 1と2の間にあるもの ……………

「小問ごとのねらいと正答率」の比較の欄の「H15」「全国」については、過去の基礎学力調査問題や全国教育課程実施状況調査問題と同一問題、類似問題であることを示している。

- 1 H15 ~ 平成15年度基礎学力調査問題と同一または類似問題
- 2 全国 ~ 平成13年度全国教育課程実施状況調査問題と同一または類似問題  
正答率と誤答率は、抽出調査した全人数に対する割合を表している。  
誤答例については、抽出調査した中で、割合の高かったものを中心に記載している。



## (2) 算数

調査問題の構成とねらい

- ・ 4つの領域の基礎的・基本的な内容を、3つの観点からみる問題とした。
- ・ 日常生活に見られる題材を取り上げ、興味・関心をもって取り組める問題とした。
- ・ 表現されたものから必要な情報をよみとり、的確に問題解決を図ることができるかみる問題とした。
- ・ 多様な考え方や表現力をみる問題を取り上げた。

平均点 77.1点

小問ごとのねらいと正答率

領域	大問	小問	内容・ねらい	主な観点	領域別正答率	小問別正答率	予想正答率	評価	比較
第1部 数と計算	1	(1)	加法(1位数+1位数)の計算ができる。	表	83.1	97.6	95		H15
		(2)	加法(2位数+1位数)の計算ができる。	表		97.4	95		H15
		(3)	加法(2位数+2位数)の計算ができる。	表		94.0	90		H15
		(4)	加法(3位数+2位数)の計算ができる。	表		86.9	85		H15
		(5)	減法(2位数-1位数)の計算ができる。	表		93.2	90		H15
		(6)	減法(3位数-2位数)の計算ができる。	表		90.9	85		H15
		(7)	減法(2位数-2位数)の計算ができる。	表		88.8	85		H15
		(8)	減法(3位数-3位数)の計算ができる。	表		76.3	75		H15
		(9)	乗法(1位数×1位数)の計算ができる。	表		94.9	95		H15
		(10)	乗法(何十×何)の計算ができる。	表		95.7	90		
		(11)	除法(2位数÷1位数)の計算ができる。	表		97.0	95		H15
		(12)	除法(2位数÷1位数)の計算ができる。	表		96.7	95		
	2	(1)	数の大小を比べることができる。	知	84.9	85			
		(2)	数の大小を比べることができる。	知	83.2	85			
		3	(1)	数の相対的な大きさをとらえることができる。	表	65.0	70		
			(2)	1万をこえる数の表記ができる。	表	67.4	60		H15
4	(3)	数直線上で求める数の位置がわかる。	表	76.8	75		H15		
	しきわり算とたし算を組み合わせて立式ができる。	考	48.9	50		H15			
	答えわり算とたし算を組み合わせて問題が解ける。	表	43.9	50		H15			
第2部 量と測定	5		長さを測定し、正しく表記することができる。	表	71.0	72.0	75		H15
	6	(1)	長さの計算を式に表すことができる。	考		82.3	80		H15
			長さの問題が解ける。(答え)	表		66.5	70		H15
	(2)		道のりの計算を式に表すことができる。	考		94.8	75		H15
			道のりの問題が解ける。(答え)	表		66.0	65		H15
	7	(1)	単位を適切に選ぶことができる。(km)	知		76.5	85		
		(2)	単位を適切に選ぶことができる。(l)	知		77.6	75		H15
		(3)	単位を適切に選ぶことができる。(cm)	知		83.2	85		
	8	(4)	単位を適切に選ぶことができる。(ml)	知		82.2	60		H15
		(1)	時間を計算によって求めることができる。	表		63.7	75		
(2)		時刻を計算によって求めることができる。	表	58.4	65		H15		
	(3)	時間を計算によって求めることができる。	表	28.6	50				
第3部 図形	9	(1)	色板で形をつくることができる。	表	84.2	79.8	85		H15
		(2)	色板で形をつくることができる。	表		69.4	80		
	10		三角形の弁別ができる。	知		89.5	90		H15
			四角形の弁別ができる。	知		86.4	90		H15
	11	(1)	三角形を分解して三角形をつくることができる。	考		88.9	85		
		(2)	三角形を分解して三角形と四角形をつくること ができる。	考		92.6	80		
		(3)	四角形を分解して三角形をつくること ができる。	考		87.1	85		H15
	(4)	四角形を分解して三角形と四角形をつくること ができる。	考	80.2	80		H15		
第4部 数量関係	12	(1)	資料のまとめ方が分かる。	表	78.5	87.2	90		H15
		(2)	表を基に を使ってグラフに表すことができる。	表		86.9	85		H15
		(3)	グラフのよみ方が分かる。	考		70.6	70		H15
	13		加減乗除の演算決定をすることができる。	考		69.3	70		H15

主な観点の欄は、考・・・「考え方」、表・・・「表現・処理」、知・・・「知識・理解」を表す。

第1部 数と計算 正答率(83.1%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	比較(%)	誤答例(%)	
1	(1)	13	97.6	H15 98.3 類似	12(0.8) 42(0.6)
	(2)	31	97.4	H15 93.3 類似	32(0.6) 85(0.2)
	(3)	81	94.0	H15 93.4 類似	83(1.6) 84(0.4)
	(4)	702	86.9	H15 84.9 類似	504(3.4) 792(1.6)
	(5)	25	93.2	H15 94.7 類似	35(0.8) 24(0.4)
	(6)	80	90.9	H15 91.9 類似	70(1.2) 120(0.6)
	(7)	58	88.8	H15 87.3 類似	110(1.4) 62(1.0)
	(8)	336	76.3	H15 75.2 類似	436(3.4) 346(2.6)
	(9)	28	94.9	H15 94.9 類似	24(1.6) 32(0.6)
	(10)	50	95.7		2(2.6) 6(0.2)
	(11)	6	97.0	H15 97.3 類似	320(0.2) 6006(0.4)
	(12)	4	96.7		7(0.8) 24(0.2)
2	(1)	イ	84.9		ウ(10.4) ア(1.2)
	(2)	エ	83.2		ア(9.2) イ(1.2)
3	(1)	370	65.0		37(7.0) 37000(3.6)
	(2)	40350400	67.4	H15 62.0 類似	4035400(3.0) 435400(3.0)
	(3)	860000	76.8	H15 74.4 類似	800006(3.4) 806000(3.2)
4	しき	$27 \div 3 + 21$	48.9	H15 45.1 類似	$21 + 27(11.2)$ $27 - 21(7.0)$
	答え	30	43.9	H15 44.1 類似	9(8.0) 6(4.0) 48(4.0)

<考察>

第1学年から第3学年の1学期までに学習する四則計算の基本的な計算力、数の大小比較、十進位取り記数法の理解、文章問題を解く力をみる問題である。

1の四則計算の問題については全体的に正答率が高い。しかし、昨年度同様に、2つの位で繰り下がりのある引き算の筆算問題では正答率が低く、十分に定着しているとは言えない。2の1万を超える数の大小比較の問題については、桁数に着目せずに数字の大きさを比べている誤答もある。3の1万を超える数の相対的な大きさや表記についての問題では、正答率が低くなっている。数のしくみや位取り記数法の原理が十分理解できていない。特に、大きな数で中に空位が出る数の表記の練習が不十分であることが考えられる。4の文章問題については正答率が5割を切っており、こうした文章問題を苦手としていることが分かる。傾向としては、問題場面を具体的にイメージできずに、文章問題に出てくる数字を順に式に当てはめて計算している誤答が多かった。

そこで、指導に当たっては、筆算の原理を再度確認しながら反復練習する機会を設けるなど、筆算の基本的な計算が着実に身に付くように継続的な指導を行う必要がある。その際、繰り下がりのある計算については、繰り下げた数字を忘れないように式に書き込ませるなど、丁寧に計算する態度を身に付けさせることも必要である。そして、1万を超える数については、視覚的に理解を深めていくことができる教材・教具を準備したり、操作活動を積極的に取り入れたりして、数の感覚を豊かにしていく必要がある。また、具体物ではとらえにくい大きな数のイメージを、コンピュータソフトを利用して視覚的に理解させるなどの工夫も効果的である。文章問題の指導においては、問題文の意味を的確にとらえさせることが必要である。そのためには問題場面を具体的にイメージして図や絵に表す活動や、式と答えの意味を話し合う活動を取り入れる必要がある。

第2部 量と測定 正答率(71.0%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	比較(%)	誤答例(%)
5	9cm3mm	72.0	H15 71.2 類似	9 3 cm (3.2) 9 cm 4 mm (2.0)
6	(1) 式 8cm7mm + 3cm	82.3	H15 80.9 類似	8 + 7 + 3 (2.2)
	(1) 答え 11cm7mm	66.5	H15 65.2 類似	18cm (5.0) 90cm (3.0)
	(2) 式 800m + 700m	94.8	H15 56.5 類似	800m - 700m (1.0) 800m + 70m (0.2)
	(2) 答え 1km500m	66.0	H15 57.1 類似	1km5m (6.4) 1500m (5.0) 1k500m (2.6)
7	(1) k m	76.5		m (7.0) k (6.4)
	(2) ℓ	77.6	H15 72.7 類似	c m (3.2) dℓ (3.0)
	(3) c m	83.2		mm (7.0) dℓ (3.0)
	(4) ml	82.2	H15 42.1 類似	dℓ (10.2) mm(5.0)
8	(1) 4 5分	63.7		5 0 (3.2) 5 5分 (2.2)
	(2) 午前9時25分	58.4	H15 56.8 類似	9時20分(2.8) 9時15分(2.0)
	(3) 4時間30分	28.6		5時間30分(6.2)

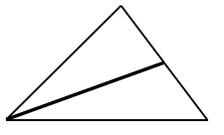
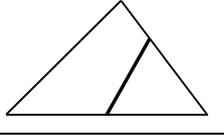
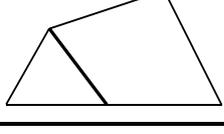
<考察>

長さの測定の能力、長さやかさに対する量感や時刻、時間を求める力をみる問題である。

5の長さを測る問題では、30cmものさしで正しく長さを測ること、目盛りを読むことが70%にとどまっている。6の長さや距離を計算で求める問題では、昨年度に比べ、特に(2)の正答率が上昇している。これは、文章問題の解釈の難しさの違いと、差と和の違いからきていると思われる。また、80%以上の児童が立式はできるが、正しく解答しているのは60%であった。これは、mm、cm、mなどの単位の理解や単位換算の理解が不十分であることが原因であると考えられる。7の単位を記入する問題では、昨年度に比べ、mlの正答率が上昇している。これは、各学校において昨年度の基礎学力調査結果を基に、指導が徹底した結果であると思われる。cmやmなど日常生活でよく使われる単位の正答率は80%を超えているが、kmやℓは80%に満たない正答率である。また、長さの単位で答える問題をかさの単位で答えるなど、単位の意味を十分に理解できていない児童もいる。8の時刻や時間を求める問題では、全体的に正答率が低い。特に8時 分～9時 分というように、正時を超えての時間経過を考える場面で、正時までの時間に正時からの時間を加えて答えを求める考え方が十分に身に付いていない。

そこで、指導に当たっては、長さの測定では、ものさしを使って長さを測る活動を日常的に取り入れ、mm、cm、mの量感を正確にとらえさせることが大切である。単位については、単位の意味や表記の仕方を正確に理解させるとともに、それらの単位が身の回りでどのように使われているのかを、具体物や写真などを使って理解させることが大切である。また、長さの単位とかさの単位を区別させる手立てとして、教室の掲示を工夫したり、特設コーナーを設置したりして日頃から量感を養うことが必要である。時間については、時計の模型を使った練習を多く取り入れ、まず正確に時刻をよむことや、1時間=60分であることを身に付けさせるとともに、生活の中で時間の経過を意識させるような、教師による言葉かけをすることも有効である。また、コンピュータソフトが多く開発されていることから、それらを使って視覚的に理解させることも有効である。

第3部 図形 正答率(84.2%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	比較(%)	誤答例(%)	
9	(1)	8	79.8	H15 89.0 類似	5(3.6) 7(3.0) 4(2.2)
	(2)	10	69.4		8(4.0) 3(3.0)
10	三角形 ア	89.5	H15 93.1 類似	キ(1.8) オ(0.4)	
	四角形 オ	86.4	H15 85.3 類似	ウ(0.8) エ(0.8)	
11	(1)		88.9		定規未使用(2.4) 2本の線をかいている(0.6) 三角形と四角形(0.4)
	(2)		92.6		定規未使用(2.8) 2本の線をかいている(1.2)
	(3)		87.1	H15 87.6 類似	定規未使用(2.8) 2本の線をかいている(1.6)
	(4)		80.2	H15 85.3 類似	定規未使用(1.8) 2本線をかいている(0.6)

<考察>

三角形と四角形の構成と分解の力や図形を弁別する力をみる問題である。

9の三角形の色板の数を数える問題については、昨年度に比べ正答率が10ポイント下がっている。これは、昨年度は教科書に合わせた問題であったのに対して、本年度は、昨年度の問題とは逆の発想で数える問題であったからと思われる。与えられた形から三角形の色板をイメージすることができず、三角形と四角形を混同して数えている誤答が多かった。10の三角形及び四角形を弁別する問題については、昨年度と同様に正答率は高かった。しかし、昨年度と同様に、曲線を含む図形も三角形や四角形と認識している誤答が見受けられた。11の直線をかき入れて指定された図形を作る問題については、昨年度とほぼ同じ程度の正答率であったが、定規未使用による誤答が多かった。準備物についての事前指導とテスト前の指示の徹底が必要である。

そこで、指導に当たっては、図形について理解させたり、図形の性質を見いださせたりするために、形作りをしたり、模様作りをしたりするなどの体験的な活動や操作的な活動の時間を十分にとることが必要である。その際、作業的な活動に終始することなく、作成した図形について教師の発問や児童相互の話し合いなどによって、図形についての見方や感覚を磨いていくことが大切である。そのような経験を踏まえながら、補助線を引いたり、念頭で操作をしたりすることができる力を身に付けさせていきたい。さらに、その活動が今後どのような学習につながっていくのかを整理した上で、系統的に指導していく必要がある。また、定規で直線を引くなどの基本的な操作活動も丁寧に行わせることが大切である。





## 2 小学校第5学年

### (1) 国語

#### 分析結果の表記について

「小問ごとのねらいと正答率」の評価の欄の については、県正答率と予想正答率との差を記号化して示している。

- 1 県正答率が予想正答率よりも5ポイント以上高いもの………
- 2 県正答率が予想正答率よりも5ポイント以上低いもの………
- 3 1と2の間にあるもの ……………

「小問ごとのねらいと正答率」の比較の欄の「H15」「全国」「H14」については、過去の基礎学力調査問題や全国教育課程実施状況調査問題と同一問題、類似問題であることを示している。

- 1 H15 ~ 平成15年度基礎学力調査問題と同一または類似問題
- 2 H14 ~ 平成14年度の小学校第3学年の基礎学力調査問題と同一または類似問題
- 3 全国 ~ 平成13年度全国教育課程実施状況調査問題と同一または類似問題  
正答率と誤答率は、抽出調査した全人数に対する割合を表している。

誤答例については、抽出調査した中で、割合の高かったものを中心に記載している。



# (1) 国語

調査問題の構成とねらい

- ・ 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」及び[言語事項]に関する基礎的・基本的な知識や能力をみる問題とした。
- ・ 「聞き取り」、「物語」、「説明文」、「ことば」、「作文」の5部構成とし、基礎的・基本的な内容について、特定の分野や内容に偏ることのないように、広い範囲から出題した。

平均点 76.9点

小問ごとのねらいと正答率

大問	分野	小問	内容・ねらい	主な領域・事項	大問別正答率	小問別正答率	予想正答率	評価	比較
一	聞き取り	1	大意の把握	文脈を踏まえて話の概要を聞き取ることができる。	話聞	77.2	99.5	95	
		2	あ 要点の把握	文脈を踏まえて話の内容を聞き取ることができる。	話聞		58.0	85	
		い 要点の把握	文脈を踏まえて話の内容を聞き取ることができる。	話聞	86.9		85		
		3	ア 要点の把握	文脈を踏まえて話の内容を聞き取ることができる。	話聞		71.6	80	
			概要の把握	文脈を踏まえて話の内容を聞き取ることができる。	話聞		79.2	85	
		4	概要の把握	文脈を踏まえて話の内容を聞き取ることができる。	話聞		53.2	80	
			概要の把握	文脈を踏まえて話の内容を聞き取ることができる。	話聞		92.3	90	
二	物語	1	内容把握	文脈を踏まえて場面の様子を理解することができる。	読	85.1	77.3	80	
		2	内容把握	文脈を踏まえて心情を理解することができる。	読		72.8	80	
		3	内容把握	文脈を踏まえて心情を理解することができる。	読		81.2	80	H15
		4	内容把握	文脈を踏まえて場面の様子や心情を理解し、該当表現を指摘できる。	読		97.4	85	
					96.7	85			
三	説明文	1	内容把握	叙述の順序を正確に読み取ることができる。	読	82.8	75.5	75	H14
		2	内容把握	文脈を踏まえて指示語の表す内容をつかむことができる。	読		80.7	80	H15
		3	適語挿入(接続語)	文の意味や文章全体の意味内容を考えながら、適合する接続語を入れることができる。	読		86.5	80	H15
		4	適語抽出	文脈を踏まえて、当該表現を書きぬくことができる。	読		93.8	85	
			適語抽出	文脈を踏まえて、当該表現を書きぬくことができる。	読		96.1	85	
5	内容把握	文章の内容を的確におさえながら要旨をとらえ、自分の考えを表現できる。	読	64.3	75	全国			
四	ことば	1	(1) 筆順	正しい筆順で書くことができる。	言語	70.8	67.5	75	H14
			(2) 筆順	正しい筆順で書くことができる。	言語		30.0	50	
		2	(1) 漢字の読み	小学校5年生(上本)までに学習した漢字を読むことができる。	言語		86.7	85	
			(2) 漢字の読み	小学校5年生(上本)までに学習した漢字を読むことができる。	言語		88.2	90	全国
			(3) 漢字の読み	小学校5年生(上本)までに学習した漢字を読むことができる。	言語		96.4	90	
		3	(1) 漢字の書き	小学校4年生までに学習した漢字を書くことができる。	言語		77.7	75	
			(2) 漢字の書き	小学校4年生までに学習した漢字を書くことができる。	言語		55.3	70	
			(3) 漢字の書き	小学校4年生までに学習した漢字を書くことができる。	言語		82.7	80	H14
		4	(1) 文の構成把握	主述の関係を理解し、指摘できる。	言語		58.2	70	H15
			(2) 文の構成把握	主述の関係を理解し、指摘できる。	言語		66.4	80	H15
		5	(1) 反対語の把握	反対語を正しくとらえることができる。	言語		54.4	70	全国
			(2) 反対語の把握	反対語を正しくとらえることができる。	言語		93.7	90	
		6	(1) ローマ字表現	簡単なローマ字の書きができる。	言語		35.3	60	H15
(2) ローマ字表現	簡単なローマ字の読みができる。		言語	82.2	80	H15			
7	辞書の活用	国語辞典の使い方を理解している。	言語	88.0	85				
五	作文	条件作文	伝える相手や目的を意識して文脈の通った文章を書くことができる。	書	78.4	78.4	75		

主な領域・事項は、話聞...「話すこと・聞くこと」、書...「書くこと」、読...「読むこと」、言...「言語事項」を示している。

一 正答率 (77.2%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	誤答例(%)
1	びゅんびゅんご まの作り方に	99.5	一つめに (0.2)
2	あ	58.0	あつ紙(5.2)ダンボール(4.2)無解答(6.6)
	い	86.9	ダンボール(1.6)あつ紙(1.4)無解答(1.6)
3	対角線	71.6	線(5.0)たこ糸(1.0)無解答(3.2)
4	右から	×	79.2 (2.2) 無解答(6.8)
	順に	×	53.2 (16.8) 無解答(7.6)
			92.3 ×(2.8) 無解答(2.2)

< 考察 >

話の概要や要点を正しく聞き取る力をみる問題である。

「聞く」力については、予想した正答率よりもやや低い結果となった。記述式である問2の「あ」と「い」とで正答率に差があるのは、びゅんびゅんごまの作り方について、大事な言葉をおさえながらイメージして聞く力が十分に身に付いておらず、びゅんびゅんごまを作るのに必要な物をつかむことはできても、びゅんびゅんごまを作るのに必要な物の形「正方形」まで、的確につかむことができなかつたためと考えられる。また、必要なことを正しく聞き取り、わかりやすくメモを取ることが十分にできていないため、記述式の問題では、無解答や内容に合わない答を書いている割合が高くなっていると考えられる。話し手がどのような目的や意図をもって話をしているのかを考えながら聞き、大事な言葉や内容の中心、要点は何かをつかむ能力を育成する必要がある。

そこで、指導に当たっては、話し手の意図や伝えたいことは何かを意識しながら、大事な言葉や要点を聞き取ることができるよう指導することが大切である。そのためには、大事な言葉を聞き取ることができるようにするための「メモの取り方」を身に付けさせなければならない。例えば、「何をメモするか」を教える指導として、メモを取らずに、集中して話を聞かせた後で、話の概要や要点について話し合う中で、何をメモすればよいかに気付かせるなどの指導が考えられる。

二 正答率 (85.1%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	比較(%)	誤答例(%)
1	草や木が一本も生えていなかったから	77.3		「ので」「から」を付けて答えていない(4.2) 山はだにじかにふりかかるのは、雨や雪だけ(3.4)
2	ウ	72.8		イ(12.4) エ(3.4) ア(2.8)
3	・小鳥がいなくなるとさびしくなる。 ・もっといっしょにいたい。	81.2	H15 81.0 類似	気持ちが表現できていない(1.8) 無解答(3.2)
4	エ	97.4		ウ(0.8) ア(0.6)
	ア	96.7		イ(0.8) エ(0.8)

<考察>

文脈を踏まえて、物語文の中で、登場人物の気持ちや場面の様子を的確に読み取る力をみる問題である。

問4の該当表現を指摘する問題は、かなり正答率が高く、登場人物がどのような気持ちでいるのかについて、大まかに想像することはできていると考えられる。しかし、問2の文脈を踏まえて登場人物の気持ちを想像する問題の正答率が低くなっている。これは、「わくわくして」という言葉に着目して読み取ることが、十分にできていないためと考えられる。問3の登場人物の心情を想像して書く問題は、昨年度とほぼ同程度の正答率である。誤答例をみると、気持ちを表現することができていないものや無解答が多い。昨年度も、本文をそのまま写して、登場人物の気持ちを自分の言葉で表現することができていない誤答が多かった。文脈に沿って人物の気持ちをとらえ、想像した考えを自分の言葉でまとめて書く力が十分に身に付いていないと考えられる。

そこで、指導に当たっては、「言葉」に着目して、主体的に心情や場面の様子を読み取らせることが大切である。そして、話合いの場面で、自分で考えたことを自分なりの言葉で整理して話す力を伸ばすとともに、「言葉」から広がる「想像することの楽しさ」を味わわせることが大切である。具体的に、次のような指導が考えられる。

情景などの表現に着目させるために、文章の必要な部分を詳しく読んだり、優れた表現を視写したりするなど、「言葉」との関連を意識できるようにする。

「言葉」を使った短文作りをしたり、副詞や助詞の使い方による意味の違いに気付かせたりして、「言葉」の意味を正しくとらえさせるようにする。

学習課題を明確にもたせ、ワークシートの記入やノートへの書き込みなどによる一人調べの時間の充実を図り、主体的な学習活動を展開する中で学ぶ楽しさを味わわせるようにする。

「この言葉から、～という気持ちが分かる」というように、「言葉」に着目した根拠のある発表の仕方を身に付けさせるとともに、友達の考えを聞き、多様な考え方にふれさせるようにする。

さらに、言語活動を組み込むよう配慮したり、主体的な読書活動に発展していくような指導の展開を工夫したりする必要がある。

三 正答率 (82.8%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	比較(%)	誤答例(%)
1	右から 5 3 4 2	75.5	H14 67.0 類似	4 5 3 2 (2.4) 5 4 3 2 (2.2)
2	やわらかい土 の中	80.7	H15 57.0 類似	小さな部屋をつくり (4.8) 自分が動けるだけ (4.0)
3	イ	86.5	H15 65.4 類似	エ (3.0) ウ (1.6)
4	(1) 水量がほうふ	93.8		水量ほうふな (0.6) いつもきれい (0.6)
	(2) コケ	96.1		こけ (0.6) 無解答 (0.8)
5	ホタルの生き られるかんき ょうをとりも どすことが必 要である。	64.3	全国 79.5 類似	「かんきょう」「ホタル」のことは使 っていない (7.0) 自分のことばで述べていない (3.8)

<考察>

説明的な文章の内容について、的確に読み取る力をみるとともに、文章の構成に関する理解の状況をみる問題である。

問4の、文脈を踏まえて大事な言葉を書き抜く問題では正答率が高くなっている。また、問2の指示語の内容を的確にとらえる問題や問3の適切な接続語を入れる問題でも、昨年度に比べて正答率が高くなっている。これは、素材文が比較的読み取りやすいものであったことや、答えとなる接続語「そして」が、日常よく使うものであったことによると考えられる。しかし、指示語に関する問では、指示語の後に出てくる言葉を答えている誤答例がある。指示語の役割を正しく知らせ、指示語の示す内容を正しくとらえることができる力を養う必要がある。問1の叙述の順序を正確に読み取る問題では、第3学年時の問題に比べて正答率が高くなっている。これは、学習の積み重ねによる成果であると考えられる。問5の文章の内容を的確におさえながら要旨をとらえ、自分の考えを表現する問題では、全国に比べて正答率が低く、「かんきょう」「ホタル」の言葉を使っていないという誤答や、自分の言葉で述べていないという誤答がある。文章の内容を踏まえて、自分の言葉で表現する力が十分に身に付いていないと考えられる。

そこで、指導に当たっては、説明的な文章の基本的な論の構成、接続語や指示語、文末表現などの説明的な文章の特徴をとらえさせることを大切にすることが必要である。具体的に、次のような指導が考えられる。

題名や冒頭段落部分から説明内容に対する関心を深めさせる。

段落の要点、段落相互の関係、小見出しの付け方、要旨の把握など説明的な文章の学習方法を身に付けさせて、読解の能力を育てる。

できるだけ簡潔に要旨をまとめたり、筆者の考えや意見に対する自分の考えをまとめたりする学習を通して、自分の考えを自分の言葉で表現する力を育てる。

さらに、読書指導において、説明的な文章に親しませるよう配慮する必要がある。

四 正答率 (70.8%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	比較(%)	誤答例(%)
1	(1) 八	67.5	H14 87.0 同一	九(17.0)十(2.0)
	(2) 四	30.0		九(13.8)六(8.4)
2	(1) ころご	86.7		しめ(0.8)ころごす(0.6)
	(2) もくじ	88.2	全国 92.9 同一	目を「もく」と読んでいない(1.6) 無解答(5.4)
	(3) よこぶえ	96.4		横を「よこ」と読んでいない(1.2)
3	(1) 整える	77.7		送りがなの間違い(2.0)
	(2) 包帯	55.3		句帯など「包」の間違い(2.8) 包体(2.2)
	(3) 新聞	82.7	H14 57.0 同一	新聞など「聞」の間違い(3.0)
4	(1) イ	58.2	H15 64.2 類似	オ(11.0)ウ(6.4)
	(2) カ	66.4	H15 79.3 類似	オ(12.4)エ(3.6)
5	(1) エ	54.4	全国 88.7 類似	イ(19.4)
	(2) ウ	93.7		ア(1.8)
6	(1) ringo	35.3	H15 54.0 類似	大文字と小文字がまざっている(3.6) 無解答(16.2)
	(2) つくえ	82.2	H15 69.0 類似	無解答(9.2)
7	右から	88.0		と が逆(5.2)

<考察>

言語事項の学習内容について、定着状況を見る問題である。

漢字の読みの正答率は比較的高い。また、問3の漢字の書きの③については、第3学年時よりも高くなっており、漢字の書きの練習の積み重ねによる成果であると言える。しかし、言語事項については、他の大問に比べて正答率が低くなっている。問1の筆順の問題の①については、第3学年時よりも低くなっており、筆順の定着は十分ではないと言える。問2の漢字の読みの②については、全国に比べてやや低い。音読みと訓読みを理解させ、正しく読むという意識を高める必要がある。問4の主語と述語の関係をとらえる問題では、主語・述語ともに、昨年度に比べて正答率が低くなっている。述語に比べて主語をとらえる問題の正答率が低く、主語と述語との関係を的確にとらえる力が十分に身に付いていないと言える。問5では、「前進」の反対語の「後退」をとらえる問題の正答率が全国に比べてかなり低く、漢字の意味を考えて熟語の意味をとらえる力が十分に身に付いていないと言える。問5のローマ字の読み書きの問題についても、昨年度に比べて正答率が低くなっており、特にローマ字の書きの正答率が低い。簡単なローマ字の読み書きの力が十分に身に付いていないと言える。

そこで、指導に当たっては、次のような工夫が考えられる。

漢字については、新出漢字の指導の際に空書きをさせたり、漢字の意味を押さえたりする。また、繰り返し学習においては、読み書きの練習だけでなく、筆順の問題も取り入れる。さらに、書写の時間の充実を図る。

熟語の意味を漢字の意味から類推させたり、同義語や反対語を考えさせたりするような、楽しく言葉を学習する場を設け、言葉への関心を高め、語彙力を伸ばす必要がある。

主語と述語の関係については、読みの学習の中で意識させる時間を確保したり、問題プリントを作成して復習させたりして、その定着を図る。

ローマ字については、諸学習活動でローマ字にふれる機会を利用して、正しく読ませたり書かせたりして、ローマ字に親しませる。

五 正答率 (78.4%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	誤答例(%)
五	省略	78.4	3つの条件が満たされていない(9.0) 字数の過不足がある(5.4)

<考察>

与えられた条件をもとに、伝える相手や目的を意識して文字言語で表現する力をみる問題である。

誤答例を見ると、3つの条件が満たされていないものが多い。書く必要のある事柄を整理して書く力が十分に身に付いてないと考えられる。

そこで、指導に当たっては、相手意識や目的意識を明確にし、多様な文章を書く機会を与えることが必要である。そのためには、書きたいことや伝えたいことは何かを明確にして書くことを具体的に指導するとともに、簡潔にわかりやすくまとめるという学習経験の場を増やすことが必要となる。具体的に、次のような指導が考えられる。

短作文指導において、教師から共通の題材を与え、書くための視点を明確にもたせて書かせるような機会をもち、書くことへの関心を高めるようにする。

相手に自分の気持ちや考えを述べている文例を紹介したり、お互いの表現の仕方について話し合ったりして、表現の仕方を学ぶ場をもち、表現することの楽しさを感じ取らせる。

正しい表記の仕方をまとめたものを掲示し、常に意識させるような環境づくりをするとともに、誤字・脱字をなおしたり、句読点を正しく打ったりするような学習活動を設定し、児童自身で推敲できる力を身に付けさせる。

## 2 小学校第5学年

### (2) 社会

#### 分析結果の表記について

「小問ごとのねらいと正答率」の評価の欄の については、県正答率と予想正答率との差を記号化して示している。

- 1 県正答率が予想正答率よりも5ポイント以上高いもの………
- 2 県正答率が予想正答率よりも5ポイント以上低いもの………
- 3 1と2の間にあるもの ……………

「小問ごとのねらいと正答率」の比較の欄の「H15」「全国」については、過去の基礎学力調査問題や全国教育課程実施状況調査問題と同一問題、類似問題であることを示している。

- 1 H15 ~ 平成15年度基礎学力調査問題と同一または類似問題
- 2 全国 ~ 平成13年度全国教育課程実施状況調査問題と同一または類似問題  
正答率と誤答率は、抽出調査した全人数に対する割合を表している。

誤答例については、抽出調査した中で、割合の高かったものを中心に記載している。



## (2) 社会

問題の構成とねらい

- ・ 社会科の理解力、思考力、判断力に関する基礎的・基本的な知識や能力をみる問題とした。
- ・ 写真や地図、グラフ、図などの様々な資料を使って活用する能力をみたり、記述式の問題では児童の多様な考え方や態度、表現力をみる問題とした。
- ・ 問題の構成については [1] ~ [3] までは第3学年 [4] ~ [8] までは4学年の内容を中心に、[9] ~ [11] までは第5学年の内容を中心に構成し、特定の学年や分野等に偏らないように配慮した。

平均点 69.1

小問ごとのねらいと正答率

大問	小問	ね ら い	観点	大問別 正答率	小問別 正答率	予想 正答率	評価	比較	
[1]	1	地図から、市の特徴をよみとることができる。	思・判	65.8	76.1	80			
	2	地図上での方角を理解し、活用できる。	技・表		54.3	70		H15	
	3	(1)	地図中の基本的な地図記号を理解している。		知・理	48.7	70		
		(2)			知・理	75.8	80		H15
		(3)			知・理	60.6	80		
4	定規を活用し、縮尺を参考にして、実際の距離を導き出すことができる。	技・表	73.6	75		H15			
5	市町村の様子を調べる方法を考えることができる。	思・判	71.6	70					
[2]	1	販売の仕事に携わっている人々の工夫について理解している。	知・理	76.9	79.6	80			
			知・理		76.1	80			
知・理			79.4	80					
2	販売の仕事に携わっている人々の工夫について、説明することができる。	思・判	72.3	75					
[3]	1	(1) 人々の様々な生活の様式が大きく変化してきていることを理解している。	知・理	90.1	96.3	90			
			知・理		95.8	90			
	2	資料を参考にしながら、人々のくらしの変化や工夫をよみとることができる。	思・判		77.8	80			
			思・判		96.9	85			
[4]	1	(1) 災害から人々の安全を守る身の回りの施設について理解している。	知・理	76.2	94.3	90			
			知・理		93.5	90		H15	
			知・理		95.9	95		H15	
	2	(1) 災害及び事故に対処するための関係諸機関の働きや体制について理解し、考えることができる。	思・判		64.5	70			
			思・判		38.5	70			
			思・判		84.0	90			
			思・判		62.8	80			
			思・判		85.3	80			
[5]	1	(1) 飲料水の確保のための対策や事業について理解している。	知・理	73.4	83.9	80			
			知・理		85.3	80			
	2	(1) 資料から水の使用量と人口の変化のかかわりについてよみとることができる。	技・表		38.7	65		H15	
			技・表		64.6	65		H15	
	3	(1) 廃棄物の処理と自分たちの生活とのかかわりについて考えることができる。	思・判		92.2	80			
			思・判		84.4	80			
[6]		宮崎県の発展に尽くした郷土の偉人について理解している。	知・理	47.3	47.3	65		H15	
[7]	1	(1) 宮崎県の市町村の数について理解している。	知・理	53.0	36.6	65			
			思・判		50.6	70			
	2	(2) 宮崎県から見た太平洋の位置について、地図をもとに確認することができる。	知・理		52.8	70			
			知・理		49.4	70			
3	自分の住んでいる市町村の位置を理解している。	知・理	71.3	70					
		知・理	57.3	70					
[8]		宮崎県の特徴について、グラフからよみとることができる。	思・判	66.7	88.9	70			
			思・判		73.6	70			
			思・判		55.5	70			
			思・判		48.6	70			
[9]	1	資料から米の生産量と消費量の変化をよみとることができる。	思・判	77.0	84.0	80			
			思・判		82.3	80			
			知・理		60.4	70			
			知・理		86.4	70			
2	おいしくて安全な米作りをするための工夫を理解し、説明することができる。	思・判	72.1	65					
[10]	1	(1) 日本の食料生産に関する資料をよみとり、事象を明らかにすることができる。	技・表	83.7	96.8	90			
			技・表		97.1	90			
2	日本の食料生産の現状を理解し、今後の日本の食料生産及び確保について自分の考えを表現することができる。	思・判	57.3	60		H15			
[11]	1	とる漁業のそれぞれの違いや特徴を理解している。	知・理	71.7	80.7	70		全国	
	2	(1) 200海里の漁業制限について理解している。	知・理		65.4	70		全国	
			思・判		50.9	70		全国	

思・判(社会的な思考・判断)、技・表(観察・資料活用の技能・表現)、知・理(社会的事象についての知識・理解)

1 正答率 ( 65.8% )

問題番号	標準解答	正答率(%)	比較(%)	誤答例(%)
1	ウ	76.1		ア(10.0) イ(7.6)
2	イ	54.3	H15 70.6 類似	ウ(11.4) ア(8.8) エ(8.8)
3	(1) 消防しょ	48.7		市役所(7.2) 無解答(18.4)
	(2) 工場	75.8	H15 77.8 同一	店(2.4) 無解答(7.6)
	(3) 寺院(お寺)	60.6		神社(9.8) 無解答(3.6)
4	4 0 0	73.6	H15 88.2 類似	8 0 0 (2.0)
5	(例) 市役所に行って調べる。 図書館へ行って調べる。 副読本で調べる。 身近にいるくわしい人に 聞く。 インターネットで調べる。	71.6		地図, 地図帳(1.4) 無解答(5.2)

考察

第3学年の学習内容を中心とした問題で、地域の特徴や地図上の方位・距離、地図記号など、地図のよみとりについての問題、及び調べ学習における「調べる方法」についての問題である。

正答率をみると、方位や地図記号、縮尺などについての基本的な事項についての問題が、昨年と比べると低かった。特に方位については、八方位に関する出題であったが、昨年の四方位に比べ、正答率が低かった。また、3の地図記号に関しては、消防署・寺院の正答率が特に低く、昨年度に続いて出題された「工場」の記号についてもやや低くなっている。4の縮尺をもとに実際の距離を求めることや、5の調べ学習の方法については、ほぼ理解できていると考えられる。

そこで、指導に当たっては、地図を積極的に活用し、地図記号や方位などの基本的な事項を、繰り返し指導する機会を設ける必要がある。特に、地図記号については、その成り立ちや意味を考えさせたり、児童の住んでいる地域の白地図に、地図記号を書き込ませる活動を取り入れたりする。

2 正答率 ( 76.9% )

問題番号	標準解答	正答率(%)	誤答例(%)
1	イ	79.6	ア(7.0) ウ(3.8)
	ア	76.1	ウ(7.0) イ(6.0)
	ウ	79.4	イ(5.4) ア(4.6)
2	ちらしなどをくばる。 広いちゅう車場をつくる。	72.3	無解答(4.8)

考察

第3学年の学習内容を中心とした問題で、スーパーマーケットにみられる販売の工夫について理解しているかをみる問題である。

正答率をみると、スーパーマーケットで働く人々の工夫が、買う人の願いと結び付いていることについて、理解が十分であるとはいえない。これは、働く人々の仕事の工夫のようすを、直接スーパーマーケットなどで目にする機会が少ないからではないかと思われる。自分たちの生活を支えている店の裏側での具体的な工夫までは、十分理解できていないことが分かる。

そこで、指導に当たっては、消費者である自分や家族の人たちの願いについて話し合わせ、それらの願いに働く人々がどのように応えているかという視点で見学や調査、作業的な活動を取り入れ、店で働く人々の様々な工夫について、具体的に学習させることが必要である。

3 正答率 ( 90.1% )

問題番号	標準解答	正答率( % )	誤答例( % )
1	(1) オ ウ	96.3	ウ オ(0.6)
	(2) エ イ	95.8	イ エ(0.8)
2	油	77.8	まき(12.2)
	電気	96.9	まき(1.2)
	くふう	83.5	変化(6.6)

考察

第3学年の学習内容を中心とした問題で、地域の人々の生活様式が、およそ100年ぐらいの間にもどのように変わってきたかについて理解しているかをみる問題である。

正答率は比較的高く、道具の変化などの基本的事項は、ほぼ理解できていると考えられるが、昔の道具のしくみについての理解は十分とは言えない。

そこで、指導に当たっては、博物館や郷土資料館などで昔の道具を見学したり、学校の図書室で調べたり、地域に住む高齢者や保護者から生活に使用した古い道具の使い方などを教わったりするなど、調べ学習や体験活動を積極的に取り入れる必要がある。これらの学習により、過去の生活における人々の知恵や工夫に気付かせ、現在の自分たちの生活は祖先の努力の上に成り立っているということに関心をもたせることができると考える。

4 正答率 ( 76.2% )

問題番号	標準解答	正答率( % )	比較( % )	誤答例( % )
1	(1) ア	94.3		ウ(3.8)
	(2) エ	93.5	H15 97.6 同一	ウ(3.2)
	(3) イ	95.9	H15 90.0 同一	エ(1.0)
2	(1) ウ	64.5		イ(14.4) ア(4.2)
	(2) イ	38.5		ウ(27.4) ア(5.2)
	(3) ア	84.0		イ(6.6)
	(4) エ	62.8		ア(14.8) ウ(7.2)

考察

第4学年の学習内容を中心とした問題で、災害や事故から人々の安全な暮らしを守る消防設備や、関係機関に従事している人々の働きや体制について理解しているかをみる問題である。

1の身の回りの消防設備については、昨年度と比較すると(2)の非常口のはたらきはやや低くなり、(3)の消火器のはたらきについては高くなっている。いずれも高い正答率を示しており、よく理解できていると考えられる。2の関係機関に従事している人々の働きや体制については、正答率が低く、誤答例をみると、警察署の働きと消防署の働きについて混同している。特に、火事が起きたときの、関係機関の連携や役割の分担についての理解が、不十分であると考えられる。また、けが人や病人の救急車で輸送や日常の防火活動への努力や工夫など、消防署のはたらきの中で火災を消す以外のはたらきが十分理解できているとは言えない。

そこで、指導に当たっては、実際に施設見学を行う際に、調べる視点を明確にさせることや、働く人々の努力や工夫について着目させて、施設面だけでなく、関係機関の協力の様子についても理解させる必要がある。また、関係機関の連携体制については、図で表現させたり、自分の考えや思いを書かせたりして、身近な生活と関連付けながら学習内容の定着を図ることが大切である。

5 正答率 (73.4%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	比較(%)	誤答例(%)
1	ウ	85.3		オ(3.6) 記号以外(3.0)
	オ	83.9		イ(3.6) 記号以外(2.8)
2	7	38.7	H15 59.7 類似	6(25.4) 4(3.2)
	人口	67.9	H15 80.8 類似	水の使用量(11.0) 水(4.8)
	水の使用量	61.2		人口(16.0) 水(5.0)
3	(1) イ	92.2		ア(2.4) ウ(2.0)
	(2) ア, ウ	84.4		エ(3.6) イ(2.6)

考察

第4学年の学習内容を中心とした問題で、1と2は飲料水の確保について、需要の増加に対して水源を確保するための森林保全との関係を理解しているかをみる問題、3は廃棄物の減量やリサイクルについて理解しているかをみる問題である。

1は、飲料水確保のための森林のはたらきについての問題であるが、おおむね理解できていると考えられる。2は、資料から水の使用量と人口の変化の関わりについてよみとる問題である。2の は、昨年度よりも正答率が低かった。これは、グラフを比較する際に は の何倍という見方ができていないことや、適切なグラフの活用が不十分であったことなどが原因と考えられる。2の については、グラフをよみとり、それをもとに思考・判断する力が不十分であることが分かる。3については、ごみの減量化やリサイクル活動に関しておおむね理解できていると考えられる。

そこで、指導に当たっては、資料のよみとりだけではなく、よみとったことから何が分かるかを考えさせ、発表の場を設定する必要がある。また、一つの資料からだけでなく、他の資料と関連させながら考えさせ、資料をよみとる力や考える力を育てることが大切である。読解力や計算力については、他教科との連携を図った指導が必要である。また、見学や調べ学習を積極的に取り入れ、分かったことを図式化したり、グラフ化したりする活動を通して、自分たちの生活との関連を理解させる必要がある。

6 正答率 (47.3%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	比較(%)	誤答例(%)
	小村寿太郎, 石井十次 岩切章太郎など	47.3	H15 33.3 同一	無解答(25.6)

考察

第4学年の学習を中心とした問題で、地域の人々の生活の向上に尽くした先人について理解しているかをみる問題である。

昨年度と比べると正答率は高くなっているが、無解答が多い。誤答例としては、総理大臣の名前などがあり、郷土の偉人を身近な存在として認識していない傾向がみられる。

そこで、指導に当たっては、郷土の偉人についての学習を積極的に行う必要がある。自分の住んでいる地域や近隣の市町村の偉人について取り上げたり、県版の副読本や「ひむか学」(<http://www.pref.miyazaki.jp/kyouiku/kikaku/himukagaku/>)等を活用したりして、児童が主体的に調べる学習を充実させる必要がある。

7 正答率 (53.0%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	誤答例(%)
1	(1)	4 4	4 5 (10.2) 無解答(6.4)
	(2)	東	西(10.4) 南(6.4)
2	(地図中に自分の住んでいる市町村をとらえて鉛筆でぬる。)	52.8	無解答(20.4)
3		エ	ア(20.2) イ(5.6)
		イ	エ(7.0) ウ(4.6)
		ア	エ(15.2) イ(4.8)

考察

第4学年の学習内容を中心とした問題で、本県の位置や市町村の数など基本的な事項について理解しているかをみる問題である。

1の(1)は、正答率が低かった。誤答例を見ると、45や43など正解に近い数が多い。また、1の(2)も正答率が低かった。誤答例では西や南と答えたものが多く、地図上の方位の認識が不十分であると考えられる。2の問題では無解答が多かった。このことから、自分の住んでいる市町村の位置を地図上で理解できていない児童が約半数いる。3では隣県の位置について、3の の熊本県以外は正答率が低かった。

そこで、指導に当たっては、学習の中で地図帳を積極的に活用して、地図に慣れる活動を多く取り入れる必要がある。自分の住んでいる市町村や本県について、周囲との位置関係を把握させながら白地図等へ書き込ませるなどの作業を行わせ、地理的位置等を正しくとらえさせる指導が必要である。

8 正答率 (66.7%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	誤答例(%)
1	オ	88.9	カ(2.6)
	キ	73.6	ク(10.8)
	ア	55.5	ク(11.8) キ(7.6)
	エ	48.6	ウ(19.8)

考察

第4学年の学習内容を中心とした問題で、本県の大まかな特色を理解しているかをみる問題である。

は両方とも正答率が高く、これらについてはグラフや図をよくよみとっている。それに比べて、は正答率が低かった。今後は、グラフや図から特徴をつかむ力をさらに育てていくことが必要である。

そこで、指導に当たっては、グラフや図をよみとる学習の際に、口頭で答えさせるのではなく、自分の考えを書かせて、自分の考えをもとに話し合わせる中で、十分に思考を深めさせ、発表させるような指導が大切である。

9 正答率 (77.0%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	誤答例(%)
1	ウ	84.0	ア(2.2)
	キ	82.3	イ(5.0)
	カ	60.4	ア(18.2) ク(5.6)
	工	86.4	オ(3.8)
2	(例) たい肥を使う農家がふえた。 農薬をまく回数をへらした。 新しい品種を開発した。	72.1	薬を使う(1.0) ひりょうを使わない(0.8) 無解答(5.8)

考察

第5学年の学習内容を中心とした問題で、我が国の米づくりについてグラフをよみとり、米をつくるための工夫についての理解をみる問題である。

1は、正答率をみると資料のグラフの変化や事象をよみとる力はほぼ身に付いてきているが、の誤答例と正答率の低さから、基本的な語句の意味を正確に理解できていないと考えられる。

そこで、指導に当たっては、資料やグラフをよみとる学習をするとともに、米作りに係わる人々の努力や工夫について、地域の人々から直接話を聞くなどの調べ学習を取り入れ、調べたことをもとに考える場を設定し、人々の願いや工夫に気付かせる指導が必要である。

10 正答率 (83.7%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	比較(%)	誤答例(%)
1	(1) 米	96.8		
	(2) 大豆	97.1		
2	(例) 国内の自給のわりあいを高める。 世界じゅうからの輸入をふやす。	57.3	H15 42.7 同一	輸出する(0.4) 転作をすすめる(0.2) 無解答(8.2)

考察

第5学年の学習内容を中心とした問題で、我が国の食料事情をグラフからよみとり、これからの食料確保のための方策について、自分の考えを表現する力をみる問題である。

1については、正答率が高く、グラフのよみとりが正確にできていると言える。2の正答率については、昨年と比べ上昇しているものの、食料を確保していくための具体的な今後の方策について、自分の考えを表現する力が十分身に付いていない。

そこで、指導に当たっては、我が国の食料確保について、調べ学習などを通して課題を自分の身近な問題としてとらえさせ、自分の考えを発表させる場の設定を行うなど、主体的に課題を見つけ、解決していこうとする態度を養う指導が必要である。

11 正答率 (71.7%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	比較(%)	誤答例(%)
1	イ	75.1	80.7 全国 77.9 同一	ウ(5.8) ア(5.6)
	ウ	87.6		イ(5.2)
	ア	79.4		イ(6.0)
2	(1)	65.4	全国 54.1 同一	(10.8) (7.8)
	(2)	(例) 計画的に生産でき 収入を安定させるた め。 へってきた生産量 をふやすため。 とりすぎによって 資源をへらさないた め。	50.9 全国 54.0 同一	小さな魚はとらないようにする (5.0) 無解答(8.6)

考察

第5学年の学習内容を中心とした問題で、日本の漁業の特色や傾向を、資料やグラフからよみとる力をみる問題である。

1の「とる漁業」についての理解は、全国よりやや高い正答率であったが、誤答例から、3つの漁業形態を、正確に理解できていないと考えられる。2の(1)「200海里の漁業制限」については、全国よりかなり高い正答率であることから、日本の遠洋漁業の生産量の減少と200海里の漁業制限との関連についてはかなり理解できていると考えられる。(2)の「社会的事象の共通点を考えることができるか」についての問題は、全国と比べるとやや低い正答率であった。水産資源の確保という視点から、2つの漁業形態で働く人々のとりくみの共通点が理解できていないため、無解答や正解からかけはなれた解答が多かったのではないかと考えられる。自分の考えを記述する問題では、正答率が低下する傾向がみられる。

そこで、指導に当たっては、漁業に従事する人々の水産資源の保護や育成についての取組や、これからの漁業の在り方について、調べ学習を行わせたり、グラフや資料の変化から社会的事象をよみとらせたりする指導が必要である。単に語句を覚えさせるのではなく、社会的事象を理解させ、自分の考えを発表させるような場面を設定し、日頃から話し合い活動を充実させるなどの指導が望まれる。



## 2 小学校第5学年

### (3) 算数

#### 分析結果の表記について

「小問ごとのねらいと正答率」の評価の欄の については、県正答率と予想正答率との差を記号化して示している。

- 1 県正答率が予想正答率よりも5ポイント以上高いもの……
- 2 県正答率が予想正答率よりも5ポイント以上低いもの……
- 3 1と2の間にあるもの ……

「小問ごとのねらいと正答率」の比較の欄の「H15」「全国」「H14」については、過去の基礎学力調査問題や全国教育課程実施状況調査問題と同一問題、類似問題であることを示している。

- 1 H15 ~ 平成15年度基礎学力調査問題と同一または類似問題
- 2 H14 ~ 平成14年度の小学校第3学年の基礎学力調査問題と同一または類似問題
- 3 全国 ~ 平成13年度全国教育課程実施状況調査問題と同一または類似問題  
正答率と誤答率は、抽出調査した全人数に対する割合を表している。

誤答例については、抽出調査した中で、割合の高かったものを中心に記載している。



### (3) 算 数

問題構成とねらい

- ・ 4つの領域の基礎的・基本的な内容を，3つの観点からみる問題とした。
- ・ 身近なものを素材とし，興味・関心をもって取り組める問題とした。
- ・ 結果を予想したり，筋道を立てて考える力をみる問題とした。
- ・ 知識のみを問う問題に偏らないように，処理の方法や思考過程もみる問題とした。
- ・ 数学的な考え方や，算数の「よさ」を進んで活用しようとする能力をみる問題とした。

平均点 74.4点

小問ごとのねらいと正答率

領域	番号	内容・ねらい	主な観点	領域別 正答率	小問別 正答率	予想 正答率	評価	比較		
第1部 数 と 計 算	①	(1) 小数+小数の筆算ができる。	表処	75.9	63.9	60				
		(2) 小数×整数(2位数)の筆算ができる。	表処		77.0	80		全国		
		(3) 整数÷整数(わる数が1位数)の筆算ができる。	表処		76.3	70		H15		
		(4) 小数÷整数(わる数が2位数)の筆算ができる。	表処		75.4	75		全国		
		(5) わり進む筆算ができる。	表処		62.3	75				
		(6) 計算の順序を考えて計算できる。	表処		72.2	65		H15		
	②	(1) 1000億×10が1兆であることを理解している。	知理		78.6	70				
		(2) 10分の1にしたとき的小数点の位置の移動の仕方について理解している。	知理		90.4	75				
		(3) 小数の相対的な見方を理解している。	知理		94.7	70				
		(4) 10分の1の位までの概数で表すことができる。	表処		69.9	65				
		(5) 同分母の真分数，仮分数，帯分数の大きさを理解している。	知理		50.4	55		H15		
	③	(1) 小数の記数法を理解している。	知理		91.8	75		全国		
		(2) 小数の記数法を理解している。	知理		83.9	75		全国		
	第2部 量 と 測 定	④	(1) 1㎡の大きさを理解している。		知理	72.5	74.8	70		
			(2) 1cm <sup>3</sup> の大きさを理解している。		知理		71.6	70		
⑤		(1) 長方形の面積の公式を理解している。	知理	96.6	95					
		(2) 長方形の面積の公式を利用して，辺の長さを求めることができる。	表処	68.4	75					
⑥		(1) 長方形，正方形の面積の公式を利用して，複合図形の面積を求めることができる。	考え	63.3	70					
		(2) 分度器を使って，90°より大きい角の大きさを測定することができる。	表処	62.4	65					
⑦	(1) 分度器を使って，180°より大きい角を作図することができる。	表処	83.4	80						
	(2) 分度器を使って，180°より大きい角を作図することができる。	表処	59.5	50						
第3部 図 形	⑦	コンパスと定規を使って正三角形をかくことができる。	表処	79.2	76.1	85				
	⑧	(1) 垂直な直線を指摘することができる。	知理		90.5	80				
		(2) 平行な直線を指摘することができる。	知理		93.6	80				
	⑨	(1) 四角形を2つの四角形に分けることができる。	考え		94.1	90		H14		
		(2) 四角形を1つの三角形と1つの四角形に分けることができる。	考え		78.0	75		H14		
	⑩	(1) 平行四辺形を理解している。	知理		77.3	80		全国		
(2) 三角形の内角の和，平行四辺形の性質を利用して，角度を求めることができる。		知理	39.8	55		全国				
第4部 数 量 関 係	⑪	(1) 球の直径を求めることができる。	考え	83.9	70					
		(1) 折れ線グラフから数値をよみとることができる。	表処	76.8	95.3	95		H15		
		(2) 折れ線グラフの変化の様子をよみとることができる。	表処		75.2	75		H15		
	(3) 折れ線グラフから，最大値と最小値の差をよみとることができる。	表処	68.6		70		H15			
	⑫	(1) 伴って変わる2つの数の変化の特徴をよみとり，3，4，5段のときの周りの長さを求めることができる。	考え		91.4	80				
		(2) 伴って変わる2つの数の対応の仕方をよみとり，その関係を言葉の式に表すことができる。	表処		54.1	65				
		(3) 伴って変わる2つの数の対応の仕方をよみとり，それをもとに，まわりの長さが54cmのときの段の数を求めることができる。	考え		69.4	65				
	⑬	括弧を含む式が表す場面を適切に選択することができる。	考え		79.5	70		H14		
	⑭	(1) 2つの観点で調べた2次元の表を使って，仲間に分けて調べる。	表処		78.1	70				
		(2) 調べる。	考え		79.2	70				

主な観点 ~ 考え...数学的な考え方や，表処...表現・処理，知理...知識・理解

第1部 数と計算 正答率(75.9%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	比較(%)	主な誤答例(%)	
1	(1)	8.2	63.9	0.82(7.6) 11.97(4.6)	
	(2)	103.5	77.0	全国76.5 同一	6.8(4.8) 10.35(1.4) 103.5(0.4)
	(3)	108	76.3	H15 70.5 類似	18(7.4) 180(5.6)
	(4)	1.9	75.4	全国76.6 同一	19(9.0) 無解答(1.2)
	(5)	0.24	62.3		24(8.8) 2.4(6.8) 無解答(1.6)
	(6)	18	72.2	H15 56.7 類似	26(11.6) 80(0.8) 無解答(1.2)
2	(1)	2兆	78.6		20000億(2.8) 無解答(2.0)
	(2)	5.63	90.4		563(2.8) 無解答(1.0)
	(3)	1.25	94.7		12.5(1.2) 125(0.8) 無解答(1.2)
	(4)	1.4	69.9		1.39(5.4) 1.400(1.8) 無解答(1.4)
	(5)	$2\frac{1}{3}$	50.4	H15 45.2 類似	$2\frac{5}{3}$ $1\frac{1}{3}$ (12.2) $\frac{5}{3}$ $\frac{2}{3}$ $1\frac{1}{3}$ (2.6)
3	(1)	0.1	91.8	全国74.8 同一	1.0(1.6) 1.2(0.8)
	(2)	4.3	83.9		87.9

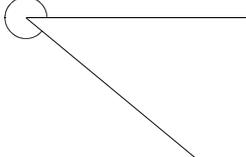
<考察>

1は、小数に関する計算の力をみる問題である。また、整数の計算の中から、間違いやすいものとして、商に空位がある場合の除法と四則が混合した計算の順序に関する問題を出題した。2、3は、小数の意味や表し方についての理解をみる問題を中心に、兆の位や四捨五入についての理解、分数の意味や大きさについての理解をみる問題も出題した。

小数の乗法・除法については、全国の正答率とほぼ同じであった。商に空位がある場合の除法や計算の順序については、昨年と比較して若干向上している。しかし、1の(1)の正答率が60%台であることから、小数の加法と乗法における小数点の処理の仕方の違いが十分に理解されていないことが分かる。また、(5)の除法においても、小数点の位置が正しくない誤答が多かった。2や3の結果からは小数の意味や表し方についてはよく理解されていることが分かる。特に、3では全国の正答率を大きく上回っている。2の(4)の四捨五入に関する問題では、「1/10の位」の意味を理解していないと思われる誤答が多かった。また、分数の大きさを比べる(5)の問題の正答率は、昨年度よりも向上しているものの50%台と低かった。昨年度同様、帯分数は大きいというイメージで判断し、仮分数に直して分子を比べるという習慣が身に付いていない。

そこで、指導に当たっては、小数点の処理の仕方についての指導を徹底させる必要がある。小数の計算に関する指導が一通り終わった後、加法と乗法の小数点の取り扱いについて比較し、その違いを明確にした上で、計算練習に取り組みさせるなどの工夫が考えられる。また、問題を見て答えに小数点だけ付けさせたり、1/10の位の数や1/100の位の数を付けさせたりする問題など、基本的事項を短時間で確認し復習するために、小テスト等の工夫も有効である。分数については、大きさをテープや水のかさなどの図で表したり、数直線上で示したりしながら、分数が表す大きさや意味を視覚的に理解させることが大切である。その上で、帯分数を仮分数、仮分数を帯分数に直す練習を十分に行わせるとともに、分数の大きさを比べさせる中で、帯分数より仮分数が大きくなる場面を意図的に取り上げ、「必ず帯分数の方が大きい」という間違ったイメージを取り除くことも必要である。

第2部 量と測定 正答率(72.5%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	主な誤答例(%)	
4	(1)	m <sup>2</sup>	74.8	km <sup>2</sup> (6.6) m(4.0) cm <sup>2</sup> (2.2)
	(2)	cm <sup>2</sup>	71.6	mm(5.4) cm(4.4) m <sup>2</sup> (1.6)
5	(1)	2 4	96.6	1 2 (1.0) 1 0 (0.8)
		3	68.4	6 4 (4.2) 4 8 (3.0) 無解答(1.6)
	(2) 式	4 × 3 + 4 × 2 + 2 × 9 6 × 3 + 6 × 2 + 2 × 4 6 × 9 - 4 × 4 等	63.3	9 × 6 + 3 × 4 (1.4) 6 × 3 + 6 × 2 (1.0) 4 × 3 + 4 × 2 + 9 × 6 (0.8) 無解答(4.4)
		答え	3 8	4 2 (1.6) 3 0 (1.4) 無解答(3.8)
6	(1)	1 3 5	83.4	4 5 (2.8) 1 4 5 (1.0) 1 4 0 (0.8)
	(2)		59.5	無解答(4.4)

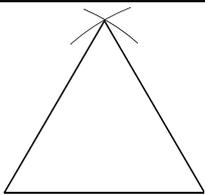
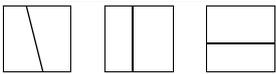
<考察>

4は、面積を表す単位についての理解と、面積についての量感をみる問題である。5は、長方形の面積の公式を用いて面積や辺の長さを求めたり、複合図形の面積を求めるたりすることができるかをみる問題である。6は分度器を用いて角の大きさを測ることや、180度を超える角の大きさを、180度や360度の角を利用して示すことができるかをみる問題である。

4の(1)では、km<sup>2</sup>とする誤答が多かった。体育館は広いというイメージからこれを選んだと考えられるが、単位正方形1 km<sup>2</sup>の大きさがよく理解されていないことが分かる。また、(2)ではmm, cmを選んだ誤答が多く、量感だけでなく、面積を表す単位についての基本的な理解が不十分な児童がいることが分かる。5では、(1)の において、縦と横の長さをもとに長方形の面積を求めることについてはよく定着していた。しかし、公式を逆に使って縦の長さを求める の問題では正答率が低かった。これについては、公式を活用できていないことの他に、問題文を正しく読み取っていないことも原因として考えられる。(2)では、図形を正しく分割できていないことによる誤答、与えられた数値から計算に必要なものを正しく選べなかったことによる誤答、求め方自体を理解していないと考えられる誤答など、様々な誤答が見られた。また、無解答も他の設問に比べて多かった。6の(1)は正答率が高かったが、目盛りを逆からよんだり、正確によみとることができない児童がいることが分かる。(2)では、直線=180度や、1回転=360度であることをもとに、「あと何度か」あるいは「何度足りないか」を考慮することができていない。また、明らかに180度よりも小さい角をかいている誤答もあり、角度についての量感が十分に育っていないことが分かる。

そこで、指導に当たっては、面積を測ったり、単位正方形をつくって敷き詰めたりする算数的活動を充実させることによって、面積についての感覚を豊かにすることが大切である。1 km<sup>2</sup>の大きさについては、学校周辺の地図上に1 km<sup>2</sup>の面積を示すなどして量感をつかませたい。長方形の面積の公式は、三角形や平行四辺形の面積を考える際の基礎となるものである。2辺の長さを与えて面積を求めさせるだけでなく、逆に、面積から縦や横の長さを求めさせるなど、公式を多面的に活用させることを通して確実に身に付けさせる必要がある。複合図形については、問題解決的な学習の中で、図形をどのように分ければよいかについて主体的に考えさせ、操作的な活動も交えながら、それぞれの考え方の違いやよさを理解させたい。その際、実際に補助線を引いて考えることの大切さを強調し、習慣付けていきたい。角の大きさについては、90度、180度、360度を目安として、見当付けをする習慣を身に付けさせたい。これによって、例えば、320度を180度+140度とみたり、360度-40度とみたりするなど、角の大きさに関する感覚を豊かにすることができる。

第3部 図形 正答率(79.2%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	比較(%)	主な誤答例(%)
7		76.1		正方形をかいている(5.4) 1辺が5cmになっていない(0.4) 無解答(1.6)
8	(1) アとオ	90.5		アとイ(1.8)
	(2) イとウ	93.6		アとオ(1.0)
9	(1)  など	94.1	H14 91 同一	 (1.0) 無解答(1.4)
	(2)  など	78.0	H14 66 同一	 (3.4) 無解答(4.6)
10	(1) 平行四辺形	77.3	全国76.1 同一	ひし形(2.6) 長方形(1.6) 無解答(4.4)
	1 1 0	39.8	全国54.2 同一	7 0 (5.6) 1 1 5 (5.4) 無解答(3.4)
	(2) 8	83.9		6 (1.6) 4 (1.4) 無解答(2.2)

<考察>

7は、正三角形の意味についての理解と、定規やコンパスを適切に用いて図をかきことができるかをみる問題である。8は直線の平行や垂直の関係についての理解をみる問題である。9は正方形を1本の直線で三角形や四角形に分ける問題で、第2学年の学習内容である。今回の調査対象児童が第3学年の時には、(2)の問題の正答率が66%と低かった。第5学年になって四角形についての理解や図形に対する感覚がどれだけ豊かになったかをみることをねらいとしている。10の(1)は平行四辺形を知っているかをみる問題、(2)は平行四辺形の性質や三角形の角の和についての性質を利用して角度を求めることができるかをみる問題である。

7では、正三角形ではなく正方形をかいている誤答が目立った。8の平行や直角についてはよく理解されていた。9では、四角形を長方形と同義にしかとらえていない児童は、(1)はできても(2)はできない。(2)ができるためには台形も四角形に含めて考える必要がある。(1)も(2)も3学年時に比べ正答率が上がっていることから、2年間の算数の学習を通して、図形に関する感覚が豊かになっていることがうかがえる一方、第5学年になっても、四角形を長方形や正方形としかとらえていない児童が15%ほどいると考えられる。10では、(1)は全国とほぼ同じ正答率であったのに対し、(2)では全国の前年を下回る結果となった。平行四辺形の性質や三角形の性質が理解されていないというよりも、それらの知識が、問題解決の場面でうまく活用されていないことが要因と考えられる。

そこで、指導に当たっては、定規やコンパスを使って実際に図をかかせる活動を大切に、最初の辺をかきとるところから自分の力でできるようにするために、一斉指導とともに個別指導を充実させる必要がある。また、作図をさせるだけでなく、作図の仕方を自分の言葉でまとめさせるなどの取組も効果的である。四角形については第2学年で学習するが、個々の児童の概念の広がりにはかなりの個人差がある。平行四辺形やひし形、台形などいろいろな四角形を学習する中で、四角形の意味を再確認させていく必要がある。三角形の角の和や平行四辺形の辺や角などの図形の基本的な性質については、辺や角を重ねる、角を集める、敷き詰めるなどの具体的な操作を通し、実感をもって理解させることが大切である。それと同時に、図形をいろいろな方向から見たり、図形の中に図形を見出させたりする活動を通して、図形に関する感覚を豊かにする必要がある。

第4部 数量関係 正答率(76.8%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	比較(%)	主な誤答例(%)
11	(1) 1 8	95.3	H15 96.7 類似	1 7 (1.2)
	(2) 1 0時から1 2時の間	75.2	H15 73.1 類似	1 0時から2時(2.6) 1 2時から2時(2.0)
	(3) 1 1	68.6	H15 67.1 類似	8 (6.2) 1 2 (2.8) 1 3 (1.4)
12	(1) 9, 1 2, 1 5	91.4		1 2, 2 4, 4 8 (1.0)
	(2) $\boxed{\text{だんの数}} \times 3 = \boxed{\text{まわりの長さ}}$	54.1		$\boxed{\text{だんの数}} \times \boxed{\text{まわりの長さ}}$ (12.6) 無解答(4.6)
	(3) 1 8	69.4		1 6 2 (5.0) 1 7 (3.6) 無解答(3.2)
13	はなこさん	79.5	H14 47 同一	かずおさん(5.4) 無解答(3.4)
14	(1) 2 0	78.1		4 0 (6.6) 無解答(3.6)
	(2) 3	79.2		2 0 (2.4) 4 0 (1.8) 無解答(3.2)

< 考察 >

11は、折れ線グラフのよみとりに関して、(1)は値、(2)は変化の様子、(3)は最大値と最小値のよみとりができるかをみる問題である。12は、伴って変わる2つの数量の関係から変化や対応の様子をよみとり、問題解決に生かす力をみる問題である。(1)は表を横に見て、変化の様子をよみとれるか、(2)は表を縦に見て、対応のきまりをよみとり、それを言葉の式に表すことができるか、(3)は(2)でよみとった対応のきまりをもとに、段の数を求めることができるかをみる問題である。13は、括弧のある式の意味をよみとり、それにふさわしい場面を選択する問題である。第3学年時と比べて、式をよむ力がどの程度高まっているかをみるねらいがある。14は、二次元表の見方についての理解をみる問題である。

11の正答率は、昨年度とほぼ同じであった。(1)の正答率は高かったものの、(2)や(3)の正答率はやや低く、折れ線グラフから変化の様子をよみとり、考察することに関して課題が残っている。12では、表の横の関係から変化の様子をよみとることはよくできているが、表の縦の関係から対応の様子をよみとることに 대해서는正答率がやや低い。特に、数量の関係を言葉の式で表す問題の正答率が低い。13では、3学年時に比べて、括弧の意味の理解や式をよむ力が向上していることが分かる。日々の算数の学習においていろいろな式に接することを通して、このような力が高まってきたものと考えられる。誤答では、前回同様、「かずおさん」を選んだものが多く、括弧の前の - (ひく) がよみとれていないことが原因と考えられる。14については、全体的にはよく理解されているが、二次元表の見方を十分に理解していない児童もいることが分かる。

そこで、指導に当たっては、折れ線グラフをかく活動だけでなく、完成したグラフを考察する活動を重視する必要がある。大きく変化しているところや変化が小さいところなどについて問い、直線の傾きから変化の様子をよみとることができるようにすることが大切である。伴って変わる数量の関係を表からよみとる場合、表を縦に見て、上下の数の関係を見出すことに重点を置いた指導が求められる。この問題の場合、 $\boxed{\text{だんの数}} \times 3 = \boxed{\text{まわりの長さ}}$ であることを見出し、式に表すことで2数の関係を明確にとらえることができる。そのために、 $\boxed{\text{だんの数}}$ が50や100などの大きい数の場合で $\boxed{\text{まわりの長さ}}$ を考えさせ、表を縦に見たり、関係を言葉の式で表すことよさに気付かせる指導が必要である。また、言葉の式は、今後いろいろな場面で用いられることになる。面積の公式や比例の学習等において、言葉の式で表す活動を充実させることにより、言葉の式をつくったり、よみとったりすることに慣れさせる必要がある。式のよみとりや二次元表については、十分に理解できていない児童がいることを踏まえて、繰り返しの指導や個に応じた指導の充実を図る必要がある。



## 2 小学校第5学年

### (4) 理科

#### 分析結果の表記について

「小問ごとのねらいと正答率」の評価の欄の については、県正答率と予想正答率との差を記号化して示している。

- 1 県正答率が予想正答率よりも5ポイント以上高いもの………
- 2 県正答率が予想正答率よりも5ポイント以上低いもの………
- 3 1と2の間にあるもの ……………

「小問ごとのねらいと正答率」の比較の欄の「H15」「全国」については、過去の基礎学力調査問題や全国教育課程実施状況調査問題と同一問題、類似問題であることを示している。

- 1 H15 ~ 平成15年度基礎学力調査問題と同一または類似問題
- 2 全国 ~ 平成13年度全国教育課程実施状況調査問題と同一または類似問題  
正答率と誤答率は、抽出調査した全人数に対する割合を表している。  
誤答例については、抽出調査した中で、割合の高かったものを中心に記載している。



## (4) 理科

調査問題の構成とねらい

- ・ 3つの領域（生物とその環境，物質とエネルギー，地球と宇宙）の基礎的・基本的な内容の習得状況を見る問題とした。
- ・ 観察・実験や資料を基に，そのつくりや仕組み，働きなどを具体的に考えさせる問題とした。
- ・ 学習した知識を確実に身に付けているかをみる問題とした。

平均点 79.6点  
小問ごとのねらいと正答率

大問	分野	小問	観点	内容・ねらい	大問別 正答率	小問別 正答率	予想 正答率	評価	比較	
1	生物とその環境	1	(1) 知	昆虫の体は，頭，胸，腹に分けられることを理解している。	89.0	95.8	90			
			(2)			88.4	85			
			(3)			87.8	80			
		2	知	チョウの育ち方には一定の順序があることを理解している。		90.1	85		H15	
			知	バッタの育ち方には一定の順序があることを理解している。		72.3	80		H15	
		3	技	昆虫の体について興味をもち，注意深く観察することができる。		88.8	75			
		4	(1) 技	食べ物やすみかを手がかりに，昆虫を探することができる。		95.4	80			
						89.4	75			
						87.9	80			
						93.9	75			
2	1	(1) 知	条件の違う種子の発芽実験から，発芽するものとそうでないものを理解している。	77.1	95.9	90				
		(2) 思			実験方法から，種子の発芽に必要な条件を見付けることができる。	55.7	75			
	2	(1) 知	実験に使用する薬品の名称を理解している。		74.2	85				
		(2) 知	ヨウ素液で調べられる養分を理解している。		71.4	70				
3	知	種子のつくりについて理解している。	80.9	90						
3	物質とエネルギー	1	知	磁石の異極が引き合い，同極がしりぞけ合う性質について理解している。	82.8	85.2	90			
			技			身の回りの物には，磁石に引き付けられる物と引きつけられない物があることを理解している。	85.5	90		
		3	思	磁石に引き付けられる物は，鉄であることを理解している。		91.1	85			
4	エネルギー	1	(1) 技	身の回りの物には，電気を通す物と通さない物があることを理解している。	81.7	91.0	90			
			(2)			72.8	80			
			(3)			96.9	90			
		2	思	物には電気を通す物と通さない物があり，金属は電気を通す性質があることを理解している。		96.0	80			
			3	技		直列つなぎの回路を正しくつなぐことができる。	92.1	80		
5	地球と宇宙	1	支点 力点 作用点	知	てこの3点の用語について理解している。	83.0	96.5	70		
							95.4	70		
							94.4	70		
		2	ア イ	思	てこがつり合う規則性について理解している。		89.4	90		全国
							52.4	60		全国
		3		知	てこの性質を利用している物を理解している。		62.5	70		
							85.8	70		
				87.4	70					
6	地球と宇宙	1	技	実験結果を正しく理解している。	66.1	37.3	60			
						2	(1) 知	日常生活の中に結露があることに興味・関心をもっている。	73.3	70
		(2) 知	80.8	70						
		3	(1) 知	水は，冷やされると氷（固体）になることを理解している。		73.4	90			
						(2) 知	水蒸気は，冷やされると水（液体）になることを理解している。	70.7	70	
(3) 知	水は，あたためられると水蒸気（気体）になることを理解している。				61.1			70		
7	宇宙	1	知	気温について正しく理解している。	91.1	84.5	70			
						2	技	温度計を正しく使うことができる。	90.6	75
		95.0	80						全国 H15	
3	(1) 知	晴れの日と曇りの日の気温の変化の特徴を理解している。	94.2	90						
			(2) 知	-	-					

主な観点の欄は，思・・・「思考」，技・・・「技能・表現」，知・・・「知識・理解」を表す。

1 正答率 ( 88.9% )

問題番号	標準解答	正答率(%)	比較(%)	誤答例(%)	
1	(1)	オ	95.8		ア(1.0) イ(0.4) エ(0.4)
	(2)	ウ	88.4		イ(3.8) エ(3.0)
	(3)	イ	87.8		ウ(3.2) ア(2.4)
2	チョウ	ア	90.1	H15 86.7 類似	イ(2.6) ウ(2.4) エ(2.4)
	バッタ	ウ	72.3	H15 78.9 類似	イ(6.8) エ(4.6)
3		イ	88.8		ア(3.8) ウ(1.8)
4	(1)	エ	95.4		ウ(2.6) ア(2.0)
	(2)	イ	89.4		ア(7.8) ウ(1.2)
	(3)	ア	87.9		イ(7.8) ウ(2.0)
	(4)	ウ	93.9		エ(2.6) ア(1.2)

< 考察 >

大問1は、昆虫の体のつくりや成長のきまり、食べ物やすみかについての知識や技能をみる問題である。

全体の正答率は約89%で、おおむねよく理解していると言える。ただし、問1と問2は、昆虫の体のつくりや成長のきまりを問う問題であるが、バッタの成長のきまりに関する問題では、チョウと比べて正答率が約20ポイント低くなっている。卵から成虫へ至るといふ昆虫の成長のきまりを、十分に理解していないことが分かる。これは、バッタは、チョウに比べて卵からの観察を行いにくいことが原因として考えられる。なお、この類似問題は、昨年度も出題されているが、昨年度と比べて、今年度は正答率が7ポイント程低くなっている。これは、今年度の設問の選択肢に「たまご」を省いた選択肢が新たに加わったことで、バッタの卵を見た経験のない児童がこれを選んでしまったと考えられる。問3と問4は、昆虫の体のつくり、食べ物やすみかについての技能をみる問題であるが、正答率は約90%と、おおむね良好な結果と言える。この問題は、実際に屋外に出て昆虫を探したり、観察したりするような体験がないと正答率は上がりにくく、学習や生活の中でこのような活動が充実していることが伺える。

そこで、指導に当たっては、屋外での観察などの体験的な学習を積極的に取り入れるとともに、チョウとバッタの比較観察など、複数の観察結果を比較しながら理解を深めさせる指導の工夫が必要である。また、観察に当たっては、卵から昆虫を育てる経験をさせる過程で、チョウやバッタ、セミなどの昆虫の絵を描かせたり、図鑑等で調べさせたりしながら、昆虫の特徴を理解させるような指導を工夫する必要がある。

2 正答率 ( 75.6% )

問題番号	標準解答	正答率(%)	誤答例(%)
1	(1) イ	95.9	ア(4.8)
	(2) 空気	55.7	水(9.6) 温度(3.8) 日光(1.8)
2	(1) ヨウ素液	74.2	水(2.0) 養分(1.0) 誤字(5.8)
	(2) でんぷん	71.4	養分(1.8) 栄養(1.6)
3	根	80.2	芽(5.8) 実(2.0) 花(1.0)
	くき	84.4	
	葉	78.1	

< 考察 >

大問2は、インゲンマメを使い、植物の発芽と成長のための条件についての理解をみる問題である。

問1の(1)は、発芽するための環境条件を問う問題で平成14年度と同一問題であるが、正答率は約96%と高く、平成14年度の結果より約5ポイント上昇している。しかし、発芽のために必要な条件を問う(2)では、正答率が約56%と低い。この問題の誤答としては「水」が多いが、実験において、空気が有るか無いかという条件の違いを、的確に把握することができていないことが分かる。問2は、インゲンマメにふくまれている養分について問う問題で、平成14年度と同一問題である。正答率は、平成14年度の結果とほぼ同じ約71%であった。この結果から、でんぷんは、ヨウ素液を使用して調べることができるということを十分理解していないことが分かる。問3は、種子の一部分が何に成長するかを問う問題であるが、正答率は約81%で種子のつくりについておおむね理解していると言える。

そこで、指導に当たっては、観察・実験を学習過程の中に位置付けるとともに、児童に種子の発芽の条件として制御すべき要因と制御しない要因の区別を意識付けることが大切である。そのためには、比較実験の方法について単に提示するだけでなく、発芽の条件やそれを調べるための観察・実験の方法を児童に考えさせ、集団で練り上げていく学習過程が必要である。そして、児童の予想を基に、実験を通して確かめさせながら実感をともなった理解をさせることが大切である。また、重要な用語や試薬等については繰り返し確認し、定着を図る指導を行うことが必要である。

3 正答率( 82.8%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	誤答例(%)
1	イ	85.2	ア(11.2) ウ(0.8)
	ウ	85.5	エ(13.6) イ(1.2) オ(1.2)
2	ア	91.1	ウ(3.0) イ(1.4)
	オ	88.6	イ(2.4) エ(2.4)
3	鉄	63.6	金属(17.8) 金物(3.2)

< 考察 >

大問3は、磁石を使って、磁石に付く物や磁石の働きを調べ、磁石の性質についての思考、技能・表現、知識・理解をみる問題である。

問1と問2は、磁石の極の性質と磁石に付くものを問う問題であるが、正答率は85%以上と高く、おおむね理解していると言える。しかし、問3の磁石が引き付ける物が何かを記述式で問う問題では、正答率が約64%と低い。この問題での誤答例をみると、金属や金物が多く、電気を通す性質がある物と磁石に付くものとの区別が明確でないことが原因と考えられる。

そこで、指導に当たっては、磁石の実験を通して、磁石の働きや性質についての理解を深めるとともに、磁石を使った物づくりや活動を通して、興味・関心をもてるように工夫することが必要である。また、磁石に付く物と電気を通す物の実験を通して、それらの性質を区別しながら理解させていくことや、磁石と電気の2つの単元終了時にそれぞれの学習内容を比較させ、磁石と電気の性質を明確にして理解させる必要がある。

4 正答率 ( 81.7% )

問題番号	標準解答	正答率(%)	誤答例(%)
1	(1)	91.0	×(8.2)
	(2)	72.8	×(21.8)
	(3)	×	(1.2)
2	ア	96.0	イ(1.0)
	ウ	92.1	エ(6.8) イ(0.2)
3	省略	41.5	同じ極同士でつないでいる(8.4) 乾電池と乾電池がつながっていない(4.6) 並列つなぎにしている(2.8)

< 考察 >

大問4は、乾電池に豆電球などをつないで、電気を通すつなぎ方や電気を通す物を調べながら、電気の回路についての思考、技能・表現をみる問題である。

回路の作図以外は、全体的に正答率が高い。問1は、電気を通すものと通さないものを問う問題であるが、アルミニウムはくが電気を通さないという誤答が多い。問3は、第4学年の学習内容で、豆電球をより明るくするために、乾電池を2個使用した直列つなぎの回路を作図できるかを問う問題である。この問題は正答率が約42%と低く、誤答例をみると同極同士をつないで一つの回路にしているものや、2つの乾電池がつながっていないといったものが多くみられた。これは、2個の電池のつなぎ方が実験等の体験活動を通して十分理解できていないことが原因であると考えられる。また、並んだ2個の乾電池をどのようにつなぐかを、実験結果を基に作図する練習が不十分であると考えられる。

そこで、指導に当たっては、電気を通す物と通さない物について、身近にある物を使って調べさせる必要がある。特にアルミニウムに関しては、アルミニウムできている2、3種類の物を調べさせるようにするとよい。また、豆電球と乾電池のつなぎ方では、実験を通して様々な回路を実際に作成させたり、その際の回路をノートなどに作図・記録させたりして指導を行うことも必要である。さらに、見えない電気の流れやはたらきを視覚的なイメージでとらえやすくするために、モデル化した回路を取り入れるなど、教具等の工夫も重要である。

5 正答率 ( 83.0% )

問題番号	標準解答	正答率(%)	比較(%)	誤答例(%)	
1	支点	イ	96.5		ア(1.6) ウ(0.4)
	力点	ウ	95.4		ア(2.8) イ(0.6)
	作用点	ア	94.4		ウ(3.0) イ(1.4)
2	ア	30g	89.4	全国 65.0 類似	60g(2.5) 20g(2.0)
	イ	20g	52.4	全国 65.0 類似	30g(18.6) 10g(3.8)
3		ア	62.5		ウ(16.0) イ(5.8)
		オ	85.8		ウ(4.2) エ(1.6)
		カ	87.4		ウ(5.0) イ(3.0)

< 考察 >

大問5は、てこを使い、力の加わる位置や大きさを変えて、てこの仕組みや働きを調べ、てこの規則性についての考え方をみる問題である。

問1は、てこの働きの各部分の名称を問う問題であるが、正答率は約95%と高く、よく理解していることが分かる。問2は、つり合うときの規則性を問う問題で、全国問題と類似の問題である。アの問題のように支点から等距離の場合は、全国問題と比べ難易度に違いがあり、やや容易であるため正答率が高くなっている。しかし、イの問題のように支点からの距離が異なる場合は、全国問題と比較して正答率が13ポイント低くなっている。距離が異なる場合の規則性については、実験した結果を規則性としてとらえるまでの理解が不十分であることが分かる。問3は、てこを利用したものを問う問題であるが、はさみやパールのように支点が力点と作用点の間にあるものは正答率が高く、ピンセットのように力点が支点と作用点の間にあるような変則的なものは正答率が低くなっている。

そこで、指導に当たっては、てこの基本的な原理を押さえた上で、てこ実験器を使用し、自由に左右をつり合わせる活動を通して、てこがつり合うときの規則性を児童自ら発見させることで知識の定着を図りたい。また、てこの規則性については、練習問題を数多く行い、復習の機会をもつことにより定着を図りたい。さらに、学習や生活の中で使用されている道具等にも日頃から目を向けさせることが大切である。

6 正答率 ( 66.1% )

問題番号	標準解答	正答率(%)	誤答例(%)		
1	ウ	37.3	ア(29.8)	イ(20.2)	
2	(1) イ	73.3	ウ(8.2)	ア(7.4)	
	(2) エ	80.8	ウ(8.8)	ア(3.4)	
3	(1) 氷	73.4	固体(6.8)	水(2.4)	あたためる(2.0)
	(2) えき体	70.7	水(3.2)	水滴(3.0)	水体(2.0)
	(3) 気体	61.1	水蒸気(5.2)	空気(3.6)	水(2.2)

< 考察 >

大問6は、水が水蒸気や氷になる様子を観察し、温度と水の変化との関係などを調べ、水の状態変化についての知識・理解、技能・表現をみる問題である。

問1は、水を冷やしたときの温度の変化を問う問題であるが、正答率は約37%と低い。この問題では、温度が次第に低下していく「ア」のグラフを選んでいる誤答が多いことから、実験結果に基づく理解が十分でないことが分かる。問2は、結露について問う問題であるが、約80%近い正答率であり、結露と日常みられる自然現象とのつながりをほぼ理解していると言える。しかし、ウの「しも柱」という誤答も多く、空気中にある水蒸気がどのように結露していくか理解していないことが分かる。問3は、水の状態変化について総合的に問う問題であるが、(1)(2)が約70%、(3)が約60%の正答率である。特に(3)の正答率が低いのは、誤答に「水蒸気」、「空気」が多いことから分かるように、気体と水蒸気、空気のそれぞれの意味が十分理解されていないことが原因であると考えられる。

そこで、指導に当たっては、水の状態変化の様子を予想させ、予想と実験結果との違いを考察させながら、温度と水の変化の関係を理解させるようにする。その際、0 がしばらく続くことの意味を考えさせ、水の状態変化の特徴をとらえさせることが大切である。また、空気中に水蒸気があるということを、洗濯物が乾いたり、水たまりの水がなくなったりする自然蒸発の例を取りあげて理解を深めさせることが必要である。また、氷や水、水蒸気の実験や自然現象と関連させ、ワークシートや絵、図を使って児童自身がまとめることにより、水の状態変化の関係を的確に理解させることが大切である。

7 正答率 ( 91.5% )

問題番号	標準解答	正答率(%)	比較(%)	誤答例(%)
1	イ	84.5		ア(10.8) ウ(1.0)
	エ	90.6		ア(3.8) ウ(3.0)
2	イ	95.0	錘 87.2 H15 96.7 類似	ア(2.4) ウ(1.0)
3	ア	94.2		イ(1.0)
	-	-		

< 考察 >

大問7は、気温についての知識や温度計を使った測定技能をみる問題である。

どの問題も80%以上の正答率で、基本的な事項については、ある程度定着していると言える。問1は、気温の測り方について問う問題であるが、気温を測る際の地面からの高さに関する誤答が多かった。気温を測るときの留意事項についての理解が十分でないことが分かる。問2は、温度計の見方を問う問題であるが、温度計の目盛りを垂直より上の方からみると答えた児童が2.4%ほどみられた。この問題は、全国問題及び昨年度問題の類似問題であるが、全国問題と比べると約8ポイント高く、昨年度の問題とは同程度である。

そこで、指導に当たっては、1日の天気の様子や気温の変化を温度計を使って観察させ、表やグラフ、図等にまとめさせることが大切である。さらに、まとめたことを基に、1日の天気や気温の変化について考察させることが望ましい。また、観察や実験器具の名称、使い方については、フラッシュカードや掲示物を利用して繰り返し指導を行い、定着を図ることが必要である。

# 小学校学習状況実態調査



# 1 調査内容

## 学習や生活についてのアンケート

( ) 立 ( ) 小学校 ( ) 年) 男・女

このアンケートは、みなさんの毎日の学習や生活の様子などについて調べるためのものです。テストではありませんので、あなたが思ったことをそのまま答えてください。

1 どのじゅぎょうがすきですか。すきなじゅぎょうの番号に をつけてください。いくつ をつけてもかまいません。

1 . 国語	2 . 社会	3 . 算数	4 . 理科	5 . 音楽	6 . 図画工作
7 . 家庭 ( 5 年生だけ )	8 . 体育	9 . 総合的な学習の時間			

2 学校のじゅぎょうはどのくらいわかりますか。次の教科について、あてはまるものを1つ選び、その番号に をつけてください。

- |        |           |             |              |               |
|--------|-----------|-------------|--------------|---------------|
| (1) 国語 | 1 . よく分かる | 2 . だいたい分かる | 3 . 半分くらい分かる | 4 . ほとんど分からない |
| (2) 社会 | 1 . よく分かる | 2 . だいたい分かる | 3 . 半分くらい分かる | 4 . ほとんど分からない |
| (3) 算数 | 1 . よく分かる | 2 . だいたい分かる | 3 . 半分くらい分かる | 4 . ほとんど分からない |
| (4) 理科 | 1 . よく分かる | 2 . だいたい分かる | 3 . 半分くらい分かる | 4 . ほとんど分からない |

3 国語、社会、算数、理科でどんなじゅぎょうがすきですか。あてはまる番号に をつけてください。いくつ をつけてもかまいません。そのほかのものがあつたら、( ) に書いてください。

- |                                      |                           |
|--------------------------------------|---------------------------|
| 1 . 先生が一人で学級のみんを教えるじゅぎょう             |                           |
| 2 . 先生が何人かで学級のみんをいっしょに教えるじゅぎょう       |                           |
| 3 . 学級がいくつかに分かれて、先生がそれぞれについて教えるじゅぎょう |                           |
| 4 . コンピュータを使ったじゅぎょう                  | 5 . じっさいに物を使って考えるじゅぎょう    |
| 6 . グループで話し合いながら考えるじゅぎょう             | 7 . 自分でノートにまとめながら考えるじゅぎょう |
| 8 . ワークシートに記入しながら考えるじゅぎょう            |                           |
| 9 . そのほか ( )                         |                           |

4 学校や家で勉強してわからないことがあるとき、どのようにしていますか。一番多くしていることを1つ選び、その番号に をつけてください。

- |               |   |               |
|---------------|---|---------------|
| 1 . 自分一人ががんばる | 2 . 友だちに聞く                                  | 3 . 家の人に聞く    |
| 4 . 学校の先生に聞く  | 5 . じゅくや家庭 教師 <small>かていきょうし</small> の先生に聞く | 6 . そのままにしておく |

5 家ではどのように勉強していますか。(1)~(3)について、あてはまるものを1つ選び、番号に をつけてください。

- (1) 出された宿題をきちんとする。
- |             |              |             |           |
|-------------|--------------|-------------|-----------|
| 1 . いつもしている | 2 . だいたいしている | 3 . たまにしている | 4 . していない |
|-------------|--------------|-------------|-----------|
- (2) 家の人から言われなくても進んで勉強する。
- |             |              |             |           |
|-------------|--------------|-------------|-----------|
| 1 . いつもしている | 2 . だいたいしている | 3 . たまにしている | 4 . していない |
|-------------|--------------|-------------|-----------|
- (3) 自分がおもしろいと思ったことは、学校の勉強に関係なく調べる。
- |          |           |             |
|----------|-----------|-------------|
| 1 . よくする | 2 . たまにする | 3 . したことがない |
|----------|-----------|-------------|

6 (1)と(2)についてあてはまるものを下の  から1つ選び、番号で教えてください。

(1) 学校でじゅぎょうがある日、家でどのくらい勉強をしていますか。

(2) 学校が休みの日、家でどのくらい勉強をしていますか。

- |           |               |           |             |
|-----------|---------------|-----------|-------------|
| 1.ほとんどしない | 2.30分くらい      | 3.1時間くらい  | 4.1時間30分くらい |
| 5.2時間くらい  | 6.2時間から3時間くらい | 7.3時間より多い |             |

(注 意)

学習じゅくで勉強する時間はのぞきます。家で家庭教師の先生などに勉強を教えてもらう時間は入れてください。

7 学習じゅくについてききます。

(1) 学習じゅくに通っていますか。あてはまる方につけてください。(そろばん, 習字, ピアノなどのおけいごとやスイミングなどのスポーツ活動はのぞきます。)

- |         |          |                     |
|---------|----------|---------------------|
| 1.通っている | 2.通っていない | [通っていない人は8に進んでください] |
|---------|----------|---------------------|

(2) 学習じゅくに通っている人にききます。1週間に何日通っていますか。あてはまるものを1つ選び、その番号につけてください。

- |      |      |      |          |
|------|------|------|----------|
| 1.1日 | 2.2日 | 3.3日 | 4.3日より多い |
|------|------|------|----------|

(3) 学習じゅくに通っている人にききます。じゅくで1回だいたい何時間、勉強していますか。あてはまるものを1つ選び、その番号につけてください。

- |       |       |          |       |           |
|-------|-------|----------|-------|-----------|
| 1.30分 | 2.1時間 | 3.1時間30分 | 4.2時間 | 5.2時間より多い |
|-------|-------|----------|-------|-----------|

8 読書についてききます。

(1) 本を読むことは、好きですか。あてはまるものを1つ選び、番号につけてください。

- |         |          |             |      |
|---------|----------|-------------|------|
| 1.とても好き | 2.まあまあ好き | 3.あまり好きではない | 4.嫌い |
|---------|----------|-------------|------|

(2) 1か月に、だいたい何さつくらいの本を読んでいますか。あてはまるものを1つ選び、番号につけてください。(歴史のまんがや科学のまんがなどは、入れてもかまいません。)

- |          |            |       |       |       |
|----------|------------|-------|-------|-------|
| 1.読まない   | 2.1さつ      | 3.2さつ | 4.3さつ | 5.4さつ |
| 6.5~10さつ | 7.10さつより多い |       |       |       |

9 学校が休みの日に、次のことをどのくらいしていますか。あてはまるものを1つ選び、番号につけてください。

(1) 美術館びじゅつかん、資料館しりょうかん、図書館などに行く。

- |        |        |           |        |
|--------|--------|-----------|--------|
| 1.よく行く | 2.時々行く | 3.あまり行かない | 4.行かない |
|--------|--------|-----------|--------|

(2) 公民館こうみんかんや地区ちくの活動かつどうに参加さんかする。

- |        |        |          |       |
|--------|--------|----------|-------|
| 1.よくする | 2.時々する | 3.あまりしない | 4.しない |
|--------|--------|----------|-------|

(3) 山登りや虫とりなど自然にふれる遊びをする。

- |        |        |          |       |
|--------|--------|----------|-------|
| 1.よくする | 2.時々する | 3.あまりしない | 4.しない |
|--------|--------|----------|-------|

(4) スポーツ少年団だんで活動する。

- |        |        |       |
|--------|--------|-------|
| 1.よくする | 2.時々する | 3.しない |
|--------|--------|-------|

(5) 習いごとやおけいごとをする。

- |        |        |       |
|--------|--------|-------|
| 1.よくする | 2.時々する | 3.しない |
|--------|--------|-------|

## 2 調査結果及び結果分析

[調査人数 第3学年 2218名 第5学年 2265名]

(各学校1クラス5名を抽出して調査した)

数値は、全回答数に対する割合(%)である。

無回答や回答が不明なものがあるので、それぞれの質問に対する回答の和は100%にならない。

1

どの授業が好きですか。 (複数回答)		国語	社会	算数	理科	音楽	図画工作	家庭	体育	総合的な学習の時間
	3年	33.9	31.3	50.2	57.5	56.7	69.3	81.1	47.7	
5年	29.5	23.0	43.8	43.8	51.4	58.2	60.1	69.3	40.9	

3年生では、国語、社会、総合的な学習の時間を除いた教科については、半数以上の児童が好きだと答えており、昨年度と比べても全体的に大きな変化は見られない。総合的な学習の時間については、昨年度よりも約10ポイント高くなっている。5年生では、どの教科においても、3年生に比べて好きだと答えた児童の割合は低くなっている。理科を好きだと答えた児童の割合は、昨年度に比べて約5ポイント高くなっているが、社会を好きだと答えた児童の割合は、前年度と同様、20%程度と低い。

2

授業はどのくらい分かりますか。		よく分かる	だいたい分かる	半分くらい分かる	ほとんど分からない
	(1)国語	3年	42.1	42.7	11.3
	5年	41.4	45.8	10.9	1.2
(2)社会	3年	40.4	38.9	16.0	2.7
	5年	31.7	45.8	18.5	2.6
(3)算数	3年	58.7	28.4	9.5	1.8
	5年	52.1	33.3	11.7	2.1
(4)理科	3年	58.8	31.0	7.3	1.0
	5年	46.8	40.0	11.3	1.3

「よく分かる」と「だいたい分かる」を合わせた割合は、4教科を平均すると、3年生、5年生それぞれ約85%、84%となり、昨年度と比べて大きな変化は見られない。3年生、5年生ともに、4教科の中で、社会を「よく分かる」「だいたい分かる」と答えた割合が一番低くなっている。3年生では、「好きだ」と答えた割合が高い「算数」「理科」において、「よく分かる」「だいたい分かる」と答えた割合も高くなっている。一方、5年生では、「好きだ」と答えた割合が、「算数」「理科」に比べて低い「国語」において、「よく分かる」「だいたい分かる」と答えた割合は、「算数」「理科」と同程度の約87%である。国語はあまり好きな方ではないが、児童はおおむね理解していると考えていると言える。

3

どんな形態の授業や学習方法が好きですか。	3年	5年
先生が一人で教える授業	37.8	33.6
先生が何人かでみんな一緒に教える授業	23.9	15.6
学級がいくつかに分かれてする授業	32.0	32.6
コンピュータを使った授業	74.3	76.8
実際に物を使って考える授業	68.2	64.3
グループで話し合いながら考える授業	53.9	52.8
自分でノートにまとめながら考える授業	28.7	26.5
ワークシートに記入しながら考える授業	25.6	17.7
その他	2.8	1.6

両学年とも、「コンピュータを使った授業」や「実際に物を使った授業」が好きだと答えた割合が約65~75%と、最も高かった。次に、「グループで話し合いながら考える授業」を好きだと答えた割合が、約50%であった。児童は、具体物等を活用した学習や、話し合いながら友達と学び合う学習などを好む傾向がある。また、5年生では、ワークシートを使った学習を好む児童の割合は約20%であるのに対して、ノートを使った学習を好む児童の割合は約30%と、ワークシートを使った学習よりもノートを使った学習を好む児童の方が多い。授業形態については、TTの授業よりも先生が一人で指導する授業や少人数の授業を好む傾向がある。

4

学校や家で勉強して分からないことがあるとき、どのようにしていますか。	自分一人 でがんばる	友達に 聞く	家の人 に聞く	学校の 先生に 聞く	塾や家庭 教師の先 生に聞く	そのまま にしてお く	無回答
3年	24.3	5.4	61.2	4.8	0.9	0.9	2.6
5年	19.1	10.1	57.5	4.1	1.6	0.9	6.6

勉強して分からないときには「家の人に聞く」と答えた児童が、3年生、5年生ともに、約60%であり、昨年度と同じ程度である。次に、「自分一人がんばる」と答えた児童が多く、昨年度と同じ程度である。「そのままにしておく」は、約1%であることから、ほとんどの児童は、分からないことがあったら、何とかして解決しようとしていることが分かる。また、「学校の先生に聞く」は、約4～5%であり、昨年度と同程度である。

5

家ではどのように勉強していますか。		いつも している	だいたい している	たまに している	していない
(1)出された宿題はきちんとする。	3年	71.4	20.8	4.7	0.8
	5年	70.2	25.0	3.5	0.4
(2)家の人から言われなくても進んで勉強する。	3年	39.6	38.8	14.2	4.1
	5年	41.5	42.8	12.9	1.8

(3)自分で面白いと思ったことは学校の勉強に関係なく調べる。		よくする	たまに する	したこ とがない
	3年	21.3	50.4	25.4
	5年	18.4	61.0	19.4

宿題については、3年生、5年生ともに90%以上の児童が出された宿題にだいたい取り組んでいると答えており、昨年度と同様に高い。また、約80%の児童が家の人から言われなくても進んで勉強していると答えており、昨年度と同様に高い。しかし、自分でおもしろいと思ったことを進んで調べようとする児童は約20%程度であり、進んで調べようとしたことがないと答えた児童も約20%である。さらに、興味・関心をもって調べようとする意欲を高める必要がある。

6

		ほとん どしな い	30分 くらい	1時間 くらい	1時間30 分くらい	2時間 くらい	2～3時 間くらい	3時間よ り多い
(1)平日の家での勉強時間	3年	4.4	33.9	35.8	13.7	7.0	2.1	0.9
	5年	2.6	21.1	36.4	24.3	10.1	3.4	1.2
(2)休日の家での勉強時間	3年	10.2	25.6	26.7	15.4	8.6	5.7	3.9
	5年	3.9	17.0	26.9	19.9	16.6	10.0	4.6

平日の家での勉強時間は、3年生、5年生ともに「1時間くらい」と答えた児童の割合が最も高く、3年生の割合が昨年度に比べて約3ポイント高くなっている。休日の家での勉強時間は、「2時間以上」と答えた児童の割合は、5年生において、昨年度に比べて5ポイント程度高くなり、「ほとんどしない」「30分くらい」と答えた児童の割合は低くなっていることから、全体的に勉強時間が長くなっていると言える。

7

(1) 学習塾に通っていますか。		通っている	通っていない
	3年	20.9	69.9
	5年	18.6	71.3

(2) 1週間に何日通っていますか。		1日	2日	3日	3日より多い
	3年	9.1	7.5	1.6	1.7
	5年	5.7	8.0	2.5	1.8

(3) 塾で一回大体何時間勉強していますか。		30分	1時間	1時間30分	2時間	2時間より多い
	3年	2.6	8.2	3.8	2.6	2.2
	5年	1.0	4.9	3.8	3.8	4.4

学習塾には、約20%の児童が通っており、昨年度と同程度である。塾に通っている児童は、週に1日から2日通っている児童が多い。塾での学習時間は、3年生は、「1時間」と答えた児童の割合が約8%と最も高いが、5年生は、「1時間」「1時間30分」「2時間」「2時間より多い」と答えた児童の割合は、それぞれ約4～5%となっている。

8

(1) 本を読むことは、好きですか。		とても好き	まあまあ好き	あまり好きでない	きらい
	3年	55.9	33.1	6.7	2.5
	5年	41.8	43.8	10.2	2.6

(2) 1ヶ月に大体何冊くらい本を読んでいますか。		読まない	1冊	2冊	3冊	4冊	5～10冊	10冊より多い
	3年	2.8	9.1	8.7	7.9	12.0	21.7	35.5
	5年	3.0	10.6	10.8	13.0	13.5	25.3	22.5

本を読むことについて、「とても好き」「まあまあ好き」を合わせた割合は、3年生、5年生それぞれ、約90%、86%であり、多くの児童が本を読むことを好んでいる。また、1週間に1冊以上読んでいる児童は、3年生、5年生それぞれ、約70%、60%であり、昨年度と同様に高い。朝の読書活動や日頃の読書指導の成果がみられる。今後とも、読書活動の充実を図り、さらに多くの児童が本に親しむように指導を重ねていく必要がある。

9

学校が休みの日、次のことをどのくらいしていますか。		よく行く・する	時々行く・する	あまり行かない・しない	行かない・しない	
	(1) 美術館、資料館、図書館などに行く。	3年	9.3	25.0	31.2	32.0
		5年	5.3	26.4	35.7	30.5
(2) 公民館や地区の活動に参加する。	3年	37.5	25.8	19.1	13.5	
	5年	38.5	31.7	17.0	9.9	
(3) 山登りや虫取りなど自然にふれる遊びをする。	3年	27.1	29.2	23.6	15.7	
	5年	19.8	32.1	31.1	15.2	

(4) スポーツ少年団で活動する。		よくする	時々する	しない
	3年	30.1	9.9	53.6
	5年	42.7	9.7	44.1
(5) 習い事やお稽古ごとをする。	3年	40.6	15.4	36.6
	5年	42.0	15.7	38.6

各項目について、昨年度とほぼ同じ傾向がみられた。「休日に美術館、資料館、図書館などに行く」の児童の割合は、「よく行く」「時々行く」を合わせると、約30～35%であった。また、「公民館や地区の活動に参加する」の児童の割合は、「よく行く」「時々行く」を合わせると、3年生で約60%、5年生で約70%であり、5年生の方がよく参加していることが分かる。「山登りや虫取りなど自然にふれる遊びをする」の児童の割合は、「よく行く」「時々行く」を合わせると、3年生で約60%、5年生で約50%であり、3年生の方が自然にふれる機会がやや多い。「スポーツ少年団で活動する」児童の割合は、3年生は約30%、5年生は約40%であり、5年生の方がやや多い。「習い事やお稽古ごとをする」児童の割合は、3年生、5年生ともに約40%であり、ほぼ同じ割合であった。



# 中学校基礎学力調査結果分析

# 目 次

## 平成16年度 中学校基礎学力調査

1	目的	-----	67
2	調査対象及び実施教科	-----	67
3	実施期日	-----	67
4	調査問題作成の基準及び方針	-----	67
5	調査集計の方法	-----	67
6	調査結果の分析	-----	67
7	調査結果の概要	-----	68

## 各教科の分析結果

(1)	国語		
	調査問題の構成とねらい	-----	71
	平均点	-----	71
	小問ごとのねらいと正答率	-----	71
	標準解答，正答率，誤答例，考察	-----	72
(2)	社会		
	調査問題の構成とねらい	-----	81
	平均点	-----	81
	小問ごとのねらいと正答率	-----	81
	標準解答，正答率，誤答例，考察	-----	82
(3)	数学		
	調査問題の構成とねらい	-----	89
	平均点	-----	89
	小問ごとのねらいと正答率	-----	89
	標準解答，正答率，誤答例，考察	-----	90
(4)	理科		
	調査問題の構成とねらい	-----	99
	平均点	-----	99
	小問ごとのねらいと正答率	-----	99
	標準解答，正答率，誤答例，考察	-----	100
(5)	英語		
	調査問題の構成とねらい	-----	111
	平均点	-----	111
	小問ごとのねらいと正答率	-----	111
	標準解答，正答率，誤答例，考察	-----	112

## 学習状況実態調査

1	調査内容	-----	121
2	調査結果及び結果分析	-----	123

## 平成16年度 中学校基礎学力調査

### 1 目的

本県中学生の基礎学力の定着状況について総合的に調査研究を行い，その実態を把握，分析するとともに，学習指導上の問題点を明らかにし，今後の教育課程の編成・実施及び指導方法の改善に資する。

### 2 調査対象及び実施教科

#### (1) 調査対象

県内の公立中学校の中で本調査を希望するすべての学校を対象とし，第2学年で実施する。

#### (2) 実施教科

国語，社会，数学，理科，英語の5教科を実施する。

実施時間は，各教科50分で実施する。

### 3 実施期日

調査の実施期日は，原則として平成16年10月27日（水），10月28日（木）の両日とする。

調査実施日	調査教科
平成16年10月27日(水)	国語(50分・聞き取り問題を含む) 社会(50分) 数学(50分)
10月28日(木)	理科(50分) 英語(50分・リスニング問題を含む)

### 4 調査問題作成の基準及び方針

#### (1) 調査問題作成の基準

中学校学習指導要領に示されている各教科の目標に即し，県内で使用されている教科書に準拠して，問題を作成する。

#### (2) 調査問題作成の方針

ア 中学校学習指導要領に示されている各教科の目標及び内容に基づき，基礎的・基本的な内容について出題する。

イ 出題に当たっては，理解力，思考力，判断力，表現力を総合的にみることができるようにし，単に知識を問う内容とならないよう配慮する。

ウ 特定の分野や内容に偏ることなく，広い範囲から出題し，中学校学習指導要領に示された内容について取扱いの趣旨を十分考慮する。

エ 調査結果が，今後比較検討できるような内容にする。

### 5 調査集計の方法

(1) 調査実施校より，調査集計表，各教科小問別集計表を回収し，調査人数，平均点，小問別正答率，誤答例等を集約する。

(2) 学習の実態を把握するための「学習と生活に関するアンケート」も併せて実施する。

(3) 各教科小問別集計表と，「学習と生活に関するアンケート」のサンプル数は，いずれも各学校1学級当たり5名分とする。その抽出に当たっては，男女合わせた無作為抽出とする。なお，在籍数が5名以下の場合は，全員分とする。

### 6 調査結果の分析

(1) 各小問別の正答率や主な誤答例を中心に分析し，調査結果に関する考察や指導上の留意点をまとめる。

(2) 調査対象学年について，調査結果の収集・分析を行い，学習の定着状況を把握し，今後の指導に役立てる。

(3) 基礎学力の定着状況を把握し，今後の教育施策に生かす。

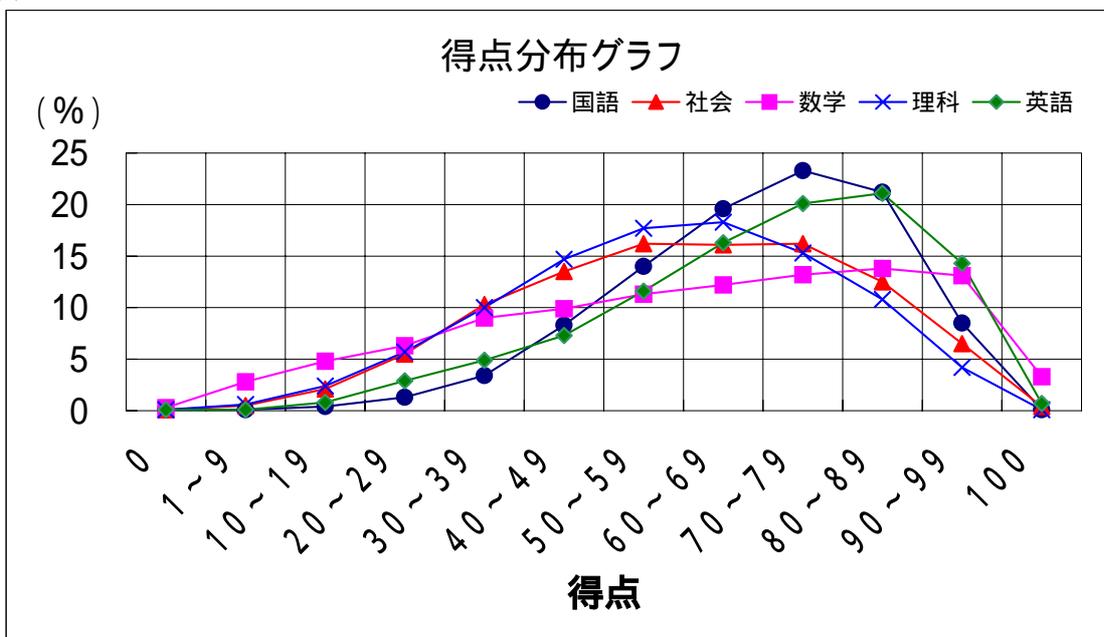
7 調査結果の概要

(1) 調査実施校 144校(五ヶ瀬中等教育学校, 宮崎大学教育文化学部附属中学校を含む)

(2) 平成16年度 中学校基礎学力調査結果 得点分布表(県全体)

	国語		社会		数学		理科		英語	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
100	10	0.1	43	0.4	377	3.3	10	0.1	75	0.7
90～99	977	8.5	756	6.6	1510	13.1	488	4.2	1641	14.3
80～89	2441	21.1	1446	12.6	1590	13.8	1244	10.8	2426	21.1
70～79	2680	23.2	1876	16.3	1524	13.2	1762	15.3	2311	20.1
60～69	2254	19.5	1858	16.1	1402	12.2	2115	18.4	1872	16.3
50～59	1609	13.9	1869	16.2	1298	11.3	2035	17.7	1330	11.6
40～49	955	8.3	1554	13.5	1138	9.9	1698	14.8	840	7.3
30～39	389	3.4	1195	10.4	1034	9.0	1148	10.0	561	4.9
20～29	145	1.3	640	5.6	726	6.3	662	5.8	330	2.9
10～19	46	0.4	241	2.1	553	4.8	277	2.4	91	0.8
1～9	11	0.1	55	0.5	323	2.8	74	0.6	17	0.1
0	9	0.1	16	0.1	34	0.3	16	0.1	7	0.1
受検者数	11526		11549		11509		11529		11501	
総得点	8E+05		693446		704499		668087		798400	
最高点	100		100		100		100		100	
最低点	0		0		0		0		0	
平均点	68.5		60.0		61.2		57.9		69.4	

(3) 得点分布グラフ(県全体)



(4) 各教育事務所調査人数

事務所	国語	社会	数学	理科	英語
宮崎	3756	3771	3748	3761	3746
南那珂	922	923	922	919	920
北諸県	2136	2142	2139	2137	2135
西諸県	936	936	933	936	935
児湯	1100	1101	1097	1100	1095
東白杵	2230	2233	2226	2231	2224
西白杵	245	245	245	244	245

# 各教科の分析結果

## 中学校第2学年

### (1) 国語

#### 分析結果の表記について

「小問ごとのねらいと正答率」の評価の欄の については、県正答率と予想正答率との差を記号化して示している。

- 1 県正答率が予想正答率よりも5ポイント以上高いもの.....
- 2 県正答率が予想正答率よりも5ポイント以上低いもの.....
- 3 1と2の間にあるもの .....

「小問ごとのねらいと正答率」の比較の欄の「H15」「全国」については、過去の基礎学力調査問題や全国教育課程実施状況調査問題と同一問題、類似問題であることを示している。

- 1 H15 ~平成15年度基礎学力調査問題と同一または類似問題
- 2 全国~平成13年度全国教育課程実施状況調査問題と同一または類似問題  
正答率と誤答率は、抽出調査した全人数に対する割合を表している。

誤答例については、抽出調査した中で、割合の高かったものを中心に記載している。



# (1) 国語

調査問題の構成とねらい

- ・ 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」及び「読むこと」の領域と〔言語事項〕の3領域1事項についての基礎的、基本的な力をみる問題とした。
- ・ 聞き取り、文学的文章、説明的文章、古典、韻文、言語事項の6分野から出題した。
- ・ 理解力、思考力、判断力及び表現力を総合的にみることができるよう配慮した。

平均点 68.5点

小問ごとのねらいと正答率

大問	分野	小問	内 容・ね ら い	主な領域・事項	大問別正答率	小問別正答率	予想正答率	評価	比較	
二	聞き取り	1	話の要点をとらえながら聞き、内容を正確に聞き取ることができる。	話	86.2	94.5	70		全国	
		2	話の要点をとらえながら聞き、話の内容を聞き分けることができる。	話		96.6	70			
		3	話題の展開に即して、話の内容を正確に理解することができる。	話		70.4	60			
		4	内容を正確に聞き取ることができる。	話		83.1	75			
三	文学的文章	1	文脈に即して、適切な副詞を補充できる。	読	87.2	87.4	90			
		2	A	文脈に即して、登場人物の会話文を推察できる。		読	94.9	80		H15
			B	文脈に即して、登場人物の会話文を推察できる。		読	93.9	80		H15
		3	人物の描写に注意して、適切な一文を抜き出すことができる。	読		62.6	80			
4	文章の要旨をとらえて、心情を理解することができる。	読	97.0	90						
三	説明的文章	1	論理の展開をとらえて、適切な接続詞を選択できる。	読	63.7	79.7	80		H15	
		2	文章の展開をとらえて、適切な言葉でまとめることができる。	書		69.5	50			
		3	文章の展開をとらえて、適切な言葉を抜き出すことができる。	読		39.7	60			
		4	文章の展開に即して、内容をとらえることができる。	読		65.7	60		全国	
四	古典	1	文語を現代仮名遣いに書き直すことができる。	書	68.6	55.7	70		H15	
		2		文章の展開に即して、適切な言葉を抜き出すことができる。		読	69.5	80		
				文章の展開に即して、適切な言葉を抜き出すことができる。		読	71.3	80		
3	文章の展開をとらえて、故事成語の意味を指摘することができる。	読	78.0	80						
五	韻文	1	(1)	鑑賞文の内容に即して、適切な言葉を抜き出すことができる。	読	67.8	40.8	55		
			(2)	鑑賞文の内容に即して、適切な言葉を抜き出すことができる。	読		78.3	70		
		2	ア	短歌の内容をとらえて読むことができる。	読		61.9	70		
			イ	短歌の内容をとらえて読むことができる。	読		68.4	70		
ウ	短歌の内容をとらえて読むことができる。	読	89.6	75						
六	言語	1	主語・述語の関係を理解して、指摘できる。	言	54.8	74.2	50		H15	
		2	品詞の区別が的確にできる。	言		41.0	60		H15	
		3		正しい筆順で書くことができる。		言	46.7	40		
				正しい筆順で書くことができる。		言	27.9	35		
	4		漢字の部首を指摘できる。	言		49.9	50			
			漢字の部首を指摘できる。	言		71.5	55			
	5		これまでに習った漢字を読むことができる。	言		96.0	80		全国	
			これまでに習った漢字を読むことができる。	言		46.1	70			
			これまでに習った漢字を読むことができる。	言		47.5	55			
	6		これまでに習った漢字を書くことができる。	言		60.0	50			
		これまでに習った漢字を書くことができる。	言	25.4	35					
		これまでに習った漢字を書くことができる。	言	71.2	70					

領域・言語事項の「話」は「話すこと・聞くこと」、「書」は「書くこと」、「読」は「読むこと」、「言」は「言語事項」を表している。

一 正答率 (86.2%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	比較(%)	誤答例(%)
1	スケーター	94.5	全国61.4 類似	アメンボスケーター(2.3)
2	イ	96.6		ア(2.4)
3	エ	70.4		ウ(18.6)      イ(7.9)
4	おぼれてしま う	83.1		しずむ(12.2)      水面に浮けない(2.0)

< 考察 >

話の要点を的確に聞き取る力を問う問題である。

「あめんぼ」が水に浮いていられる理由について述べられた内容であったが、全体的に正答率は高かった。比較的、平易な文章であることから、理解しやすかったものと思われる。

- ・ 「放送の内容を正確に聞き取る」ことをねらいとした問1については、正答率が全国教育課程実施状況調査と比べて高かった。全国教育課程実施状況調査では、全体を正確に把握する必要があったが、本調査では問題文の冒頭に答えがあり、答えやすかったためと考えられる。また、「話の内容を聞き分けることができる」ことをねらいとした問2も、正答率が高かった。これも問題文の冒頭に答えがあり、イメージがつかみやすかったためと考えられる。
- ・ 「話の内容を正確に理解することができる」ことをねらいとした問3については、「水面のまくが破れない理由」に関して問うているのに対し、「水面に浮いていられる理由」について答えているものが多かった。答えを考える際に参考となる、「あしの先にするどいつめが前向きに出ています。」という箇所が、問題文の最後の部分にあり、後半の聞き取りが不十分であったためと思われる。また、「適当でないものを一つ選ぶ」という設問の指示をよく読んでおらず、「適当なもの」を選んだ生徒もいたと考えられる。
- ・ 「内容を正確に聞き取ることができる」ことをねらいとした問4については、「しずむ」という誤答が多かった。これは、問題文にはない表現であることから、生徒自身が設問から推測して答えたものではないかと思われる。問3と同じく、答えが問題文の最後にあるので聞き取りが不十分だったことと、内容を正確に聞き取らず、自分で勝手に判断してしまったことが考えられる。

そこで、指導に当たっては、ふだんの授業において目的や場面に応じて的確に聞く能力を育成するために、次のような点に力を入れて取り組む必要がある。

「聞き取り問題」を定期試験や授業で行い、話の展開の筋道を全体的にとらえながら、要点を正確に聞き取ることに慣れさせる。

「聴写(教師が読み上げたものを生徒がそのまま書き取る)」を、授業の中に継続的に取り入れ、正確に聞き取る練習をさせる。その際、説明的文章においては、どこが事実でどこが意見なのかを意識させ、事実と意見とを聞き分けさせる。

人の話を聞く機会を多くし、話を聞きながら適切なメモをとる練習をさせる。

具体的な例～講演会や立志式の講話などの行事。総合的な学習の時間における校外学習でのインタビュー。

二 正答率 (87.2%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	比較(%)	誤答例(%)
1	イ	87.4		ア(7.1) 工(4.2)
2	A	94.9	H15 92.1 類似	工(1.7) ア(1.7) ウ(1.7)
	B	93.9		ア(5.3)
3	送信機を卵のすぐ近くへ置いて	62.6		送信機の卵のすぐ近くへ置いた(20.5) ひなが残した卵の殻を手渡した(12.7)
4	ア	97.0		工(1.0) イ(1.0) ウ(1.0)

<考察>

文学的文章の読解力を問う問題である。

全体的に正答率が高かった。チャボの卵の孵化を通しての、先生と生徒とのやりとりという親しみやすい内容であったこと、さらに、リード文があることにより、話の展開が把握しやすくなり、正答率の高さにつながったものと考えられる。

- ・ 「文脈に即し適切な副詞を補充できる」ことをねらいとした問1は、正答率が高かった。また、昨年度と同じく「文脈に即して登場人物の会話文を推察できる」ことをねらいとした問2についても正答率が高かったことから、話の展開をよく理解できていたことが分かる。
- ・ 「人物の描写に注意して適切な一文を抜き出すことができる」ことをねらいとした問3は、正答率が低かった。答えとなる箇所を指摘できてはいるが、「送信機を」と書くべきところを「送信機の」と書いたり、「卵の」が抜けていたり、抜き出す際の誤記が多かったためと考えられる。また、「紺野先生がとった行動」とは違う箇所を答えるなど、設問を踏まえていない答えも見られた。
- ・ 問4は特に正答率が高かった。「文章の要旨をとらえて、心情を理解することができる」というねらいの問いであるが、少年の気持ちについて説明している設問の条件文が易しかったため、心情を推測できたものと思われる。

そこで、指導に当たっては、文学的文章を読み、内容を的確に理解する能力を高めるために、次のような手立てが考えられる。

文(文章)を正確に読む力を身に付けさせるために、繰り返し音読させたり、一文一文を正確に視写させたりする。

具体的な例～班単位で、一文読みを行う。

定期試験やプリント学習において、答え方に条件が付いているときは、設問の文章を注意深く読み、答え方の条件を見落とさないように、機会をとらえて繰り返し指導をする。

具体的な例～題名読みや情景描写と心情描写の違いに着目した読みを行う。

情景描写の読み取りとともに、登場人物の行動や会話を文脈に沿って丁寧に読み取らせる。

三 正答率 (63.7%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	比較(%)	誤答例(%)
1	エ	79.7	H15 86.8 類似	ア(15.3) イ(3.2)
2	調教師を喜ばせ、自分も精いっぱい生きることを楽しむため。	69.5		文末の間違い(15.7) 生きることを楽しむため(10.5) 自分も精いっぱい生きることを楽しむため(3.2)
3	強制	39.7		知性(35.6) 意志(12.1) 能力(10.1)
4	ウ	65.7	全国 67.4 類似	エ(20.2) イ(10.3)

< 考察 >

説明的文章の読解力を問う問題である。

- ・ 「論理の展開をとらえて適切な接続詞を選択できる」ことをねらいとした問1は、昨年度より7.1ポイントほど低かったものの約80%の正答率であった。段落と段落の流れをおさえる力は、ある程度定着していると言える。「文章の展開をとらえ、適切な言葉でまとめることができる」ことをねらいとした問2は、筆者の挙げた二つの項目「調教師を喜ばせること」「その中で自分自身も生きること」のどちらも挙げなければならないところを、一項目のみ答えるという誤答が多かった。また、設問において、理由を問われている際には、文末表現を「～ので」や「～から」で結ぶ必要があるが、その点の不十分な解答が多かった。
- ・ 「文章の展開をとらえ、適切な言葉を抜き出すことができる」ことをねらいとした問3は、「知性」と「意志」のみを文章全体のキーワードとしてとらえているために、「強制」という解答に結び付けることができていなかった。「文章の展開に即して内容をとらえることができる」ことをねらいとした問4は、全国教育課程実施状況調査と同様に、内容を問題文全体の展開に即してとらえることが、十分にはできていなかった。

そこで、指導に当たっては、次のような手立てが考えられる。

段落ごとの内容をとらえるために「序論・本論・結論」という説明文の基礎的な構成を意識させ、段落相互の関係を正しく押さえる読解の基本的な技能を身に付けさせる。

文章の内容を把握し、目的や必要に応じて要約する指導を適宜行う。

具体的な例～筆者の考えが述べられている文か、具体例が書かれている文かに着目し、筆者の考えが述べられている文をまとめる。

文章のキーワードをとらえさせ、それがどのように使われているかに注意しながら読み取らせるように指導する。

具体的な例～題名に着目させるとともに、何度も繰り返して出てくる言葉に注意した読みを行う。

質問に応じた正しい文末表現を繰り返し練習させる。

具体的な例～「なぜか」という質問には、「～だから」と呼応させる。

四 正答率 (68.6%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	比較(%)	誤答例(%)
1	くらう	55.7	H15 58.7 類似	くうものです(21.4) 食うものです(16.8)
2	ア	69.5		エ(15.2) イ(8.4)
	エ	71.3		ア(18.1) ウ(8.0)
3	ア	78.0		イ(9.8) ウ(8.6)

< 考察 >

故事成語「虎の威をかる狐」を素材にした文章により、古典（漢文）に関する基礎的な力をみる問題である。

- ・ 「文語を現代仮名遣いに書き直すことができる」ことをねらいとした問1の正答率は、昨年度より3.0ポイントほど下がった。「現代仮名遣い」を問うているにもかかわらず、誤答はすべて、現代語訳しているものであった。これは、「現代ではどのように書き表すか」という設問の意味を「現代仮名遣いに書きかえる」こととして理解できなかった生徒が多かったためと考えられる。
- ・ 「文章の展開に即して、適切な言葉を抜き出すことができる」ことをねらいとした問2は、誤答例からみると、現代語訳と文語文を正確に対応させて読むことができなかったことや、現代語訳の内容の読み取りが不十分であったことが考えられる。
- ・ 「文章の展開をとらえて故事成語の意味を指摘することができる」ことをねらいとした問3は正答率が高かった。平成14年度の類似のもの比べて、21ポイント上昇している。

そこで、指導に当たっては、古典としての古文や漢文を理解する基礎を養い、古典に親しむ態度を育成するために、次のような手立てが考えられる。

目的意識を明確にした上で、音読や暗唱を継続的に行い、古文・漢文の読みに十分慣れ親しませる。

「歴史的仮名遣い」、特に単語の途中にくる「ハ」、「ワ行」や「古語の意味」(「いと」のように、現代では使われないもの、「ののしる」のように、現代と違う意味のもの。)など、古典を読む際の基礎となる力を確実に修得させる。

文語文と現代語訳を照らし合わせながら読み、動作の主体は誰かなど、要点を押さえながら、内容を的確にとらえさせる。

機会をとらえて、古典に触れさせる。

具体的な例～・「歌会始」などの行事にからめて百人一首に触れさせる。

- ・ 身近な故事成語への関心を高める。
- ・ 古典に関心をもたせるように書かれた現代の文章を紹介する。
- ・ 安井息軒，児玉久右衛門など，宮崎県に関連する人の書いた古典の文章を読ませる。

五 正答率 (67.8%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	誤答例(%)		
1	(1) 春ゆかんとす	40.8	我目(25.6)	今年ばかりの(10.4)	いちはつ の花(10.2)
	(2) 命	78.3	春(13.4)	生命(2.0)	
2	ア E	61.9	D(18.8)	F(13.6)	
	イ B	68.4	F(18.1)	E(6.3)	
	ウ C	89.6	B(5.4)	F(2.0)	D(1.3)

<考察>

韻文(短歌)やその鑑賞文についての読解力を問う問題である。

- ・ 「鑑賞文の内容に即して適切な言葉を抜き出すことができる」ことをねらいとした問1の(2)は適語補充の問題であるが、漢字一字で抜き出すという条件があるため、正答率が高かった。「短歌の内容をとらえて読むことができる」ことをねらいとした問2のウは、短歌の内容が分かりやすく、「子」という言葉が他の短歌では出てこないために選択しやすかったため、正答率が高かったと考えられる。
- ・ 問1の(1)は正答率が特に低かったが、歌中の「春ゆかんとす」に込められた作者の思いを読み取ることが難しかったためと思われる。また、鑑賞文中の「我目には今年ばかりの」「ほかの人の目には」「わたしの目には、今年限りで春は来ない」という表現にとらわれすぎて、「我目」という誤答が出てきたものと考えられる。
- ・ 問2のアでは、誤答としてDが多かった。これは説明の文にある「『の』の多様」だけに気をとられ、「植物の様子」であることを見落としたことが考えられる。また、イでは「色彩」という言葉から、色の名が出ている短歌を選んだ誤答も目立った。これらの誤答は、短歌を読んでその情景全体を想像する力が十分に身に付いていないために、短歌の一部や説明の一部だけを見て答えたからであると考えられる。
- ・ 全体として、提示された問題文や設問の文を注意深く読まないために、正解を答えられないという傾向がある。

そこで、指導に当たっては、作品に描かれた情景、心情などを表現に即して読む能力を育成するために、次のような点に留意する必要がある。

機会をとらえ、設問の文を正確に読むように指導する。特に、答え方の条件は何かなどを注意深く読むように、繰り返し指導する。

短歌に詠まれている言葉を手がかりに、情景を具体的に思い描かせたり、一語一語に込められた作者の思いを大切にしながら読み味わわせる学習活動を工夫する。

具体的な例～鑑賞文を書く。想像した情景を絵に描いてみる。

表現上の違いや特徴を考え、より深く味わい、目的と必要に応じて多様な読みができるような指導の工夫をする。そのためには、表現技法や短歌のきまりなどの知識を確実に習得させることが必要である。

具体的な例～同じ主題で詠まれたいろいろな短歌を読み比べる。

六 正答率 (54.8%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	比較(%)	誤答例(%)
1	動きだし	74.2	H15 38.9 類似	象のように(13.6) ゆっくりと(8.9) 驚いた(1.8)
2	イ	41.0	H15 71.5 類似	ク(23.5) ア(20.8) ウ(6.2)
3	四	46.7		五(28.9) 三(18.9)
	一	27.9		二(39.6) 三(30.6)
4	ござとへん	49.9		おおざと(20.8) ござと(4.2) 無解答(23.9)
	りっとう	71.5		りっしんべん(14.3) おおざと(1.8) 無解答(10.2)
5	おさ	96.0	全国 91.7 同一	もと(2.2)
	おんけい	46.1		おんえ(16.8) おんい(12.3) おんし(12.2) おんみ(8.6)
	かえり	47.5		こころ(26.8) あわれ(8.6) かいま(8.1)
6	備	60.0		備(20.9) 供(14.8)
	保障	25.4		保証(58.9) 保償(3.2) 保生(3.0)
	雑誌	71.2		雑紙(23.1) 雑誌(3.2)

< 考察 >

言語事項に関する問題である。

- ・ 「主語・述語の関係を理解し、指摘できる」ことをねらいとした問1は、昨年度と比べて述語の位置が近かったため、正答率が大幅に上昇したと考えられる。「品詞の区別が的確にできる」ことをねらいとした問2は、正答率が平成15年度と比較して大幅に下がっている。この原因としては、第1に、「楽しい」という終止形ではなく、「楽しく」と出題されており、形容詞の活用の形を正確に把握していなかったため、第2に、「楽しく」の基本形が「楽しい」と活用させて考えることができない生徒が多いため、第3に、「楽しい」という言葉を単純に感動の気持ちと結び付け、「感動詞」であると誤答したためであると考えられる。
- ・ 「正しい筆順で書くことができる」ことをねらいとした問3の は、平成14年度と比べて、6.7ポイント、「漢字の部首を指摘できる」ことをねらいとした4の は7.5ポイント上昇している。また、「これまでに習った漢字を読むことができる」ことをねらいとした6の は、全国教育課程実施状況調査と比べて、4.3ポイント高い。各学校での取組の成果が少しずつ現れてきていると考えられる。しかし、3の は見慣れているはずの漢字であるにもかかわらず、正答率が低かった。さらに、正しい筆順への意識を高める必要がある。

そこで、指導に当たっては、次のような指導の手立てが考えられる。

授業の中に小テストを位置付け、さらに、筆順や部首名、文法、同音異義語等を練習するプリントを作成して、定期的に与える。その際に、小テストの予習、復習の手立てを示すことが大切である。

「生活の記録」の活用など、ふだんから表現活動の中に漢字を用いて書く態度を育成することと、読む本のジャンルを広げたり、新聞を読む習慣づくりに努めたりする。

新聞のコラムなどを視写させることによって語彙力を増やし、それぞれの言葉がもつ意味を的確にとらえさせる。



## 中学校第2学年

### (2) 社会

#### 分析結果の表記について

「小問ごとのねらいと正答率」の評価の欄の については、県正答率と予想正答率との差を記号化して示している。

- 1 県正答率が予想正答率よりも5ポイント以上高いもの.....
- 2 県正答率が予想正答率よりも5ポイント以上低いもの.....
- 3 1と2の間にあるもの .....

「小問ごとのねらいと正答率」の比較の欄の「H15」「全国」については、過去の基礎学力調査問題や全国教育課程実施状況調査問題と同一問題、類似問題であることを示している。

- 1 H15 ~平成15年度基礎学力調査問題と同一または類似問題
- 2 全国~平成13年度全国教育課程実施状況調査問題と同一または類似問題  
正答率と誤答率は、抽出調査した全人数に対する割合を表している。

誤答例については、抽出調査した中で、割合の高かったものを中心に記載している。



## (2) 社会

調査問題の構成とねらい

- ・ 社会科の理解力・思考力・判断力に関する基礎的・基本的な知識や能力をみる問題とした。
- ・ 写真や地図、グラフ、図などの、様々な資料活用能力をみたり、記述式の問題を取り入れたりして、生徒の多様な考え方や態度、表現力をみる問題とした。
- ・ 日常生活にみられる身近な題材を取り上げ、社会科に関する興味・関心がもてる問題とした。

平均点 60.0点

小問ごとのねらいと正答率

大問	分野	小問	内容・ねらい	観点	大問別 正答率	小問別 正答率	予想 正答率	評価	比較
1	世界の 地域	問1	ユーラシア大陸を知っている。	知識	61.5	81.9	75		
		問2	各大陸のおおよその形状を資料から判断できる。	資料		53.5	80		
		問3	日本と同緯度にある国を地図上で判断できる。	資料		54.5	60		
		問4	目的別の地図の特徴を理解している。	知識		69.7	80		
		問5	時差の計算ができる。	知識		48.1	50		H15
2	日本の 地域	問1	領土、領海、領空を理解している。	知識	67.3	39.1	55		
		問2	日本との関連でオーストラリアの特徴を知っている。	知識		79.1	70		
		問3	日本の周辺部の国と海洋を知っている。	知識		70.4	70		
		問4	日本の7地方区分を知っている。	知識		65.6	75		
		問5	日本の各地方の気候を大観することができる。	資料		82.5	80		H15
3	身近な 地域	問1	地形図の読み取りができる。	資料	68.0	40.3	60		
		問2	地形図の2地点間の距離を計算できる。	知識		44.7	60		H15
		問3	地形図の地図記号から調査テーマを考えることができる。	思考		93.7	70		
		問4	調査活動の留意点を考えることができる。	思考		93.4	65		
4	都道府 県	問1	資料からピーマンの生産の特徴を読み取ることができる。	思考	58.0	53.0	60		全国
		問2	資料から適切な表現方法を判断できる。	思考		57.2	60		全国
		問3	宮崎県のピーマン栽培の特徴を理解している。	知識		63.7	60		H15
5	古代の 日本	問1	打製石器の特徴を知っている。	知識	75.1	74.2	65		
		問2	写真から縄文土器が分かる。	資料		74.2	70		
		問3	中国の歴史書に記された日本の様子を理解している。	知識		60.0	70		
		問4	弥生時代に稲作が普及したことを知っている。	知識		58.4	70		
		問5	渡来人を知っている。	知識		89.2	65		
		問6	前方後円墳の形状をえがくことができる。	資料		94.6	85		
6	中世の 日本	問1	日本で最初の律令の内容を判断できる。	思考	59.3	51.1	60		
		問2	平城京を知っている。	知識		48.8	70		
		問3	かな文字を知っている。	知識		72.2	65		
		問4	鎌倉幕府の地図上の位置を知っている。	知識		63.5	70		
		問5	古代から中世までの時代を概観できる。	資料		61.0	70		
7	近世の 日本	問1	豊臣秀吉の功績を知っている。	知識	56.2	58.3	60		
		問2	武家諸法度を資料から判断できる。	資料		60.2	70		
		問3	キリスト教弾圧が資料から読み取ることができる。	資料		70.7	60		
		問4	元禄文化の特徴を理解している。	知識		35.6	50		H15
		問5	徳川吉宗の享保の改革を知っている	知識		56.1	50		
8	近代の 日本	問1	日米和親条約を資料から判断できる。	資料	71.9	74.6	65		
		問2	アメリカの南北戦争を知っている。	知識		65.6	60		
		問3	地租改正を理解している。	知識		71.9	60		全国
		問4	伊藤博文の功績を知っている。	知識		74.8	65		
		問5	産業革命を知っている。	知識		72.4	70		

思考(思考・判断), 資料(資料活用の技能・表現), 知識(知識・理解)

**1** 正答率 ( 61.5% )

問題番号	標準解答	正答率( % )	比較( % )	誤答例( % )
1	ユーラシア大陸	81.9		ヨーロッパ(3.0) アジア(2.2)
2	エ	53.5		イ(16.8) ア(7.2)
3	イ	54.5		ア(12.6) ウ(4.4)
4	エ	69.7		ア(9.6) ウ(8.0)
5	8時間	48.1	H15 43.0 類似	9時間(16.4) 無解答(7.8)

< 考察 >

世界の地域構成に関して、地図を通して地球上の位置関係や、世界の国々の構成と地域区分について問う問題である。

問2は、地図上で、アフリカ大陸の形状を判断する基礎的・基本的な内容であり、問3は、地図を活用して日本と同緯度の国を選択するものであるが、いずれも正答率が低い。問5は、昨年度との類似問題である。正答率は伸びているが、昨年度と同様に40%台の低い正答率である。緯度や経度、時差に関する基礎的・基本的な内容が十分に身に付いていないことが分かる。

そこで、指導に当たっては、大陸のおおまかな地図をかかせたり、教科書にある緯度や経度の問題を利用したりするなど、繰り返し指導する必要がある。また、地図や地球儀を活用した学習を進めることで、地図の読み取りに慣れさせるとともに、時事的な内容とも関連させて地図を用い、生徒の興味・関心を高める工夫を授業の中で行うことが大切である。

**2** 正答率 ( 67.3% )

問題番号	標準解答	正答率( % )	比較( % )	誤答例( % )
1	ウ	39.1		エ(27.4)
2	オーストラリア	79.1		中国(1.6) ロシア(1.6) 無解答(1.8)
3	エ	70.4		ウ(16.0) イ(5.0)
4	イ	65.6		ア(12.6) エ(6.0)
5	ア	82.5	H15 92.3 類似	イ(5.0) エ(3.8)

< 考察 >

日本の地域構成に関して、日本の位置や領域及び都道府県の構成・地域区分について問う問題である。

問1は、国土の領域の特色を広い視野から判断する問題である。正答率が低く、「領海を200海里」とする選択肢エの誤答が、27.4%と高い。領土・領海、経済水域などに関する基礎的・基本的な知識が不十分であることが分かる。問5は、昨年度との比較問題である。正答率は82.5%と高いが、那覇市の気候グラフを選択させた昨年度の92.3%と比較すると、正答率は下がっている。寒冷地である札幌市の気候の特色に関する理解が、やや不足していたことが原因と思われる。

そこで、指導に当たっては、我が国の位置と領域の特色を、地球儀や地図を活用して多面的・多角的にとらえさせ、地図帳を使って説明させたり、模式図をかかせたりする必要がある。また、我が国と近隣の国々との領域をめぐる具体的な問題点にもふれるなどして、日本の地域構成に関して興味・関心を高めることが大切である。

**3** 正答率 ( 68.0% )

問題番号	標準解答	正答率(%)	比較(%)	誤答例(%)
1	ウ	40.3		エ ( 21.4 ) イ ( 14.0 )
2	5 0 0 m	44.7	H15 45.0 類似	50000m ( 6.0 ) 5000m ( 3.4 ) 無解答 ( 5.2 )
3	イ	93.7		
4	A	94.8	93.4	
	B	92.0		

< 考察 >

身近な地域について観察や調査などを行う学習活動において、その地域的特色をとらえるための地形図の読み取り、調査活動の手順や視点、方法について問う問題である。

問1と問2は、昨年度と同様に40%台の低い正答率である。地形図における地図記号及び方位、土地利用などの知識・理解と、それらを基に地形図を読み取る力や、縮尺に関する理解が不十分である。調査活動の手順や視点、方法について出題した問3と問4は、正答率が高く、調査活動に関する理解が十分に定着していることが分かる。

そこで、指導に当たっては、地形図の読み取りにおいて、実際の地域調査によって、地形図も活用しながら確認させた上で、地形図から関心のある地理的事象を発見させたり、地域的特色をとらえさせたりするなどの活用の技能を高める指導を取り入れることが大切である。また、身近な地域の調査活動を行う際に、地形図の他に、その他の統計資料にも多くふれさせることが大切である。

**4** 正答率 ( 58.0% )

問題番号	標準解答	正答率(%)	比較(%)	誤答例(%)
1	エ	53.0	全国 48.6 同一	ウ ( 13.8 ) ア ( 7.8 )
2	グラフ	63.1	全国 48.5 同一	ア ( 18.0 ) イ ( 3.4 )
	理由	51.3		ア ( 14.6 ) ウ ( 8.2 )
3	冬の温暖な気候、ビニールハウスで栽培	63.7	H15 67.8 類似	気候のみの記述 ( 7.0 ) 無解答 ( 9.0 )

< 考察 >

農産物の生産について、統計資料や主題図から都道府県規模の地域的特色を判断する力や、統計資料を適切なグラフに表す力が身に付いているかをみる問題である。

問1と問2は、平成13年度教育課程実施状況調査との比較問題である。全国の前正答率は、問1が48.6%、問2が48.5%であり、いずれも本県の正答率が上回る結果であった。様々なグラフを読み取ったり、統計資料をグラフに表したりする学習指導の充実が図られていることが分かる。問3は、昨年度との比較問題である。本県特産の農産物名を答えさせた昨年度に対して、生産量が多い理由を説明させる問題に変更したことによって、正答率が下がったものと思われる。

そこで、指導に当たっては、地図の読み取りや作図、グラフなどの統計資料の読み取りや主題図の作成などの作業的な学習を取り入れ、それらを発表する機会を設けていくことが大切である。

**5** 正答率 (75.1%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	誤答例(%)
1	打製石器	74.2	石器(2.4) 磨製石器(1.8) 無解答(4.8)
2	イ	74.2	ウ(8.4) ア(4.8)
3	イ	60.0	ア(15.8) 工(5.2)
4	稲作	58.4	土器(2.8) 無解答(8.6)
5	渡来人	89.2	
6	省略	94.6	

< 考察 >

古代における人々の生活の変化を、土器の使用や稲作・金属器の伝来など、大陸との関係から問う問題である。

問4は、無解答や同単元の関連事項に関する他の語句を答えている誤答がみられる。大陸から伝来した稲作によって、大きく変化した時期の日本社会についての理解が不十分であることが分かる。問5は、語句を記述する問題の中では最も正答率が高く、基礎的・基本的な内容の定着のための指導が確実に行なわれていることが分かる。問6は、前方後円墳の形状をえがく問題であり、高い正答率となった。生徒の考古学への興味・関心の高さがうかがえる。

そこで、指導に当たっては、博物館や郷土資料館の利用、各種の資料を適宜活用するとともに、中国などの世界の古代文明との関連を重視したり、新たに発掘された遺跡や遺物などの考古学上の成果を取り入れたりして、歴史学習における最初の単元の学習に当たって、生徒の興味・関心を高める工夫が必要である。また、古代における人々の生活の変化や特色をまとめた一覧表を生徒に作成させるなどの作業的な学習を取り入れることも大切である。

**6** 正答率 (59.3%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	誤答例(%)
1	ア	51.1	イ(26.8) ウ(7.6)
2	平城京	48.8	平安京(24.6) 無解答(7.4)
3	かな文字	72.2	甲骨文字(3.6) 無解答(7.8)
4	イ	63.5	ウ(20.8)
5	工	61.0	ウ(15.4) イ(6.8)

< 考察 >

古代から中世までの国家が形成されていく過程のあらまし、大陸から取り入れた文物や制度、日本独自の文化について問う問題である。

問1は、我が国が最初に取り入れた大陸の制度に関する問題で、正答率は低い。問2は、国際的な要素をもった文化が、都を中心に栄えた歴史的な事象についての基礎的・基本的な問題である。正答率が48.8%と低く、奈良の都を「平安京」とする誤答が24.6%もあったことから、基礎的・基本的な内容の定着が不十分であることがわかる。問4は、鎌倉幕府の地図上の位置を問う問題である。また、問5は、元寇の時期を判断するもので、いずれも歴史的分野の基礎的・基本的な内容であるにもかかわらず、その定着は、正答率から判断すると十分とは言えない。

そこで、指導に当たっては、各時代の特色をとらえさせる際に、その時代の個別の事象だけを取り上げて指導するのではなく、前後の時代と比較させるなどして、歴史の流れを大きくつかませることが大切である。また、歴史的分野の授業において、随時、地図の活用を図り、地理的分野と関連付ける指導の工夫も大切である。

**7** 正答率 ( 56.2% )

問題番号	標準解答	正答率(%)	比較(%)	誤答例(%)
1	豊臣秀吉	58.3		徳川家康(10.2) 織田信長(8.2)
2	工	60.2		ア(14.0) ウ(4.2)
3	キリスト教の信者を見つけ出すため	70.7		無解答(12.4)
4	イ	35.6	H15 33.6 類似	ア(16.2) ウ(14.8)
5	享保の改革	56.1		天保の改革(5.6) 寛政の改革(4.4) 無解答(15.6)

< 考察 >

近世社会の成立とその変化を、代表的な歴史上の人物及び制度、文化などを中心にとらえさせ、近世社会の全般について問う問題である。

問1は、重要な人物であるが、正答率は低い。問3の正答率は高いが、無解答も多く、資料から読み取れることを適切に表現する力が不足している。問4では、元禄文化と化政文化を混同していると思われる、昨年度と同様、正答率が低い結果となった。それぞれの文化の特色の理解が不十分であることが分かる。特定の時代の学習内容を、他の時代のものや類似している内容と混同している箇所があると思われる。

そこで、指導に当たっては、小学校の歴史学習との関連を重視し、各人物に関する内容をまとめさせ、発表の機会を設けることが大切である。また、歴史的事象に、年号が使われている例を確認させるとともに、それぞれの時代の政治や文化を代表する写真や絵、文章などの歴史資料を活用し、多面的・多角的に考えさせる場を設ける必要がある。

**8** 正答率 ( 71.9% )

問題番号	標準解答	正答率(%)	比較(%)	誤答例(%)
1	日米和親条約	74.6		日米修好通商条約(9.0) 無解答(5.2)
2	ウ	65.6		ア(14.0) イ(3.6)
3	工	71.9	全国 60.1 類似	ア(7.0) ウ(7.0)
4	伊藤博文	74.8		板垣退助(1.6) 無解答(9.6)
5	産業革命	72.4		産業改革(5.8) 無解答(14.2)

< 考察 >

日本が立憲国家として近代化を進めていく過程を、年表などでとらえさせ、世界の動きと関連付けて問う問題である。

問3は、平成13年度中学校教育課程実施状況調査との比較問題である。全国の正答率よりも高く、重要事項の定着が図られている。問4と問5も、正答率は高いが、無解答や似た記述による誤答が目立つことから、基礎的・基本的な事項の正確な知識・理解が十分ではないことが分かる。

そこで、指導に当たっては、幕末から明治時代にかけてのできごとを年表にまとめる作業をさせたり、人物ごとに関連事項を整理させたりすることが必要である。その中で、小テストなども取り入れながら、定着を図ることが大切である。重要語句や人物名を漢字で正確に書かせる指導も繰り返し行うことが大切である。



## 中学校第2学年

### (3) 数学

#### 分析結果の表記について

「小問ごとのねらいと正答率」の評価の欄の については、県正答率と予想正答率との差を記号化して示している。

- 1 県正答率が予想正答率よりも5ポイント以上高いもの.....
- 2 県正答率が予想正答率よりも5ポイント以上低いもの.....
- 3 1と2の間にあるもの .....

「小問ごとのねらいと正答率」の比較の欄の「H15」「全国」については、過去の基礎学力調査問題や全国教育課程実施状況調査問題と同一問題、類似問題であることを示している。

- 1 H15 ~ 平成15年度基礎学力調査問題と同一または類似問題
- 2 全国 ~ 平成13年度全国教育課程実施状況調査問題と同一または類似問題  
正答率と誤答率は、抽出調査した全人数に対する割合を表している。

誤答例については、抽出調査した中で、割合の高かったものを中心に記載している。



## (3) 数 学

調査問題の構成とねらい

- ・ 3つの領域(数と式, 図形, 数量関係)についての基礎的・基本的な内容を出題した。
- ・ 学習指導要領を踏まえながら, 教科書の内容の定着度をみる問題とした。
- ・ 単なる知識を問うことに偏らないように, 論理的思考力をみる問題とした。
- ・ 与えられた条件から必要な情報を正確によみとり, 的確に問題解決が図れるかをみる問題とした。

平均点 61.2点

小問ごとのねらいと正答率

大問	小問	領域	観点	内容・ねらい	大問別 正答率	小問別 正答率	予想 正答率	評価	比較
1	(1)	A	知	2つの整数の加法の計算を理解している。	77.2	97.5	98		H15
	(2)	A	知	絶対値の意味を理解している。		54.8	50		H15
	(3)	A	表	分数を含んだ除法の計算ができる。		84.7	85		H15
	(4)	A	表	正の数・負の数の乗法や累乗の計算ができる。		71.6	80		H15
	(5)	A	表	正の整数・負の整数の加減乗除の計算ができる。		80.6	60		H15
	(6)	A	表	文字式の同類項をまとめて, 簡単にすることができる。		78.4	75		H15, 全国
	(7)	A	表	文字式の除法の計算ができる。		72.7	75		H15
2	(1)	A	表	分数で表された式の値を求めることができる。	79.0	82.0	75		H15
	(2)	A	表	一次方程式を解くことができる。		91.7	85		H15
	(3)	A	知	偶数を文字を用いて式に表すことができる。		79.4	80		全国
	(4)	A	表	式を変形させることができる。		63.8	65		H15
	(5)	A	表	連立方程式を解くことができる。		77.9	70		H15, 全国
3	(1)	A	表	数量を文字式で表すことができる。	71.0	71.7	80		
	(2)	A	表	一次方程式を立式できる。		69.0	80		H15
	(3)	A	表	一次方程式を解いて答え(人数)を求めることができる。		73.9	75		H15
		A	表	一次方程式を解いて答え(枚数)を求めることができる。		69.2	75		H15
4	(1)	A	表	連立方程式を立式できる。	61.1	65.3	75		
	(2)	A	表	連立方程式を解いて答えを求めることができる。		56.9	70		H15
5	(1)ア	C	考	数量を文字式で表すことができる。	58.9	54.1	55		H15
	(1)イ	C	表	変域の意味を理解し, 不等式を使って表すことができる。		35.1	50		H15
	(1)ウ	C	表	変域に制限のある比例の式を, グラフに表すことができる。		50.4	50		
	(2)	C	表	比例の意味を理解し, 表をよみとることができる。		87.8	65		
C		表	反比例の意味を理解し, 表をよみとることができる。	67.2	65				
6	(1)	C	表	傾きと通る点から, 直線の式を求めることができる。	54.8	59.2	65		H15
	(2)	C	知	変化の割合の意味を理解している。		34.7	50		
	(3)ア	C	表	グラフから直線の式を求めることができる。		75.0	60		全国
	(3)イ	C	考	2つの1次関数のグラフの交点を求めることができる。		50.2	50		H15
7	(1)	B	表	垂線の作図をすることができる。	45.4	54.7	55		H15
	(2)	B	考	おうぎ形の中心角を求めることができる。		41.9	50		
	(3)ア	B	知	円柱の体積の求め方を理解している。		35.6	75		全国
	(3)イ	B	知	円柱の側面の展開図を理解している。		63.6	80		
	(3)ウ	B	考	円柱の側面積を求めることができる。		31.0	70		全国

領域は, A...数と式 B...図形 C...数量関係

観点は, 考...「見方・考え方」, 表...「表現・処理」, 知...「知識・理解」を示している。

1 正答率(77.2%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	比較(%)	誤答例(%)
(1)	3	97.5	H15 97.5 類似	- 3 (1.4) 無解答 (0.2)
(2)	-1,0,1	54.8	H15 42.4 類似	1, 0, - 1, - 2, - 3 (7.8) - 1, 1 (4.2) 無解答 (1.0)
(3)	- 1 6	84.7	H15 80.3 類似	- 4 (1.6) 1 6 (0.6) 無解答 (1.0)
(4)	4 5	71.6	H15 61.1 類似	- 4 5 (13.2) 3 0 (1.8) 無解答 (0.2)
(5)	1 1	80.6	H15 79.4 類似	- 5 (3.2) - 4 (3.0) 無解答 (0.4)
(6)	$x - 5 y$	78.4	全国77.5 同一 H15 79.4 類似	$x - 7 y$ (3.2) $x + 5 y$ (1.4) 無解答 (1.4)
(7)	- 2 a	72.7	H15 68.2 類似	2 a (4.8) - 3 a (1.2) 無解答 (2.6)

< 考察 >

基本的な計算問題である。(2)は絶対値の意味を理解しているかをみる問題である。それ以外は計算法則や計算方法が理解され、定着しているかをみる問題である。

(2)の誤答例をみると、絶対値が原点からの距離を表す値であることへの理解が不十分であり、負の数の領域にそれを当てはめることができずに単に「1.5より小さい整数」ととらえていることが分かる。それでも、昨年度より正答率が若干高くなっており、昨年度の基礎学力調査の結果をふまえて指導に力を入れた結果であると考えられる。また、昨年度の1.8と比べて1.5という数の数直線上の位置が、若干とらえやすかったのではないかと考えられる。(4)は $-3^2$ と $(-3)^2$ の違いを理解していないことが分かる。(3)、(5)～(7)については四則を含んだ式の計算方法や符号の処理の仕方、括弧のはずし方の定着が不十分であることが誤答例からわかる。(6)については全国教育課程実施状況調査との同一問題であるが、正答率は全国(77.5%)とあまり差がない。

そこで、指導に当たっては、絶対値の意味が0からの距離であることを、数直線を利用して指導する事が大切である。指数の計算や四則を含んだ計算では、まず計算順序を理解させ、練習問題を多く取り入れながら、繰り返して演習に取り組みさせることが必要である。計算は、数学の全般にわたって必要なものであり、数学の苦手な生徒たちがつまづきやすいところでもある。計算のルールへの定着を図ることが、その解決の第一歩であると考えられることから、繰り返して練習させるとともに、常に生徒の定着度を机間指導や小テストを利用して確認しながら指導に当たる必要がある。

2 正答率(79.0%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	比較(%)	誤答例(%)
(1)	2	82.0	H15 70.5 類似	1 8 (0.6) 3 (0.6) 無解答(3.6)
(2)	$x = 4$	91.7	H15 86.0 類似	3 (0.4) 1 0 (0.4) 無解答(1.2)
(3)		79.4	全国77.3 同一	(5.2) (4.8) 無解答(0.6)
(4)	$b = \frac{5 - 3a}{2}$	63.8	H15 64.7 類似	$b = -3a + \frac{5}{2}$ (4.2) $b = 1$ (1.8) 無解答(7.4)
(5)	$(x, y) = (2, -1)$	77.9	全国75.1 同一 H15 70.5 類似	$(x, y) = (-1, 1)$ (2.6) $(x, y) = (2, 1)$ (1.6) 無解答(2.2)

< 考察 >

第2学年までに学習した文字の式や方程式に関する基本的な内容の定着を見る問題である。

(1)は、昨年度(70.5%)より11.5ポイントの上昇、(2)も昨年度(86.0%)より5.7ポイント上昇で、ある程度定着しているといえる。(3)は、ある程度定着しており、全国(77.3%)との比較をしてもほぼ同じ正答率である。誤答を見ると、の解答が多い。これは、偶数は2の倍数であることは理解しているものの『 $2 \times$ (自然数)』と立式ができないためと思われる。(4)は、昨年度とほぼ同じ正答率である。式変形が適切に行われなかった誤答や文字の項と数の項をまとめた誤答が多く、『 $b$ について解く』という意味を十分理解していないことが分かる。また、無解答率も比較的高く、等式を目的に応じて変形することを、十分身に付けるためには更なる指導の工夫が必要である。(5)は、ある程度定着しており、全国(75.1%)との比較をしてもほぼ同じ正答率である。

そこで、指導に当たっては、新しく学習する内容と既習事項の系統性を指導者が十分に把握した上で、適切な手立てを講じることが必要である。特に、(4)は、ただ操作だけを覚えさせるのではなく、「一次方程式」で学習した移項などの式変形を、授業の導入で十分振り返るという手立てが有効である。このことで、生徒は今まで学習したことを活用すれば解けるという安心感と自信をもって問題に取り組むことができるとともに、既習事項の大切さを改めて感じさせることができると思われる。また、計算ミスと思われる誤答も多くみられた。基本的な内容を定着させるために、既習事項に常に触れさせる機会をつくることも必要である。授業での演習の充実はもちろんであるが、単元終了後も、既習事項を振り返る小テストを定期的の実施したり、ドリルを中心とした家庭学習を行わせたりすることによって、基本的な内容の定着を図る必要がある。その際、ただ、答えを出して終わるのでなく、必ず途中の計算を書かせることや答えの見直しを行う習慣を身に付けさせることなど、きめ細かに指導していくことが望ましい。

3 正答率(70.8%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	比較(%)	誤答例(%)
(1)	$8x + 7$	71.7		$8x - 7$ (2.8) $x + 7$ (0.4) 無解答(6.4)
(2)	$8x + 7 = 10x - 9$	69.0	H15 90.9 類似	$y = 8x + 7, y = 10x - 9$ (2.4) $8x - 7 = 10x + 9$ (1.0) 無解答 (10.0)
(3)	生徒数8人 カード数71枚	(73.9) (69.2)	H15 86.9 類似	9人(1.0) 13人(0.4) 無解答(11.0) 9枚(0.6) 79枚(0.6) 無解答(12.0)

< 考察 >

方程式の利用に関する問題であり，数量関係の過不足に目をつけ，1つの数量を2通りの方法で表し，それを立式して解を求める力をみる問題である。

(1)では，数量を文字式で表す力が不十分であることが分かる。(2)では，(1)が理解できていないことから誤答が多くみられたが，中には(1)ができていなくても，立式することができるものがみられた。また，一次関数を学習した直後であることから，一次方程式と一次関数を取り違えているものもみられた。(3)では，(2)より正答率が高く，方程式を立式せずに答を導いたと思われるものがみられた。また，方程式を解くことで，生徒数を求めることはできるが，その後，カードの枚数をどのようにして，求めるのかを理解していないものもみられた。昨年度の類似問題と比較すると，与えられた一次方程式を解く大問2の(2)では，昨年度より正答率が高いものの，一次方程式の利用の問題では，約22ポイントも正答率が下がっている。これは，文章の意味が理解できない生徒が多かったのではないかと考えられる。

そこで，指導に当たっては，問題の文中にある数や文字が何を表しているかを十分読みとって，問題解決に当たる習慣を身に付けさせる必要がある。式を作るときに，数量の間の関係を十分に把握し，等式の間関係を考えながら立式していくことが大切である。等式の間関係を見つけるための方法として，図や表などを使って，何が等しいのかを考えることを習慣化させることも必要である。そのことが方程式を作る技能を高めさせることにもなる。

4 正答率(61.1%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	比較(%)	誤答例(%)
(1)	$\begin{cases} x + y = 55 \\ x = 3y - 5 \end{cases}$	65.3		$x + 3y = -5$ (0.6) $y = 3x - 5$ (0.4) 無解答(20.8)
(2)	大きい方の数 40 小さい方の数 15	56.9	H15 83.6 類似	$85$ (1.4) $30$ (1.4) $-30$ (1.2) $25$ (1.0)   無解答(23.8)

<考察>

連立方程式の利用の問題であり、文章に表された2つの数の数量関係から連立方程式を立式し、それを解いて問題を解決できるかどうかをみる問題である。

連立方程式の立式については、問題文から2つの数量関係をよみとることができず、無解答が非常に多かった。また、 $5x - 3y = 55$ などの1つの方程式で表そうとしたり、問題に出てきた「3, 5, 55」の数字をただ並べているだけではないかと思われる誤答もみられ、問題から数量関係をよみとり、連立方程式に表す力が十分身に付いていないと考えられる。また、連立方程式を解くことについては、代入法による解法が十分身に付いていないと考えられる。(2)では、55以上の整数や負の数を解として答えている誤答も多く、解が問題にあっていないかを吟味する習慣が十分身に付いていないと思われる。また、お金などの具体物については問題をとらえやすいようであるが、数などの抽象的なものに対しては十分に理解していないと考えられる。

そこで、指導に当たっては、教科書にある例題の解法をパターン化して覚えさせるのではなく、数量関係をしっかり把握させながら、方程式を立式させるように指導する必要がある。そのためには、数量関係が分かるように問題文に線を引かせたり、数直線、図、表を活用することが大切である。そして、問題を正確によみとり、さらに、問題を解き終えた後に、答えが問題にあっていないかどうか常に確認させる習慣を身に付けさせることも大切である。また、文章から数量の関係をよみとったり、それを文字式に表したりする力が十分ではないので、第1学年の文字の単元だけではなく、日々の授業において、数量や関係を、文字式で表す活動を重視し、繰り返し指導していくことが大切である。

5 正答率(58.9%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	比較(%)	誤答例(%)	
(1)	ア	$y = 5x$	54.1	H15 51.0 類似	$y = 20 - 5x$ (1.4) $y = 5x + 20$ (1.4) 無解答 (8.4)
	イ	$0 < x < 4$	35.1	H15 37.7 類似	$0 < x < 20$ (8.8) $0 < x < 5$ (2.8) $5 < x < 20$ (3.0) 無解答 (13.0)
	ウ	省略	50.4		破線部分を実線でかいている (5.4) 実線と破線の区別がわからない (3.4) 傾きの間違い (2.6) 無解答 (11.0)
(2)	比例		87.8		(4.6) (2.4) 無解答 (1.6)
	反比例		67.2		(11.0) (7.8) 無解答 (2.4)

考察

「比例と反比例」に関する問題である。(1)アは具体的な事象の中にある2つの数量の関係を式に表す問題である。イは問題の条件に合うように不等号を使って変域を表すことができるかをみる問題である。さらに、ウは変域がある2つの数量の関係をグラフに表す問題である。(2)は表から2つの数量関係がどのような関係であるかをよみとる問題である。

(1)アについては、比例が一次関数の特別の場合であることを充分理解していないことや、一次関数を学習してそれほど時間がたっていないことから、数量関係を一次関数の  $y = ax + b$  の形に何とか表そうとしたことが、誤答例からよく分かる。また、距離と時間と速さの関係についての定着も不十分である。(1)イについては、 $y$  の変域をそのまま  $x$  の変域としている誤答例が多く、2つの文字がそれぞれ何を表しているのかを、十分理解しないまま答えていると判断できる。(1)ウについては(1)アの誤答のままグラフをかいている場合がほとんどである。また、変域を意識せずにグラフをかき、実線と点線の区別がつかない誤答例も目立った。更に、変域の意味やそれを不等号を使って表すことが不十分なまま、4時間で20km進むということから、グラフをかいた場合もあると考えられる。(2)については比例が、反比例が の誤答が多く、 $y$  の値の増加と減少をみて増加すれば比例で、減少すれば反比例と答えたと考えられる。

そこで、指導に当たっては、単に数量関係を式で表すことだけでなく、グラフや表を利用しながら、身のまわりの具体的な事象について考察させることで、関数関係の理解を深める必要がある。また、比例、反比例、一次関数を比較させることで、それぞれの関数関係の特徴を整理しながら理解させる必要がある。また、その際変数には制限があることを意識させることで、変域を意識しながら考察できるように指導する必要がある。

6 正答率(54.8%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	比較(%)	誤答例(%)
(1)	$y = 3x + 10$	59.2	H15 61.8 類似	$y = 3x - 2$ (1.4) $y = 3x - 10$ (1.4) 無解答(7.0)
(2)	$-\frac{1}{3}$	34.7		$-1$ (5.0) $1$ (3.2) 無解答(15.0)
(3)	ア $y = \frac{1}{2}x - 1$	75.0	全国58.8 同一	$y = 2x - 1$ (3.8) 無解答(2.8)
	イ $(-2, -2)$	50.2	H15 58.1 類似	$(2, -2)$ (2.2) $(2, -1)$ (1.4) 無解答(12.4)

<考察>

一次関数の基本的な内容の理解と、それを活用できるかどうかをみる問題である。

(1)は、昨年度(61.2%)とほぼ同じ正答率であるが、切片  $b$  を求めるときの計算ミスによる誤答が多い。(2)は、 $y$  の増加量を求めていた誤答が非常に多い。また、無解答が非常に多く、変化の割合の意味を十分理解しているとは言えない。(3)のアは、全国(58.8%)と比較しても16.2ポイント高いが、誤答例をみると傾きのよみとりが不十分である生徒もいる。(3)のイは、連立方程式を解く際の計算ミスによる誤答が多い。また、無解答も非常に多く、『一次関数のグラフの交点の座標と連立方程式の解は等しい』という考え方や、それを使って交点の座標を求める力が定着しているとは言えない。

そこで、指導に当たっては、単元の始めの段階で、基本的な内容の定着に向けて、徹底した指導を行う必要がある。例えば、「傾き」、「切片」、「変化の割合」等の重要語句の定着を図るために、カードなどを作成し、授業の導入での振り返りを継続的に行うことが、有効な手立ての一つと考えられる。「変化の割合」が、一次関数の場合は直線の「傾き」に等しいことは、グラフで十分理解させたあと、プリント等による演習を繰り返し行って、定着を図ることが望ましい。また、関数の領域については、式を求めたり、グラフをかかせるだけの指導で終わるのではなく、式・グラフ・表の関連にも注目させ、関数のよさを感じとらせることも重要である。このような指導を通して、一次関数を学習しようとする意欲を高める必要がある。そして、基本的な内容を十分定着させれば、(3)のイのような一次関数の考え方を利用する問題にも、意欲的に取り組むことができるようになると思われる。

7 正答率(45.4%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	比較(%)	誤答例(%)
(1)	直線外の点からの垂線の作図	54.7	H15 58.9 類似	角の二等分線(2.4) Aの二等分線(2.0) 無解答(9.8)
(2)	240度	41.9		120度(2.2) 235度(1.6) 無解答(18.6)
(3)	ア	144	全国51.3 類似	144(7.2) 72(1.6) のない誤答(19.8) 無解答(13.0)
	イ	長方形	63.6	展開図をかいている(4.2) 長方形と2つの円をかいている(1.4) 無解答(11.6)
	ウ	72	全国40.4 類似	72(4.6) 36(2.6) 104(2.6) のない誤答(14.6) 無解答(16.2)

<考察>

(1)は、基本的な垂線の作図についての技能をみる問題であり、(2)はおうぎ形についての中心角と弧の長さの関係をみる問題である。(3)は、円柱の体積や側面積を求めるなど、立体についての基本的な内容の理解をみる問題である。

(1)は、頂点B、Cから適当な点を取って作図しているものや、Aの二等分線の作図を行っている誤答がみられた。昨年度の類似問題と比較すると、正答率が約4ポイント低くなっている。これは、昨年度は線分だけを与えられ、それに垂線を引く問題であったが、今年度は、三角形の1つの頂点から対辺に垂線を引く問題であったために、角の二等分線等と間違えたと考えられる。(2)は、おうぎ形の弧の長さを求める公式、面積を求める公式を正確に覚えていない誤答や、公式を覚えていても等式の変形ができていないと思われる誤答がみられた。(3)では、体積を求める公式を正確に覚えていない誤答や、の未記入の誤答が多く、円柱の体積を求める力が十分に身に付いていないと言える。また、側面や側面積といった言葉も十分理解しているとは言えない。更に、「どんな図形になりますか」という問いに対して図を書いている誤答が見られたが、適切な名称で答えるような指導も必要である。また、図形の切断と勘違いし、正方形や円錐などの答えを書いたりする誤答もみられ、問題を正確によみとる力が十分に身に付いているとは言えない。

そこで、指導に当たっては、垂線や垂直二等分線、角の二等分線の意味を確実に理解させる必要がある。また、作図をする前にどこに、どんなふうに図ができあがるかイメージしてから、作図させることも必要である。作図をする活動を通して、垂線の作図の2種類の方法(直線上の点に引く場合と直線外の点から引く場合)を十分理解させることや垂直二等分線や角の二等分線との関係を理解させることが重要である。また、おうぎ形の弧の長さ、面積の求め方をしっかり理解させるとともに、中心角を求める方法を十分考えさせ身に付けさせることが必要である。公式を(円柱の体積) =  $r^2 h$ と覚えさせるだけでなく、(柱体) = (底面積) × (高さ)と理解させることも必要である。そして、円について周の長さや面積を求める場合をしっかりと区別させる必要がある。また、小学校5年生で円周率について3.14という近似値で学習しているが、単に公式を覚えさせるのではなく、円周率の意味を再度理解させるような配慮が必要である。基本的な問題にもかかわらず正答率が低かったのは、学習してから時間が経っていることも一つの要因であると思われる。そのため、短い時間でも復習の時間を確保することが大切である。

## 中学校第2学年

### (4) 理科

#### 分析結果の表記について

「小問ごとのねらいと正答率」の評価の欄の については、県正答率と予想正答率との差を記号化して示している。

- 1 県正答率が予想正答率よりも5ポイント以上高いもの.....
- 2 県正答率が予想正答率よりも5ポイント以上低いもの.....
- 3 1と2の間にあるもの .....

「小問ごとのねらいと正答率」の比較の欄の「H15」「全国」については、過去の基礎学力調査問題や全国教育課程実施状況調査問題と同一問題、類似問題であることを示している。

- 1 H15 ~ 平成15年度基礎学力調査問題と同一または類似問題
- 2 全国 ~ 平成13年度全国教育課程実施状況調査問題と同一または類似問題  
正答率と誤答率は、抽出調査した全人数に対する割合を表している。

誤答例については、抽出調査した中で、割合の高かったものを中心に記載している。



## (4) 理科

問題の構成とねらい

- ・ 8つの大問で構成し、第1分野の物理・化学領域、第2分野の生物・地学領域で学習する内容を偏りなく問う問題とした。
- ・ 学習指導要領の目標及び内容に基づき、基礎的・基本的な学習内容の定着をみる問題とした。
- ・ 自然現象についての知識・理解、観察・実験の技能・表現、科学的な思考について、学習内容の到達度を総合的にみる問題とした。

平均点 57.9点

小問ごとのねらいと正答率

大問	中問	内容	観点	ね	ら	い	大問別 正答率	小問別 正答率	予想 正答率	評価	比較
①	1	身のまわりの生物	知	顕微鏡の各部の名称を理解している。			63.4	80.9	80		全国
	2		技	顕微鏡の各レンズを正しい順序で取り付けることができる。				73.2	60		
	3		技	顕微鏡を正しく操作することができる。				31.9	35		
	4		知	顕微鏡の倍率について計算法を理解している。				70.7	70		
	5		技	観察しやすいようにプレパラートを移動できる。				60.3	50		
②	1	植物のくらしとなかま	知	エタノールで脱色され、葉が白くなることを理解している。			62.7	45.1	45		
	2		技	アルミニウムはくで覆った理由を説明できる。				65.6	60		
	3		知	光合成について理解している。				89.5	80		H15
	4		知	光合成に必要な気体名を理解している。				77.9	80		
	5		科	実験の結果から、光合成が葉緑体で行われることを指摘できる。				35.6	50		
③	1	動物のくらしとなかま	知	脳とせきずいを合わせて中枢神経ということを知っている。			71.6	67.0	55		
	2		知	感覚神経と運動神経の名称と刺激や命令の伝わり方を理解している。				71.1	70		
	3		知	反射の名称とそのしくみについて理解している。				76.7	60		
④	1	光・音・力	知	力のつり合いの条件を説明できる。			56.1	90.4	75		
	2		知	力のつり合いの条件を説明できる。				73.0	80		
	3		技	つり合う力を矢印で表すことができる。				75.1	60		H15
	4		知	物体が押す力の大きさは接触面積に関係なく等しいことを理解している。				25.0	50		
	5		知	力の大きさが等しい場合、接触面積と圧力の関係を理解している。				51.4	60		
	6		技	圧力の大きさを計算で求めることができる。				21.7	35		H15
⑤	1	光・音・力	知	焦点について理解している。			66.6	79.5	85		
	2		科	凸レンズによる像のでき方を考察できる。				65.5	35		全国
	3		知	虚像について理解している。				80.7	70		
	4		科	虚像ができることを利用したものを、身のまわりから考えて指摘できる。				40.8	55		
⑥	1	身のまわりの物質	知	フェノールフタレイン液の特性を理解している。			48.6	43.6	60		
	2		知	アルカリについての性質を理解している。				17.9	50		
	3		知	中和について理解している。				60.7	80		
	4		技	析出する結晶の取り出し方を理解している。				79.6	65		全国
	5		科	水溶液が酸性で、金属を入れると水素が発生することを推測できる。				41.3	40		
⑦	1	活きている地球	知	地震の発生場所の名称を理解している。			71.2	74.2	80		
	2		科	地震計の記録から震度の大きい地点を指摘できる。				93.3	70		
	3		技	地震計の記録から初期微動継続時間を読み取ることができる。				65.2	70		
	4		科	初期微動の速さを地震計の記録から計算によって求めることができる。				52.2	50		全国
⑧	1	電流の性質とはたらき	技	電気用図記号を使って回路図を作図できる。			48.0	50.4	40		
	2		技	電流と電圧の測定値からグラフをかくことができる。				63.1	50		
	3		知	実験結果の表やグラフから電流と電圧の関係を説明できる。				75.9	85		
	4		科	実験データから、オームの法則を用いて抵抗値を求めることができる。				38.3	40		H15
	5		科	並列回路に加わる電圧の特徴を理解し、電流の強さを求めることができる。				12.1	35		H15

観点は、知...「知識・理解」、技...「技能・表現」、科...「科学的な思考」を示している。

1 正答率 (63.4%)

問題番号	標準解答	正答率(%)		比較(%)	誤答例(%)	
1	接眼レンズ	74.6	80.9	全国 84.5 同一	レンズ (3.6)	無解答 (5.2)
	調節ねじ	87.1			レボルバー (2.2)	無解答 (1.2)
2		73.2			(17.2)	
3	ウ エ イ ア	31.9			エ イ ウ ア (11.4)	エ ウ イ ア (9.8)
4	600倍	70.7			55倍 (11.0)	無解答 (1.4)
5	ウ	60.3			イ (29.2)	

<考察>

顕微鏡を使って水中の微生物を観察することに関する問題である。特に、顕微鏡の各部の名称や操作方法など、顕微鏡の使い方に関する技能や理解をみる問題である。

問1については、顕微鏡の各部の名称を問う問題である。正答率が80.9%で、ある程度定着していると言える。この問題は、全国で行われた調査と同一問題でもあり、本県は全国平均よりやや低い正答率を示している。の調節ねじについては、高い正答率であるが、の接眼レンズの名称については低くなっている。問2と問4については、顕微鏡のレンズの取り付け方やレンズの倍率計算など基本的な問題である。正答率も73.2%で、ある程度定着していると言える。問3については、観察する際の顕微鏡の正しい操作を問う問題である。正答率が31.9%と低い。特に操作イと操作ウの操作順序の誤答が多かった。問5については、顕微鏡観察の際にプレパラートをどのように動かせば、観察したいものが視野の中央に移動できるかを問う問題である。正答率が60.3%で、プレパラートの動かし方が十分に身に付いているとは言えない。

そこで、指導に当たっては、顕微鏡の各部の名称や正しい操作方法を理解させ、なぜそのような操作をする必要があるのかという理由も押さえながら指導していくことが大切である。また、すべての生徒に顕微鏡操作の時間を十分に与え、正確な操作技能を身に付けさせた上で、観察・実験を行わせることにより、定着を図ることが大切である。

2 正答率 (62.7%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	比較(%)	誤答例(%)
1	白色	45.1		青紫 (10.8) 透明 (3.4)
2	葉に光を当てないようにするため	65.6		光合成を防ぐため (2.8) デンプンがどうできるか調べるため (2.0) 無解答 (2.6)
3	光合成	89.5	H15 91.9 類似	葉緑体 (0.8) 無解答 (2.8)
4	二酸化炭素	77.9		酸素 (12.6) 無解答 (1.4)
5	葉緑体	35.6		日光 (26.6) 光 (10.2)

<考察>

植物の葉による光合成に関する問題である。アサガオの葉を使って、葉が光合成を行う器官であること、光合成は二酸化炭素と水を吸収し、これらを使って光をエネルギー源としてデンプンなどを合成し、酸素を放出する現象であることを理解しているかをみる問題である。

問1については、エタノールによって葉緑体の色素が抽出され、葉の緑色の部分がどのようになるかを問う問題である。正答率が45.1%で、エタノールに緑色の葉をつける理由を十分理解しているとは言えない。問3については、光合成という名称を問う問題である。この問題は、昨年度との類似問題であり、正答率が89.5%である。昨年度よりやや低い正答率を示しているが、十分定着していると言える。問4については、光合成を行うために二酸化炭素が必要であることを問う問題である。正答率が77.9%で、酸素という誤答も多いことから、呼吸による物質の出入りと間違えてとらえていると言える。問5については、ふ入りの葉には葉緑体がなく、ヨウ素デンプン反応がなかったことから、光合成が行われなかったことを理解しているかを問う問題である。正答率は35.6%で、日光という誤答が多く、ふ入りの葉について理解していないことや、光合成に必要な条件について何を比較検証しようとしている実験なのかを十分に理解していないことが考えられる。

そこで、指導に当たっては、植物の観察を通して葉の基本的なつくりの特徴を見い出させ、どのような仕組みで光合成が行われるのかということについて、観察・実験の結果から考察させるようにしたい。また、考察させる際には、なぜそうなるのかという根拠を考えさせるようにし、科学的な思考を深めていく場を設定することが大切である。

3 正答率 (71.6%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	誤答例(%)	
1	中枢神経	67.0	未しょう神経 (3.2)	無解答 (4.2)
2	a 運動神経	71.8	71.1	感覚神経 (9.2) 無解答 (7.2)
	b 感覚神経	70.3		運動神経 (10.4) 無解答 (8.6)
3	(1) 反射	88.7	76.7	反射神経 (1.4) 無解答 (3.2)
	(2) せきずい	64.7		脳 (17.0) 感覚神経 (1.4)

<考察>

動物の外界の刺激に対する反応の仕組みに関する問題である。感覚器官で受け取った刺激が、感覚神経を伝わってせきずいや脳に達し、命令が運動神経を伝わって筋肉での反応が起こる仕組みを理解しているかをみる問題である。

各問とも、予想正答率を上回っており、本問の内容については、ある程度定着していると言える。しかし、問1については、誤答例以外にもさまざまな誤答があり、すべての生徒が十分に理解しているとは言えない。問2については、感覚神経と運動神経のはたらきを反対に理解している誤答が多く、それぞれの神経のはたらきの違いに留意させながら指導する必要がある。問3(2)については、「脳」の誤答が多く、反射における刺激の伝わり方の違いや脳とせきずいのはたらきの違いについて、十分に理解しているとは言えない。

そこで、指導に当たっては、各神経の特徴について正確に理解させるために、名称とその役割をそれぞれ比較させながら、ノートなどに正確にまとめさせるなどの指導が必要である。また、反射が生命を守る重要な反応であることにも触れながら、日常生活の事象と結び付けてとらえさせるようにしたい。なお、資料集やVTRなどの映像資料を積極的に活用し、内容を理解しやすくする工夫を行うことも大切である。さらに、図中に用語を書き込ませる問題などにも取り組ませ、確実に定着させるように指導する必要がある。

4 正答率 (56.1%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	比較(%)	誤答例(%)
1	ウ	90.4		イ (2.2)
2	エ	73.0		ア (9.8) ウ (5.8)
3	省略	75.1	H15 17.7 類似	矢印の長さが違う (7.6) Dから矢印を引いている (2.8)
4	$A = B = C$	25.0		$A < B < C$ (21.4) $B = C < A$ (6.4)
5	$A < B < C$	51.4		$C = B < A$ (4.4) 無解答 (7.8)
6	1500 N/m <sup>2</sup>	21.7	H15 23.0 類似	15 N/m <sup>2</sup> (6.0) 無解答 (10.4)

<考察>

力と圧力に関する問題である。実験 では、2つの力がつりあう条件、実験 では、面を押す力と圧力の違い、圧力と面積の関係、圧力の求め方を理解しているかをみる問題である。

問1については、2つの力がつりあうための条件のうち、2つの力の大きさは等しいことを理解しているかを問う問題である。正答率が90.4%で、ほとんどの生徒が日常生活の経験から理解していることが分かる。問2と問3については、2つの力がつりあうための条件のうち、2つの力は同一直線上にあることと2つの力がつり合うように作図する力を問う問題である。正答率は、ともに問1と比べると低くなっている。問3は、昨年度との類似問題であり、正答率が75.1%で、昨年度よりかなり高い正答率を示している。これは、本年度の作図の問題では、作用点の位置が生徒にとって分かりやすかったことや、普段の授業において作図の指導が十分に行われているためと考えられる。問4については、面全体を押す力について、圧力との違いを理解しているかを問う問題である。正答率が25.0%で、圧力と混同した誤答が多く、面全体を押す力と圧力との違いを十分に理解していないと思われる。また、等号や不等号を使った解答の仕方に慣れていないことも考えられる。しかし、問5については、正答率が51.4%である。日常生活の経験などから、押す力の大きさが等しい場合の接触面積とスポンジのへこみ具合(圧力)の関係について理解できていることが分かる。問6については、面積の単位換算をとまなう圧力の計算の問題である。正答率が21.7%で、与えられた数値から圧力を計算する力が十分に身に付いているとは言えない。この問題は、昨年度との類似問題であり、昨年度よりやや低い正答率を示している。これは、本年度の問題は面積を求めることと圧力を求めることの二つの計算を必要とする問題構成にしたことによって、昨年度より難易度が上がったためと考えられる。また、昨年度に続いて正答率が低かったことから、圧力の公式を正確に理解していなかったり、単位換算を含めた計算を苦手としていたりすることが分かる。

そこで、指導に当たっては、2つの力のつりあいに関して、実験を通してつりあうための条件を理解させておく必要がある。また、作図については、昨年度の問題のように、天井からぶら下げたおもりの重力とつりあう力の作図も含めて、数多く演習を行い、慣れさせておく必要がある。さらに、面全体を押す力と圧力の違いを明確に区別し、それぞれがどのような力を意味しているのかを、レンガとスポンジなどの具体物を使いながら理解させておくことが重要である。その上で、圧力の公式を理解させ、計算によって正確に求めることができるように計算力を付けさせておくことが大切である。特に、100gの物体にはたらく重力の大きさが1Nであること、 $1\text{ m}^2 = 100\text{ cm} \times 100\text{ cm}$ であることについて、十分に指導しておく必要がある。

5 正答率 (66.6%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	比較(%)	誤答例(%)
1	焦点	79.5		焦点距離 (1.2) 無解答 (4.0)
2	ウ	65.5	全国 45.5 同一	ア (9.8)
3	虚像	80.7		実像 (11.2) 誤字脱字 (2.2)
4	ア	40.8		イ (25.2)

<考察>

凸レンズの実験を通して、実像と虚像ができる条件及び実像の位置・大きさ・形についての規則性を理解しているかをみる問題である。

問2については、凸レンズを通過した物体の像が、スクリーンにどのように映っているかを問う問題である。正答率が65.5%で、予想正答率を大きく上回っている。この問題は、全国で行われた調査と同一問題でもあり、本県は全国平均より高い正答率を示している。これは、生徒が比較的苦手意識をもっている分野であるため、実験を通して確実に理解力を高めようという指導の成果であると考えられる。なお、誤答例から、実像が倒立になることは理解しているが、左右逆になることやスクリーンの後ろから見た像を解答することによる誤答があったことが分かる。問3については、高い正答率を示しており、ある程度定着していると言える。問4については、虚像のできる原理を利用した日常生活の機器を選択させる問題である。正答率が40.8%で、予想正答率よりも低くなっている。誤答例に「カメラ」が多かったのは、選択肢の中で最も身近な機器であり、カメラで遠くのものが大きく見えた実体験による選択のためと考えられる。

そこで、指導に当たっては、まず凸レンズに平行光線を当て、光が集まる点が焦点であることを理解させる。次に、スクリーンに物体の像を映す実験を通して、物体と凸レンズの距離、凸レンズとスクリーンの距離の関係やスクリーンにできる像の大きさや向きを理解させたい。その際、実像は倒立で上下逆になるだけでなく、左右逆になることも確実に押さえておきたい。また、実像や虚像のできる原理が、日常生活にどのように活用されているかについて、身の回りの道具や機器などを取り上げて指導する必要がある。

6 正答率 (48.6%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	比較(%)	誤答例(%)	
1	イ	43.6		ア (15.4)	エ (15.2)
2	アルカリ	17.9		アルカリ性 (19.2)	無解答 (15.8)
3	中和	60.7		状態変化 (5.0)	無解答 (11.4)
4		79.6	全国 71.4 類似	(4.8)	(3.8)
5	水素	41.3		二酸化炭素 (27.0)	酸素 (11.8)

< 考察 >

中和反応に関する問題である。酸とアルカリ，中和についての基本的な内容や塩を析出する実験装置を理解しているかをみる問題である。

問1については，フェノールフタレイン液が，アルカリ性で何色になるかを問う問題である。正答率が43.6%で，予想正答率よりも低かった。これは，黄色や青色と解答した誤答例が多いことから，BTB液の色の变化と間違っていることが言える。また問2については，反応結果からアルカリという名称を答えさせる問題である。正答率が17.9%で，予想正答率よりもかなり低かった。これは，アルカリ性という誤答が多かったことから，アルカリとの違いについて正確に理解していないためと考えられる。問4については，塩を結晶として取り出す実験装置を問う問題である。正答率が79.6%で，ある程度定着していると言える。この問題は，全国で行われた調査との類似問題でもあり，本県は全国平均より高い正答率を示している。これは，中和した水溶液から塩を取り出す実験について，授業で確実にやりながら定着を図っている成果と考えられる。問5については，酸性の水溶液に金属を加えたときに発生する気体名を問う問題である。正答率が41.3%で，十分に定着しているとは言えない。二酸化炭素の誤答が多いことから，塩酸と二酸化炭素の発生とを関連付けてとらえており，この問題の意味を十分に理解しないまま解答していることが考えられる。

そこで，指導に当たっては，問題文を含め重要な語句について，教科書などでしっかりと読み取らせることが重要である。また，できるだけ少人数のグループで実験させるようにしたい。生徒実験として取り扱うことが難しい場合には，なるべく演示実験を行うようにし，少しでも学習内容を印象付けながら定着を図るように心がけることが大切である。例えば，フェノールフタレイン液の色の变化については，アンモニアの噴水実験を行うことによって，現象への驚きや感動をもたせながら，視覚的にとらえさせることができる。さらに，重要な語句に関して定着を図るために，小テストなどを行うことも有効である。

7 正答率 (71.2%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	比較(%)	誤答例(%)
1	震源	74.2		震央 (6.2) 無解答 (3.6)
2	A	93.3		C (1.2)
3	ウ	65.2		エ (10.8)
4	ウ	52.2	全国 42.6 同一	イ (13.8)

<考察>

地震とそのゆれの伝わり方に関する問題である。地震に関する基本的な内容と地震によって生じる2つの地震波の特徴について理解しているかを問う問題である。

問1と問2については、震源の語句と震度の大きい地点を問う問題である。問1で、震央の誤答は見られるが、どちらも定着していると言える。特に問2については、極めて高い定着率であると言える。これは、地震計の記録や距離のデータから、視覚的にとらえることが可能だったためと思われる。問3については、ある地震波のデータから初期微動継続時間を読み取る問題である。正答率が65.2%で、ある程度定着していると言えるが、グラフの読み取りを間違えて、エの45秒と解答している誤答がある。問4については、初期微動の到達時間をグラフから読み取り、震源からの距離とで計算し、初期微動の速さを求める問題である。正答率が52.2%で、選択問題であるにもかかわらず誤答が多い。これは、震源からの距離を、2つの時刻の差で割って速さを求めることになるため、複数のデータから正解を導く計算方法や正確に計算する力が十分に身に付いていないことが原因と考えられる。この問題は、全国で行われた調査と同一問題でもあり、本県は全国平均よりかなり高い正答率を示している。これは、地震計のゆれを記録したグラフから初期微動の速さを求める問題について、グラフから必要な数値を読み取り、計算できる力の定着を図るための取組が、各学校で行われている成果であると考えられる。

そこで、指導に当たっては、震源や震央、初期微動や主要動などの名称について、相違点に留意しながら押さえていくことが必要である。また、地震波のグラフにあるデータが、何を意味しているのかを理解させ、初期微動継続時間と震源距離の比例関係を把握させるようにしたい。さらに、震源までの距離や初期微動、主要動の速さを求める計算については、演習問題により、その計算方法を習熟させ、定着を図る必要がある。

8 正答率 (48.0%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	比較(%)	誤答例(%)
1	省略	50.4		導線の結び目がない (11.6) 電気用図記号の間違い (8.8)
2	省略	63.1		プロット記入不足 (14.2) 原点を通らない (5.8) グラフを2本かいている (4.2)
3	比例関係	75.9		等しい (2.4) 無解答 (6.2)
4	20	38.3	H15 45.0 類似	2 (7.6) 無解答 (9.2)
5	0.9 A	12.1	H15 19.3 類似	0.6 (9.4) 無解答 (14.8)

< 考察 >

抵抗器に加わる電圧と、そのとき流れる電流との関係に関する問題である。

問1については、電気用図記号を使って回路図を作図することができるかをみる問題である。正答率が50.4%で、予想正答率より高かった。導線の結び目がないために誤答となっている割合が高い。問2については、電圧と電流の測定値を基にグラフをかくことができるかをみる問題である。正答率が63.1%で、正しくグラフをかくことについては、ある程度定着していると言える。しかし、プロット記入不足の誤答が多く、測定値をプロットすることでグラフに正確にかき込むことの大切さや、0の値も測定値であることを十分理解していないことが考えられる。問4については、オームの法則を用いて、測定値から抵抗値を求めることができるかをみる問題である。正答率が38.3%で、抵抗値を求めるのに必要な測定値を使って計算する力が十分に身に付いているとは言えない。問5については、並列回路に加わる電圧の特徴を理解し、回路全体に流れる電流の強さを求めることができるかをみる問題である。正答率が12.1%で、測定値にない電圧の大きさから、並列回路における各抵抗器に加わる電圧の大きさを求め、オームの法則を使って回路全体に流れる電流の強さを求めていく総合的な力が十分に身に付いているとは言えない。この問4と問5の問題は、昨年度との類似問題であり、昨年度より低い正答率を示している。これは、問4については、昨年度は流れる電流の強さを求める問題と抵抗値を求める問題との2問に分けられていたこと、同様に問5についても、並列回路の2つの抵抗器に加わる電圧を求める問題と回路全体に流れる電流の強さを求める問題との2問に分けられていたことが、正答率の下がった要因として考えられる。つまり、類似問題ではあるが、段階的に問うていないために、難易度が昨年度に比べて上がっているためと考えられる。しかし、無解答の割合が高いことから、計算方法を理解していなかったり、小数点を含む計算力が十分に身に付いていなかったり、このような問題に対する苦手意識をもっていることが原因として考えられる。

そこで、指導に当たっては、回路図をかくことやグラフをかくことを正確に行わせるようにし、実験レポートなどを使いながら時間を十分確保して何度も作図させることが大切である。また、オームの法則を使う計算については、特に、小数点を含む計算を正確にできるようにしておくことが必要である。小テストや家庭学習の課題なども有効に使いながら、このような問題に慣れさせ、問題を見て計算方法が分かるようになるまで、繰り返し問題に当たらせておくことが必要である。



## 中学校第2学年

### (5) 英語

#### 分析結果の表記について

「小問ごとのねらいと正答率」の評価の欄の については、県正答率と予想正答率との差を記号化して示している。

- 1 県正答率が予想正答率よりも5ポイント以上高いもの.....
- 2 県正答率が予想正答率よりも5ポイント以上低いもの.....
- 3 1と2の間にあるもの .....

「小問ごとのねらいと正答率」の比較の欄の「H15」「全国」については、過去の基礎学力調査問題や全国教育課程実施状況調査問題と同一問題、類似問題であることを示している。

- 1 H15 ~平成15年度基礎学力調査問題と同一または類似問題
- 2 全国~平成13年度全国教育課程実施状況調査問題と同一または類似問題  
正答率と誤答率は、抽出調査した全人数に対する割合を表している。

誤答例については、抽出調査した中で、割合の高かったものを中心に記載している。



## (5) 英語

調査問題の構成とねらい

- ・ 4つの大問で構成し、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」及び「書くこと」の4領域を問う問題とした。
- ・ 学習指導要領の目標及び内容に基づき、教科書での学習事項の定着度をみる問題とした。
- ・ 知識・理解だけでなく、思考力、判断力及び表現力も含めて、学習達成状況を総合的にみることが出来る問題とした。

平均点 69.4点

小問ごとの内容・ねらい

大問	領域	小問	観点	内容・ねらい	大問別 正答率	小問別 正答率	予 想 正答率	評価	比較
1	聞くこと	1	(1) 理解	英文を聞き、絵を説明する英文を聞き取ることができる。	86.6	93.4	90		H 1 5
			(2) 理解	英文を聞き、絵を説明する英文を聞き取ることができる。		92.1	90		
			(3) 理解	英文を聞き、絵を説明する英文を聞き取ることができる。		70.7	60		H 1 5
			(4) 理解	英文を聞き、絵を説明する英文を聞き取ることができる。		90.3	90		
		2	(1) 理解	対話を聞き、対話の内容に関する質問の答えとして適切な絵を選ぶことができる。		98.2	90		
			(2) 理解	対話を聞き、対話の内容に関する質問の答えとして適切な絵を選ぶことができる。		87.4	90		
			(3) 理解	対話を聞き、対話の内容に関する質問の答えとして適切な絵を選ぶことができる。		98.5	90		
			(4) 理解	対話を聞き、対話の内容に関する質問の答えとして適切な絵を選ぶことができる。		94.6	90		
		3	(1) 理解	対話を聞き、対話の内容に関する質問の答えを選ぶことができる。		85.6	80		
			(2) 理解	対話を聞き、対話の内容に関する質問の答えを選ぶことができる。		76.4	80		
			(3) 理解	対話を聞き、対話の内容に関する質問の答えを選ぶことができる。		63.3	80		
			(4) 理解	対話を聞き、対話の内容に関する質問の答えを選ぶことができる。		88.7	80		
2	話すこと	1	(1) 表現	絵の内容に関する質問の答えとして適切な表現を選ぶことができる。	83.2	77.3	80		
			(2) 表現	絵の内容に関する質問の答えとして適切な表現を選ぶことができる。		56.9	80		
			(3) 表現	絵の内容に関する質問の答えとして適切な表現を選ぶことができる。		94.2	80		
			(4) 表現	絵の内容に関する質問の答えとして適切な表現を選ぶことができる。		97.1	80		
			(5) 表現	絵の内容に関する質問の答えとして適切な表現を選ぶことができる。		73.2	80		
		2	(1) 表現	対話文を読み、場面に合う表現を選ぶことができる。		91.8	80		全国
			(2) 表現	対話文を読み、場面に合う表現を選ぶことができる。		94.7	55		
			(3) 表現	対話文を読み、場面に合う表現を選ぶことができる。		66.4	55		H 1 5
			(4) 表現	対話文を読み、場面に合う表現を選ぶことができる。		94.6	80		
			(5) 表現	対話文を読み、場面に合う表現を選ぶことができる。		67.6	70		
		3	(1) 表現	提示された状況に合う、適切な表現を選ぶことができる。		96.6	80		
			(2) 表現	提示された状況に合う、適切な表現を選ぶことができる。		85.9	70		
(3) 表現	提示された状況に合う、適切な表現を選ぶことができる。		86.9	70		H 1 5			
(4) 表現	提示された状況に合う、適切な表現を選ぶことができる。		82.0	70					
3	書くこと	1	(1) 言語	日常生活に関わる基本的な語を書くことができる。	57.2	38.5	60		
			(2) 言語	日常生活に関わる基本的な語を書くことができる。		37.9	60		
			(3) 言語	日常生活に関わる基本的な語を書くことができる。		81.7	70		
		2	(1) 表現	与えられた語を並べかえ、適切な英文を完成することができる。		86.4	70		
			(2) 表現	与えられた語を並べかえ、適切な英文を完成することができる。		63.2	50		H 1 5
			(3) 表現	与えられた語を並べかえ、適切な英文を完成することができる。		92.4	70		
			(4) 表現	与えられた語を並べかえ、適切な英文を完成することができる。		63.8	60		
		3	(1) 表現	友だちに関する指示された内容の紹介文を英文で答えることができる。		25.2	50		全国
			(2) 表現	友だちに関する指示された内容の紹介文を英文で答えることができる。		25.4	50		全国
4	読むこと	1	(1) 言語	英文の内容を読み取り、空所に入る適切な語を選ぶことができる。	67.0	75.5	50		
			(2) 言語	英文の内容を読み取り、空所に入る適切な語を選ぶことができる。		82.2	50		
			(3) 言語	英文の内容を読み取り、空所に入る適切な語を選ぶことができる。		77.4	50		
			(4) 言語	英文の内容を読み取り、空所に入る適切な語を選ぶことができる。		19.8	60		
		2	(1) 理解	メール文を読み、適切な内容を選ぶことができる。正答(ウ)		87.5	70		
			(2) 理解	メール文を読み、適切な内容を選ぶことができる。正答(オ)		91.9	70		
		3	(1) 理解	メール文を読み、その内容に関する質問について答えることができる。(自販機)		42.5	60		
			(2) 理解	メール文を読み、その内容に関する質問について答えることができる。(車の運転)		59.8	60		
			(1) 理解	対話文を読んで、その内容に関する質問について答えることができる。		84.3	70		
3	(2) 理解	対話文を読んで、適切な内容を選ぶことができる。	51.5	60					
	(3) 理解	対話文を読んで、その内容に関する質問について適切なものを選ぶことができる。	64.4	60					

\* 観点 ・ 理解(理解の能力) ・ 表現(表現の能力) ・ 言語(言語や文化に関する知識・理解)

1 正答率 ( 86.6% )

問題番号	標準解答	正答率(%)	比較(%)	誤答例(%)	
1	( 1 )	ウ	93.4	H15 96.8 類似	ア( 3.6) イ( 3.0)
	( 2 )	イ	92.1		ア( 3.8) ウ( 2.8)
	( 3 )	ア	70.7	H15 62.0 類似	ウ(12.4) イ( 4.8)
	( 4 )	イ	90.3		ウ( 6.8) ア( 1.8)
2	( 1 )	ウ	98.2		イ( 0.4) 無解答( 0.2)
	( 2 )	ア	87.4		ウ( 8.8) イ( 2.6)
	( 3 )	イ	98.5		ア( 1.2) ウ( 0.2)
	( 4 )	ウ	94.6		ア( 4.0) イ( 1.2)
3	( 1 )	ア	85.6		イ( 9.8) ウ( 4.6)
	( 2 )	イ	76.4		ウ( 7.6) ア( 4.0)
	( 3 )	ア	63.3		イ(17.8) ウ( 3.6)
	( 4 )	ウ	88.7		ア( 4.8) イ( 2.8)

考察

英語を聞く力をみる問題である。問1では、英文を聞き、与えられた絵を説明する英文の内容を聞き取る力を問うた。問2は、短い対話を聞いたあとで、対話の内容に関する質問を聞き、答えとして適切な絵を選ばせる問題であり、対話の内容と質問の内容を聞き取る力を問うた。問3は、やや長い対話を聞き、問題用紙に書かれた日本語の質問に対する答えとして適切なものを選ばせる問題であり、対話の概要を聞き取る力を問うた。

問1の(3) between、問2の(2) under など、位置関係を示す語の聞き取る力を問う問題の正答率が他の問題に比べるとやや低い。問1の(3) between は前年度との比較の問題であり、前回より8.7ポイント上昇している。位置関係を表すものを含め、前置詞の用い方に関する指導が、語のみの指導になっている傾向がある。句や文として提示しながら実際の場面を参考にさせるなど、まとまりのある表現を用いての指導や視覚的に提示する指導が十分になされていない実態がうかがえる。また、問1の(1)は経年比較の問題であったが、3.4ポイント下がったものの、93.4%の正答率であり、動詞cleanや現在進行形の表現に慣れていると考えられる。問2の(1)、(3)、(4)は対話を聞いて、場面を表す絵を選ぶ問題であるが、正答率がそれぞれ98.2%、98.5%、94.6%と非常に高かった。それぞれ、対話中に出てくる English、Orange juice 及び window などの語が正確に聞き取れている。このことは、ふだんの指導を通して基本的な語の音声に慣れているためだと思われる。問3の(3)は正答率が63.6%と、1の中で最も低く、イ(tennis)と答えた生徒が17.8%と多かった。これは対話の内容をつかんでいく際に、swimming の聞き取りが十分にできていないためと思われる。問3の(2)の正答率が76.4%と1の中では低かったのは、登場人物までは理解できたものの、本文の内容を十分に理解できていないためと考えられる。

そこで、指導に当たっては、前置詞の指導を行う際、語だけの指導で終わらないようにし、既習の語を用いた句や文を提示することが大切である。同時に、生徒が理解しやすいように、実際の場面を表す絵などの視覚的な教材を取り入れて、句などのまとまりをもった表現で指導していく必要がある。また、対話の内容を理解させる指導を行う際、対話における内容をつかむために、重要な語に気付かせる活動が必要である。日頃から聞き取りの視点を示し、視点を意識した聞き取りの活動が行えるようにし、漫然と聞かせるだけの指導で終わらないように留意する必要がある。さらに、短い文からまとまりのある文章へと段階を踏んで量を増やしていき、その内容や概要を日本語または簡単な英語でまとめさせる活動へと発展させていくことが大切である。

2 正答率 (83.2%)

問題番号	標準解答	正答率 (%)	比較 (%)	誤答例 (%)	
1	(1)	イ	77.3		ア( 6.2) ウ( 0.6)
	(2)	ウ	56.9		イ(13.4) ア(11.2)
	(3)	ウ	94.2		ア( 4.0)
	(4)	ア	97.1		
	(5)	イ	73.2		ウ(16.2) ア( 3.0)
2	(1)	ウ	91.8	全国80.9 類似	イ( 3.8) ア( 2.4)
	(2)	ア	94.7		
	(3)	ア	66.4	H15 57.6 類似	ウ(14.8) イ( 5.6)
	(4)	イ	94.6		ウ( 5.0)
	(5)	イ	67.6		ア(17.8) ウ( 3.2)
3	(1)	ウ	96.6		ア( 3.2)
	(2)	イ	85.9		ア( 9.6) ウ( 3.4)
	(3)	ア	86.9	H15 24.0 同一	ウ( 5.4) イ( 5.2)
	(4)	ア	82.0		イ(12.0) ウ( 1.8)

考察

英語を話す力をみる問題である。問1では、与えられた絵の内容に関する英文の質問に対して、適切に答える力を問うた。問2は、短い対話文を読んで、対話文中の空欄に当てはまる表現を考えさせる問題であり、自然な対話を行うことができる力を問うた。問3は、指示された状況において、どのように英語で表現するのが適切であるかを考えさせる問題であり、状況を踏まえて適切な表現で英語を話すことができる力を問うた。

問1の(2)は、正答率が56.9%と、2の中で最も低い正答率であった。イ(They are three.)やア(Yes, there are.)と答えている生徒が、それぞれ13.4%、11.2%と目立つ。これは、How many ~ are there ~?を用いた英語の応答に日頃慣れていないためと考えられる。問2の(1)は、全国との比較をみる問題であるが、正答率が91.8%と、全国に比べて10.9ポイント高い。普段の授業で自然なあいさつを行う場を設定したり、ALTの訪問などを利用して、初対面のあいさつで用いる表現に慣れ親しませたりしているためだと考えられる。(3)は、昨年度との比較をみる問題であるが、昨年度に比べ正答率が8.8ポイント伸びている。店など言語の使用場面を取り入れ、生徒が実際に英語を話す学習活動が行われつつあるためと考える。(5)に関しては、正答率が67.6%とやや低く、ア(Yes, I will.)と答えた生徒が17.8%と多く見られた。これは、空欄の前後をよく考えず、空欄の前のみで判断したり、willで聞かれたらwillで答えるものだと思いきなりしたためだと考えられる。問3の(3)も昨年度との比較をみる問題であるが、正答率が86.9%と、昨年度に比べ、62.9ポイント上昇した。これは、昨年度が英作文形式の出題であったのに対して、今年度は選択式の出題であったことによるものと考えられる。

そこで、指導に当たっては、適切な英語での応答が行えるようにするために、How many ~?など、疑問詞を用いた英問英答などに日頃から慣れさせておく必要がある。例えば、授業の冒頭で、疑問詞を用いながら、個に応じた英語の質問を行い、英語で答えさせることに慣れさせていくのも効果的である。また、教科書の本文や教師や生徒が話した英語の内容について、確認させる活動を英問英答の形式で行い、内容が正しいかそうでないかばかりでなく、適切な応答の仕方の経験を徐々に積み上げていくことも大切である。一方、場面に即した自然な対話が行えるようにするために、言語の使用場面を考慮した設定の中で、対話の活動を行うことは大切なことである。しかし、問答が機械的に暗記して繰り返すだけにとどまらないように、予想される反応を選択して対話の内容を変化に富むものにしていきながら、臨機応変に対話を続けていく力を身に付けさせる必要がある。

3 正答率 (57.2%)

問題番号	標準解答	正答率 (%)	比較 (%)	誤答例 (%)
1	(1) white	38.5		whait( 2.8) write( 1.8) where( 1.6) waite( 1.0) 無解答(28.2)
	(2) fall	37.9		from( 2.0) fool( 2.0) foll( 1.8) foul( 1.2) 無解答(25.0)
	(3) Friday	81.7		Fryday( 2.0) father( 0.4) 無解答( 6.0)
2	(1) How is the weather today?	86.4		How the weather is today?( 5.4) How weather is the today?( 1.2)
	(2) You must do your homework.	63.2	H15 46.0 類似	Do you must your homework?(14.2) You must your homework do.( 1.4)
	(3) Shall we go to the baseball game?	92.4		We shall go to the baseball game.( 1.8) We shall go to.( 1.4)
	(4) What time do you have breakfast?	63.8		What do you have time breakfast?( 9.6) What do you have breakfast time?( 4.6)
3	(1) Mary came to Japan last year.	25.2	全国57.6 類似	Mary is come to Japan last year.( 1.4) She is went to Japanese one years ago. ( 1.2) 無解答(25.2)
	(2) She walks to school.	25.4	全国53.4 類似	Mary walk to school.( 3.6) Walk to school.( 1.2) 無解答(20.4)

考察

主として、英語を書く力をみる問題である。

問1では、与えられた語を手がかりに、関連のある語を正確に書くことができるか、言語に関する知識を基本的な語について問うた。問2は、日本語で示された内容を表せるように、与えられた語句を並べかえて、適切な英文を完成する問題であり、文型や文法事項などの言語材料を適切に用いて英文を構成する力を問うた。問3では、友だちに関する紹介文を、与えられた条件に従って、英語で書く力を問うた。

日常生活に関する基本的な語を書いて答える問1の(1)・(2)については、正答率がそれぞれ、38.5%、37.9%と、かなり低くなっている。逆に、無解答の率がそれぞれ、28.2%、25.0%と高い。誤答例で示してあるような誤答を含め、様々なスペルミスが見られたが、語を正確に覚えていないことが明瞭である。既習の語を繰り返し用いることをしなかったり、基本的な語を書かせる場面の設定や課題の提示が十分に行われていなかったりしていることが原因であると思われる。問2の(2)は前年度との比較の問題であるが、昨年度に比べ、正答率が17ポイント上がっている。must など助動詞を使った表現を授業の中でよく用いるなど、生徒がその使い方に慣れる手立てが取られつつあると思われる。一方、Do you must ~?といった誤答率が14.2%も見られることから、do が一般動詞として用いられる英文に日頃から親しんでいない実態もうかがえる。また、(1)の天気をたずねる表現や(3)のShall we ~?を使って人を誘う表現については、あいさつで用いたり、対話文中に取り入れたりすることで、よく理解できていると思われる。(4)のWhat time ~?を用いて時間を問う表現の正答率が63.8%と、(1)や(3)に比べてあまり高くないのは、What do you have ~?といった誤答例が示しているように、疑問詞を用いた様々な表現を用いる指導が十分になされていないためであると思われる。

問3の(1)・(2)は、ともに全国との比較の問題であるが、全国の正答率に比べ、正答率がそれぞれ、25.2%、25.4%と、大変低く、逆に無解答の率がそれぞれ、25.2%、20.4%と高い。書くことを苦手とする生徒が多くいると考えられるが、語を書いたり、基本文を書いたりする活動も含め、英語を書かせる指導が不足していることが原因であると思われる。そこで、指導に当たっては、基本的な語が正確に書けるようにするために、語を書かせる場面を設けたり、精選した基本的な語を家庭学習等で書かせたりすることが大切である。その際、小テストを計画的・継続的に実施し、実施が終わるごとにフラッシュカード等を用いながら音声や意味の確認を行う活動を取り入れていくことが望ましい。また、do など複数の意味や働きをもつ語の指導や、What time ~?など疑問詞が含まれる多様な表現の指導においては、日頃の授業の中で生徒が聞いたり、答えたりする場面を取り入れることで、その使い方に慣れさせることが必要である。例えば、疑問詞を用いた様々な表現は、授業の冒頭で個に応じたあいさつを行う

場面でも、計画的な指導が十分可能である。さらに、与えられた状況を説明するなど、既習事項を用いて英文を書かせる指導においては、語を書かせる場面を設けたり、精選した基本的な語を家庭学習等で書かせたりすることを土台にしながら、授業の終末などで授業で用いた新出の表現や生徒が対話の活動等で実際に使った表現を書かせることが大切である。一般的に、英文を書くことについては、他の活動に比べて個人差が大きいことから、書かせる内容を個人で選択させたり、興味のあることを中心に書かせたりするなど、個々の生徒の実態に応じて段階的に指導していくことが望まれる。

4 正答率 (67.0%)

問題番号	標準解答	正答率 (%)	誤答例 (%)
1	(1) オ	75.5	ウ(6.4) エ(2.2) キ(2.2)
	(2) ク	82.2	エ(3.8) カ(3.4) ウ(3.2)
	(3) キ	77.4	イ(7.0) カ(2.2) エ(2.0)
	(4) カ	19.8	ア(16.8) イ(9.8) オ(6.8)
2	(1) ウ	87.5	ア(6.4) イ(4.2) エ(4.0)
	オ	91.9	
	(2) 自動販売機があまりないことと高校生〔のトム〕が車を運ぶこと	42.5	自販機がなかったこと(4.4) 色々な自販機がある。(2.0) 無解答(28.2)
(2) 高校生〔のトム〕が車を運ぶこと	59.8	トムが車で学校へ行っていること(1.0) 無解答(27.2)	
3	(1) 〔中国にいる〕妹(姉)に〔誕生日の〕手紙を送るため	84.3	手紙を送るため(3.6) 手紙を送りたかった。(1.2) 日曜日(は妹(姉)の誕生日だから) 手紙を出すために行きたかった。(1.0) 無解答(8.0)
	(2) ウ	51.5	イ(16.4) エ(11.6) ア(2.4)
	(3) B	64.4	C(9.4) E(5.2) A(4.6) D(4.6)

考察

主として、英語を読む力をみる問題である。問1は、与えられた短い英文の内容を読み取り、空欄に入る適切な語を選択する問題であり、基本的な語の用い方に関する知識を問うた。問2は、メール文を読み、その内容について適切な内容を選んだり、与えられた問いに日本語で答えたりする問題であり、初歩的な英文の内容を正確に読み取る力を問うた。問3は、対話文を読んで、その内容に関する日本語の質問に答えたり、適切な内容を選択したりする問題であり、初歩的な英語が用いられた対話文の内容を読み取る力を問うた。

問1は(4)を除き、全体的に高い正答率であった。短い英文における基本的な語の用い方や意味を理解することが、日頃の指導を通して、おおむね身に付いていると言える。しかし、(1)では、like の使い方が適切でなかったり、(3)では、単数形と複数形の使い分けが適切でなかったりするなど、動詞や代名詞の理解が不十分な誤答も見られる。また、(4)の正答率が19.8%と低い結果となっているが、「持っている」という意味以外に、動詞 have の様々な表現に、日頃十分慣れていないためであると思われる。問2の(1)については、高い正答率であり、メール文の内容がよく理解できている。選択肢の内容を本文と照らして確認する際、本文で用いられている語や英文の意味が理解できた結果であると思われる。しかし、(2)の問いのように具体的な内容を自分で考えて答える問題の正答率が42.5%及び59.8%と低い。無解答もそれぞれ28.2%及び27.2%と高い。内容はおおむね理解できていても、代名詞 that の示している内容が具体的に何かを考えながら、本文を細かく読み取る力が不足していると言える。問3の(1)については、正答率が84.3%と高いのに対し、(2)では正答率が51.5%と低い。(1)も(2)も、ともに対話文の内容について問うた問題であるが、(2)では take の意味を正しく理解できていないために、適切に解答できなかったと思われる。また、China と Canada を勘違いして答えてしまった誤答も目立つ。また、(3)については、Cを選んだ誤答が9.4%と目立つ。これは、文中の You can see it on your left. が十分理解できなかったものと思われる。特に、left の意味を理解していないことが原因であると思われる。

そこで、指導に当たっては、英文の内容を正しく読み取ることにつながる語の適切な用い方を指導する際、既習の語をはじめ、新出の語の指導を徹底する必要がある。3でも触れたように、語の小テストを計画的・継続的に実施したり、フラッシュカード等を用いながら音声や意味の確認を行ったりする活動を取り入れていくべきである。中でも、like や have のように、多義性をもつ語については、文で提示することにより、その使い方や意味の違いを明確に指導

していきたい。これらのことは、問3のような対話文の内容を正確に理解させる上でも大切な活動である。また、英文の内容を具体的に理解させるために、that などの代名詞が表している内容を正確に読み取らせる指導が大切である。例えば、教科書の本文の内容を確認させる際、英文の意味だけの確認で終わることがないように、代名詞の表す内容を問う発問を取り入れるのも一つの方法である。読み物に関する教材に触れる機会があまり多くない場合でも、対話文の教材の中から代名詞の表す内容を具体的に答えさせたり、リスニングの指導において、具体的な内容を答えさせたりする活動を行うことができる。さらに、China と Canada の勘違いや、right と left の勘違いなどを避けさせるために、日頃から集中して学習活動に取り組みさせることが大切である。例えば、自分の考えなどを明確にするために、自分の作った文やスピーチについて、他の生徒から質問してもらったり、設問の答えを文中で確認させる機会を設けたりすることも一つの方法である。



# 中学校学習状況実態調査





- 5 全教科合わせて、1日あたりどの程度自宅学習をしていますか。(1),(2)について、次の中から1つ選び、番号で教えてください。学習塾での学習時間は除いて教えてください。

ほとんどしない	30分程度	1時間程度
1時間30分程度	2時間程度	2時間30分程度
3時間程度	3時間30分程度	4時間程度
5時間程度	6時間以上	

- (1) 授業がある日  
(2) 学校が休みの日

(1)	
(2)	

- 6 学習塾について聞きます。

- (1) あなたは学習塾に通っていますか。通っていれば、1週間に何日通っていますか。次の中から1つ選び、教えてください。

通っていない	1日	2日	3日	4日以上
--------	----	----	----	------

--

- (2) あなたは学習塾で、1回にどのくらい勉強していますか。次の中から1つ選び、教えてください。(1)で と答えた人は、答える必要はありません。

30分程度	1時間程度	1時間30分程度
2時間程度	2時間30分程度	3時間程度
3時間30分程度	4時間以上	

国語		社会		数学		理科		英語	
その他									

- 7 読書について聞きます。

- (1) 読書をするのは好きですか。次の中から1つ選び、教えてください。

とても好き	まあまあ好き	あまり好きではない	嫌い
-------	--------	-----------	----

(1)	
-----	--

- (2) 平均して1か月あたり、何冊くらい本を読んでいますか。  
(まんがは除く)

(2)		冊
-----	--	---

- 8 学校が休みの日に何をしておすごすことが多いですか。次の中から3つ選び、その番号を教えてください。その他の場合には、具体的に( )の中に書いてください。

勉強	読書	部活動	地域の活動	ボランティア活動
家族とのふれあい		友人との遊び	家の手伝い	
その他 ( )				

--	--	--

## 2 調査結果及び結果分析

[調査人数 1850名]

(各学校1クラス5名を抽出して調査した)

数値は、全回答数に対する割合(%)である。

無回答や回答が不明なものがあるので、それぞれの質問に対する回答の和は100%にならない。

1

各教科に関する 興味・関心	ある	まあまあある	あまりない	ない
国語	19.8	51.2	24.5	4.2
社会	27.8	45.4	20.1	6.6
数学	26.6	43.4	24.4	5.5
理科	32.2	44.8	18.8	4.1
英語	30.9	38.7	22.4	7.8
音楽	39.2	35.7	18.4	6.6
美術	35.0	39.0	19.8	6.1
保健体育	38.4	41.1	15.5	4.8
技術・家庭	39.4	40.9	14.9	4.8
総合的な学習の時間	33.9	43.1	16.1	6.5

各教科に関する 理解	理解できている	だいたい理解できている	あまり理解できていない	理解できていない
国語	17.5	58.2	20.9	3.3
社会	18.5	48.3	26.1	7.0
数学	26.8	42.1	23.8	7.2
理科	25.6	46.8	22.6	4.9
英語	22.4	40.1	27.3	10.1
音楽	31.0	45.4	17.8	5.7
美術	32.6	43.8	19.1	4.4
保健体育	28.5	49.1	17.9	4.3
技術・家庭	36.9	45.4	14.3	3.3
総合的な学習の時間	36.1	46.4	13.9	3.2

・各教科等に関する「興味・関心がある」と「まあまあ興味・関心がある」の合計は、すべてにわたってほぼ7割以上であり、昨年度の6割以上よりも高くなっている。  
 ・各教科等に関する理解について、全教科の「理解できている」と「だいたい理解できている」を合わせた割合の平均は74%となり、昨年と同様の傾向である。今後も生徒がわかる授業となるように、きめ細かな指導を行う必要がある。

2

授業がよくわかるときは、どんな授業のときですか。	
先生が一人でみんなを教える授業	31.3
先生が何人かでみんなを一緒に教える授業	21.9
学級がいくつかに分かれてする授業	49.7
コンピュータを使った授業	45.9
実際に物を使って考える授業	62.6
グループで話し合いながら考える授業	40.8
自分でノートにまとめながら考える授業	30.9
ワークシートに記入しながら考える授業	32.8
ALTなど外国人の先生が教科の先生と一緒に教える授業	33.1
その他	3.0

・「実際に物を使って考える授業」がよく分かったと答えた割合が昨年度と同様にもっとも高かった。教材・教具を工夫し、生徒の感覚を通して理解を深める指導に効果があると思われる。  
 ・「学級がいくつかに分かれてする授業」の回答率が昨年度と同様に高く、少人数によるきめ細かな指導が生徒にとって、学習内容を理解することに効果的であると考えられる。  
 ・「コンピュータを使った授業」は昨年度と同様に高く、生徒が学習内容を理解するために役立っていると思われる。  
 ・「グループで話し合いながら考える授業」も4割を超えている。

学習内容でわからないことがある場合の解決方法				
自分	友人	保護者や兄弟	学校の先生	塾の先生
17.9	38.9	14.6	9.0	7.5
そのまま				
4.3				

・昨年度に比べて「学校の先生」2.5ポイント、「塾の先生」2.4ポイント、尋ねる割合が低くなっている。学校においては、生徒が質問しやすい雰囲気づくりや個に応じた指導を充実することが大切である。  
 ・「友人」に尋ねる割合は昨年度と同様で、「そのままにしておく」とする割合はマイナス1.4ポイントであった。分からないところをそのままにしておく傾向は低くなっていると考えられる。

自宅学習時間	必ずする	時々する	あまりしない	全くしない
(1) 予習	4.7	33.5	39.4	22.3
(2) 復習	26.6	49.1	17.5	6.6
(3) 宿題	63.4	28.5	5.9	2.1
(4) その他の学習	13.2	41.7	31.8	13.2

・「宿題を必ずする」割合が6割を超え、「あまりしない」と「全くしない」の合計が8%で昨年度と同程度である。さらに、家庭学習の習慣付けの指導の一層の充実が望まれる。  
 ・「予習」や「復習」については、「必ずする」「時々する」の割合が昨年度とほぼ同じであった。

自宅学習時間	ほとんどしない	30分程度	1時間程度	1時間30分程度
(1) 授業がある平日	8.8	15.8	28.4	23.6
(2) 学校が休みの日	9.5	8.4	18.4	17.6
自宅学習時間	2時間程度	2時間30分程度	3時間程度以上	
(1) 授業がある平日	15.8	4.3	3.2	
(2) 学校が休みの日	23.7	8.6	13.7	

・平日「1時間30分程度」学習している生徒の割合が、昨年度と比べて約3ポイント、学校が休みの日「2時間程度」学習している生徒の割合が、昨年度と比べて約2ポイントそれぞれ高くなっており、自宅学習が充実してきていると考えられる。

6

(1)通塾状況				
通っていない	1日	2日	3日	4日以上
63.8	4.1	16.2	12.8	2.2

(2)塾における1回当たりの学習時間	30分程度	1時間程度	1時間30分程度	2時間程度
国語	7.6	6.9	2.0	0.8
社会	6.1	7.8	2.1	0.6
数学	3.6	12.9	5.9	1.9
理科	6.0	7.9	2.8	0.9
英語	4.2	13.1	7.4	3.6
その他	0.5	0.6	0.3	0.4

(2)塾における1回当たりの学習時間	2時間30分以上	3時間程度以上
国語	0.2	0.1
社会	0.2	0.1
数学	1.4	0.2
理科	0.3	0.1
英語	1.0	0.5
その他	0.1	0.0

・4割弱の生徒が通塾し、その3割弱が週2～3日と、昨年度とほぼ同じ傾向にある。  
 ・塾での学習時間は、昨年度と同様、数学と英語の占める割合が高く、いずれも「1時間～2時間程度」の時間が多く、数学で約21%、英語で約24%である。

7

読書をすることは好きですか。			
とても好き	まあまあ好き	あまり好きではない	嫌い
30.9	42.6	19.0	6.5

1ヶ月あたりの読書冊数				
読まない	1冊	2冊	3冊	4冊
15.7	35.0	22.5	12.3	3.8
5～10冊	10冊より多い			
6.6	3.4			

・読書をするということについて「とても好き」「まあまあ好き」を合わせた割合が約74%で、読書に対する関心が高いと思われる。  
 ・読書量については、1ヶ月当たりの読書冊数は1、2冊読む割合が最も多く、全体の約58%であった。

8

休日の過ごし方				
勉強	読書	部活動	地域の活動	ボランティア活動
40.4	18.8	83.3	0.9	1.1
家族と	友人と	家の手伝い	その他	
26.6	78.1	17.5	18.3	

・「部活動」が8割強、「友人との遊び」が8割弱と高い傾向は、昨年度と同じであった。  
 ・「勉強」をして過ごす割合が昨年度と比べて4ポイント高くなっている。  
 ・「家の手伝い」が昨年度と同様、2割に満たない状況にあり、家庭での過ごし方について考える必要がある。



# 学力向上に係る学校の取組

平成16年度に小学校,中学校のそれぞれ5校を訪問して得た情報をもとに,各学校の学力向上に係る取組としてまとめました。学力向上のための資料として,役立てていただきたいと思います。

## 内 容

- |   |               |        |
|---|---------------|--------|
| 1 | 学習指導法の工夫・改善   | ・・・129 |
| 2 | 教育課程の編成の工夫    | ・・・131 |
| 3 | 学習習慣・生活習慣付け   | ・・・131 |
| 4 | 学習環境の整備に関する取組 | ・・・132 |
| 5 | その他           | ・・・133 |



訪問学校：小学校 5 校・・・宮崎市立小松台小学校，延岡市立恒富小学校  
高鍋町立高鍋東小学校，西都市立穂北小学校  
都城市立丸野小学校

中学校 5 校・・・宮崎市立宮崎東中学校，南郷町立南郷中学校  
都城市立志和池中学校，高原町立高原中学校  
日之影町立高松中学校

## 1 学習指導法の工夫・改善

### 小学校

#### 目標の明確化

- ・国語，算数に関する教科指導の重点目標，具体的手立て，数値目標の設定と学期ごとの評価
- ・学年ごとの重点的指導事項の設定（3，4年では読書力向上のための「読書預金通帳」の作成，4年では漢字力・計算力向上を目指した「漢字プリントの音読」の取組，6年では家庭学習での基本的な学習の習慣付け）

#### 少人数指導・個別指導

- ・朝の時間（8:15～8:35）の活用，（校長・教頭・専科の教諭も加え，個別指導を行う）
- ・少人数指導の授業の充実と具体的実践（例～4年生算数　じっくりグループ　しっかりグループ　ぐんぐんグループ）
- ・個別指導の充実（昼休みや放課後の時間を利用する）
- ・個人差への対応（学習の速さ，学習スタイル，学習到達度に対応する）
- ・児童が楽しく授業に臨む授業づくり
- ・TTによる指導

#### 繰り返し学習

- ・算数の授業における演習時間の確保
- ・各教科における復習の徹底

#### 評価

- ・児童の「自己評価」を取り入れた授業の工夫・改善（授業後に「自己評価」を実施する）
- ・単元の形成的評価の実施（単元テストを確実に行う）

#### 分析・研究

- ・「基礎学力調査」の活用（3年生と5年生で実施される本県「基礎学力調査」の結果分析による，児童に十分身に付いていない基礎的・基本的な学習内容を把握する）
- ・観点別到達度学力検査（CRT）及び全国標準診断的学力検査（NRT）結果分析と重点的指導内容の整理
- ・演習問題の作成等の工夫（NRT検査の分析をもとに作成する）

#### 家庭学習の指導

- ・国語科の音読，漢字練習の充実
- ・「算数トラの巻」（算数に関する基礎的・基本的な事項をまとめた小冊子）の作成と活用

## その他

- ・学校独自の学習過程の作成と1単位時間のねらいの明確化（問題解決的な学習を基本にした学習過程を作っている）
- ・学社融合の授業実践（図工や家庭科において外部講師を招聘し，学力向上の視点で行う，知識と生活体験との結び付きを図り，課題を設定して自ら学ぶ姿勢をはぐくむ等）
- ・算数の思考力を育てる指導（「図形の面積」の学習において，既習の知識を基に，台形やその他の多角形の面積の求め方を考えさせる）

## 中学校

### 目標の明確化

- ・目標を明確にした，問題解決的な学習や体験的な学習

### 少人数指導・個別指導

- ・数学，英語における少人数指導（1クラスを2つに分けた，2人の教師が指導する）
- ・第3学年数学における少人数指導（3学級で教頭を含め，4人体制で指導する）
- ・英語における習熟度別学習の実施（生徒本人の希望を原則として，ベーシックコースとアドバンスコースの2コースつくる）
- ・数学と英語における習熟度別の少人数指導

### 【数学における習熟度別の少人数指導の進め方の例】

- ・学習内容に応じ，各單元ごとにグループ編成を行う
- ・単元の導入では一斉指導，その後，既習事項のテストを基に，生徒がコースを選択する
- ・下位のコースの人数を少なめにし，一人一人に対してよりきめ細かな指導を行う
- ・生徒が自分にあったコース選択ができない場合，教師との面談によってコースを変更する
- ・定期テストや單元テスト等の結果を基に，個に応じた指導を充実させる

### 授業教材等の工夫

- ・教師自作のワークシート（英語の言語活動において，生徒が見通しをもって学習に取り組む）
- ・小テストの実施（学習内容の定着に重点を置いてテスト問題を作る）

### 分析・研究

- ・全国標準診断的学力検査（NRT）の分析と指導の重点化
- ・学校独自の「学力に関する調査」（過去数年間の県立高校入試の問題から抜粋したものを使う）
- ・数学の基礎学力に関する調査（小学校3年生から中学校1年生の内容を盛り込んだ算数の調査問題を2年生で実施し，1，3年生も参考のため1クラス実施）
- ・SP表を作成と活用（どの学年でつまづいているかを分析し，その正答率が8割を切っている生徒への，夏休みなどを利用した個別指導（到達度に応じたプリントを作成）の実施）
  - SP表：テストの各問について正答であれば1，誤答または無解答であれば0と，それぞれ得点を与えて（生徒数）×（問題数）高得点順に並べ替えた得点一覧表にS（STUDENT）曲線，P（PROBLEM）曲線を引いたもの
- ・「学力向上に関するアンケート」（生徒向けのアンケートで，学力向上につながる指導法を研究する）
- ・諸テスト（本県の基礎学力調査・学力診断テスト・定期テスト）の活用（全体的な分析，教科部会での詳細な分析を行い，その後の指導の工夫・改善につなげる）

### 研究授業の実施

- ・ 教師全員による研究授業の実施と授業研究会の実施

### 家庭学習の指導

- ・ 「成績カード」の作成（国語，社会，数学，理科，英語の单元ごとの評価及び授業への取組の様子を保護者に伝える）
- ・ 家庭学習の指導の工夫（ノートに問題集やワークの答えを書いて自己採点し，同じページに連絡と生活の記録を書く。担任はそれを毎日点検し，コメントを書く。）

### その他

- ・ 基本的な学習習慣の指導と教科指導に当たった重点実践事項の徹底
- ・ 学校独自の「学習の手引き」の作成と活用（4月当初の全校オリエンテーションで，各教科の目標や学習の仕方について「学習の手引き」を使って細かく指導）
- ・ 各種コンクールの実施（漢字，計算，英単語等の基礎学力の定着をさせる）
- ・ 観察・実験活動の充実を図った理科学習の推進（グループの数を増やし，一人一人の観察・実験活動を充実させる。）

## 2 教育課程の編成の工夫

### 小学校

#### 校時程（週時程）の工夫

- ・ 週2回の朝の時間（8:15～8:35）「すくすくタイム」の設定（計算ドリルや百マス計算を行う）
- ・ 週4回の朝の時間（8:05～8:20）「スキルタイム」の設定（計算と漢字書き取りの復習を行う）
- ・ 20分間の「チャレンジタイム」の設定（毎週水曜日の5校時前の清掃時間をカットした業間の時間に実施する）
- ・ 「個別指導の時間」の設定（放課後に指導を行う）
- ・ 放課後「教材研究の時間」の設定（週2回，教材研究を行う）
- ・ 「ドリル学習の時間」の設定（全校一斉に5分間の学年に応じた，読み・書き・計算の繰り返し学習）

#### 評価

- ・ 学期ごとの教師の自己評価（成果・問題点・改善点を分析して，次学期の教育課程を検討するための基礎資料として活用）

#### その他

- ・ 体験活動の充実（保護者や地域の方々との連携を図り，学校農園で稲を栽培し，餅つきをして，食するまでを計画し，実行している。）

### 中学校

#### 校時程（週時程）の工夫

- ・ 「ステップタイム」の設定（月曜日の6校時に漢字，計算，英単語の復習を行う）
- ・ 高得点者の表彰（計算や英単語，漢字コンクールを実施し，表彰する）
- ・ 「読書の時間」の設定（毎週月曜日から木曜日，朝自習（20分間）の後半10分間に実施）
- ・ 学校独自の「学力向上対策テスト」の実施と活用（テスト実施は，授業で振り返り学習を行っている。また，結果を保護者にも連絡し，子どもの学習状況を把握してもらうようにしている。）

### 3 学習習慣・生活習慣付け

#### 小学校

- ・「家庭学習の手引き」の作成及び活用（低・中・高学年別に作成している）
- ・「読書に関するアンケート調査」の実施及び分析（読書活動の実態と学力の関係をみる）
- ・家庭学習の仕方，内容の書き方の指導（第3学年2学期後半より実施している）
- ・復習及び個別指導の徹底（第5学年における国語と算数の当該学年までの学習内容のプリントを作成し活用している）
- ・第5学年国語，算数の復習プリントの作成（繰り返し宿題で課し，定着していない児童には個別指導を徹底させている。）
- ・学年に応じた「学習習慣に関する指導項目」の設定（発表の仕方，話の聞き方，ノートを使い方，準備すべき学用品等）
- ・家庭との連携を図った「読書活動」「書く活動」「計算活動」の推進
- ・「学習のしつけ9か条」の設定と指導の徹底
- ・小学校と合同で「学びの手引き」を作成し，授業で活用
- ・小学校と連携しての「学習の手引き」（教科の学習の進め方）作成とその活用

#### 中学校

- ・基本的な生活習慣の指導の徹底と全校オリエンテーションの場における基本的な行動様式（学校生活のきまりとルール，通学の心得や清掃への取組など）の説明
- ・全教育活動を通じた学習への習慣付け（「授業を受ける態度」「姿勢」「返事」「声の大きさ」「発表の仕方」等）に関する指導事項の焦点化と指導の徹底
- ・教科等の指導に当たっての学習訓練の徹底
- ・生徒会を中心とした元気なあいさつ運動の推進と礼の仕方の指導
- ・朝自習後の「朝の一斉黙想」の実施（生徒会活動として行い，落ち着いた雰囲気での一日をはじめている。）
- ・「帰りの会」を充実させるための「黙想タイム」の設定（静かな状態から帰りの会を始める。）
- ・記録ノート「あしあと」の活用（家庭学習充実のため，定期テストに向けた目標や計画を立てさせ，定期テスト後には振り返らせる）

### 4 学習環境の整備に関する取組

#### 小学校

- ・基礎的・基本的な事項等を紹介する「算数コーナー」の設置
- ・学年縦割りによる清掃活動の推進
- ・児童の学習に関する作品の掲示・展示の充実（児童の作品の一つ一つに教師が温かい励ましのコメントを入れている。）
- ・清掃指導の徹底による教室，廊下等の整備（ゴミ等が全くない）

#### 中学校

- ・習熟度別指導を特別教室で行う教科に関連した掲示物の充実
- ・「家庭における学習についてのアンケート」の実施による，家庭での状況把握及び保護者への意識付け
- ・教室や廊下等に行事予定や各自の目標等を掲示
- ・「授業の受け方のポイント」（姿勢，返事など）の全教室への掲示
- ・オープンスペースを活用した開放的な学習環境づくり

## 5 その他

### 小学校

- ・ 6年間の国語科の校内研究（表現力の育成，音声言語能力の育成を中心として）の成果を生かした集会活動等の取組
- ・ 国語科学習の研究における基礎的・基本的な内容の確実な定着と読書活動や読み聞かせの推進による言語活動の充実，言語環境の整備
- ・ 学期1回の地区小中合同連絡協議会の開催による学力向上に向けた取組の検討
- ・ 中学校区ごとの学力向上プロジェクト会議（小学校も入る）の設置と活動の推進  
校長間の意見交換による児童生徒の学力の実態把握と指導方法の工夫・改善  
小中合同の「研究授業」の実施
- ・ 学力向上のための全職員体制での取組  
（日常指導推進班，授業改善推進班，家庭学習推進班の3つの班の研究実践）
- ・ 校内の学力向上プロジェクトの体制づくりとプロジェクトを中心とした実践

### 中学校

- ・ 基礎学力を「読み・書き・計算」に「聞く・話す」を加えたものと定義し，「読み」「書き」について，指導を重点化
- ・ 「学力向上対策会議」を年間3回開催（小6児童と中1生徒の学力の実態に関して，小学校と中学校が情報交換を行い，各学校での学習指導に生かしている。）
- ・ 夏休み期間における5日間のサマースクールの実施（7月までの学習内容が十分に定着していない生徒，夏休みの課題が期限内に提出できなかった生徒（夏休みの課題提出は8月20日），自主的に学習したい 生徒を対象に実施）
- ・ 学力向上に関連する研究主題の設定と，全職員の協力体制づくり
- ・ 学習指導の充実を目指した小中合同の「学力向上対策会議」（年間3回）の実施
- ・ 保護者への情報提供（定期テスト，単元テストの時期等の広報）や，家庭での学習の習慣づけ等の協力の呼びかけ

